

17 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会（市民集会）

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
平成 31 年 2 月 14 日（木） 19：00～21：00	土肥支所 4 階集会室	土肥地域 居住者・事業者 49 名

（２）プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市防災安全課 稲村課長） ●伊座利地域の事例紹介を踏まえて土肥地域における今後の取組みを考えたい	
コメント ●総括（東京大学 加藤教授、静岡大学 原田准教授、ヤスミン助教）	
話題提供 ●伊座利の未来を考える推進協議会 事務局 草野 裕作氏（ゲスト）	
全体発表	
まとめ	
閉会	

(3) 開催結果

取組状況報告

- (1) 平成 30 年度の観光防災まちづくりに関する取り組み報告（伊豆市 防災安全課）
- ・ 伊豆市防災安全課より、資料「土肥地域における観光防災まちづくり取組状況・今後の取組」及び「次年度の取組について」に沿って、平成 30 年度の取組内容と全国発信の成果が報告され、次年度の取組み予定について説明があった。主な内容は以下の通り。
 - ・ 3 地区と旅館組合の地区防災計画が策定された
 - ・ 内閣府や国土交通省のイベント、新聞記事等を通じて、全国に土肥地域の取組みについて発信することができた
 - ・ 次年度、松原公園に、平時に他の使い方ができる避難施設の検討を進めることになった
- (2) 旧土肥小学校の活用について（伊豆市 総合戦略課）
- ・ 伊豆市総合戦略課より、資料「伊豆市土肥地区 旧土肥小学校の活用構想検討について」に沿って、旧土肥小学校の活用に関する報告があった。主な内容は以下の通り。
 - ・ 観光防災まちづくりと連携しながら、旧土肥小学校を地域に貢献できる施設にしたい
- (3) 津波防災の日イベントの参加報告（土肥旅館組合 野毛組合長）
- ・ 土肥旅館組合 野毛組合長より、内閣府主催の津波防災の日イベント参加報告が行われた。主な内容は以下の通り。
 - ・ 土肥地域の取り組みについて報告を行ったところ、多くの関心が寄せられた。
 - ・ 今後は、区域指定されたからには、全国発信を積極的に進めることを使命として取り組みたい。

事例紹介

- (1) 講話「観光防災まちづくりと地区防災計画の関係性について」（加藤准教授）
- ・ 加藤准教授より、伊座利地域の紹介及び観光防災まちづくりの考え方等に関する講話が行われた。主な内容は以下の通り。
 - ・ 「防災『も』まちづくり」：目的を複合化することで、行政だけではできない隙間を地域の人たちの力で埋めていくことが重要である。
 - ・ 目指すべきは「安全・ちょっと不安」な状態。「ちょっと不安」が次の活動のエンジンにつながる。みんなで答えを創り出すことが必要である。
 - ・ 伊座利は「社会関係資本」が大きい。これを大きくすることが地方創生のポイントである。地方創生に向けて、防災、観光、まちづくり、過疎化対策も同時に取り組ん

でいくことが重要である。

(2) 伊座利地域 事例紹介（草野氏）

- ・ 草野氏より、資料「なにもないけど、なにかある！人口 10 万人の村を目指す たかが 100 人、されど 100 人の伊座利」に沿って、伊座利地域の取り組みが紹介された。主な内容は以下の通り。
- ・ 地域のためになることなら、できることは何でもやる。適当ではあるが、地域全体を課題に、戦略をもって多彩な地域維持活動を展開している。
- ・ 住民の力で地域独自の津波避難計画を A4 サイズで作成し、配布して冷蔵庫に貼ってもらっている。また、二次避難場所の使用協定を締結した。
- ・ 防災は日常生活の延長上に考え、展開していくもの。防災「も」地域づくりが重要である。
- ・ 「いざり人」：地域外に住みながら、地域への愛着心や関心などを寄せる住民を、地域を形成していく一員として位置付けた関係人口のこと。全国で 10 万人を目指している。

意見交換

- ・ 伊座利地域の事例を踏まえた土肥地域のこれからの取組み等について、加藤准教授の進行により、会場の参加者やヤスミン助教との質疑応答や意見交換が行われた。
- ・ 行政ではなく一地域の取組みであることに驚いた。伊座利地域の取組みについて、近隣地区の反応はどうだったか。
 - 近隣でも漁村留学等を行った地区もあったが、活動が続かなかった。学校を統合でなくした地区もあったが、「こんなはずではなかった」という声もあった。（草野氏）
- ・ 4 年前に土肥に戻ってきたが、女性が田舎に住んでくれない。若い姪も、同級生がいないため話し相手がいないという理由でもどってしまった。全国的な傾向らしいが、何か方策はないか。
 - 伊座利にはそういった傾向はなく、若い女性やお母さん方が同じように生活している。移住者は、子連れや若い男女など若い世代で絞り込み、面接で決めている。男性だけで移住を希望する場合はお断りしている。（草野氏）
 - 二地域居住を認め合い、それを全面に出すのはどうか。奥さんや娘さんは東京がいいなら、それでもいいのではないか。（草野氏）
- ・ お話を聞いて、女性目線が大切だと感じた。今日のこの会にも女性が少ないが、もっと参加してほしい。自分の友人などいろんな意見を持っているが、男性の中で話をするのが難しいと思っている。女性目線も取り入れられる活動ができればよいと思う。
 - 伊座利では、「女性がでしゃばってくれる内助の功」を発揮する、女性に主役になってくれるようにするのが男性の役割。それによってコミュニティのつながりが深くなる。おばちゃんたちが進化し、私とも対等な関係性を築いている。それが伊座利で

ある。(草野氏)

- 女性だけのワークショップを実施したところ、大変興味深い発見があった。女性はコミュニケーション能力が高く、情報量が多い。男性のなかでは発言しづらいが、女性だけになると積極的に発言するし、細かい前段を抜きにいきなり本題に入る。(加藤准教授)
 - ・ 伊座利に行った際にいざりカフェで購入したはがきは、子どもたちが描いた伊座利の風景だった。はがきを見るたびに伊座利での体験がよみがえり、人に紹介したいという気持ちが出てくる。いざりに来た人が「いざり人」という考え方がよい。何万人のサポーターがいて、多くの人に伝えることで持続的な地域が実現するのではないか。(ヤスミン助教)
 - 伊座利には、遊びに来た人が「いざり人」になって帰っていく「仕掛け」があった。この「仕掛け」を膨らませていくと、持続可能な地域になるのではないか。(加藤准教授)
 - 「いざり人」は、行政やコンサルの支援はなく、住民だけで作ったパンフレット。コンセプトは「ゴミ箱に捨てやすい冊子」であり、手に取って読んでくれることを目指して遊び心のあるものを作成した。住民が楽しめる、遊び心がどこかにあることを試みてはどうか。(草野氏)
 - ・ 100 人しかいないところで話し合っていくなかで、「決定」してきた方法を教えてほしい。十人十色の意見がある中で、どのようにして「決定」してきたのか。
 - 初期のころは、テーブルにたくさん穴が開いていたことからわかるように、真剣になって話し合ってきた。次第に、気づいた人が勝手に行動に起こし、それを見た人がまた別の行動をしていった。最近は、話し合いはほとんどなく、飲み会を通して伝わってきた。ただし、女性にはちゃんと説明してあげるなどの工夫が必要。それによって地域が成長してきた。全員に参加させようとするのではなく、違いを認めることで、結果的に住民全員が参加するようになる。(草野氏)
 - 厳格な民主主義プロセスを通すと、面白みが残らない。伊座利では住民の間でおそらくビジョンが共有されているので、細かい違いはあっても、それぞれのアイディアでそれぞれが行動できている。だから良いサイクルが出来ているのではないか。最初に机に穴が開くような議論をしているからこそ、できることのように感じる。(加藤准教授)
 - ・ 地域が活動を続けていくうえで、行政をうまく活用するコツは。(静岡県 貝沼主査)
 - お金はあとからついてくる。地域が自主的に活動しているとマスメディアが来て全国に紹介してくれ、行政が制度をつくりたいと相談に来て、その制度ができたらモデルとして活用させてくれる。国と仲良くなると、県、町へ話を流してくれ、国が認めているものを県も町も否定できないので、うまくいったことが 1 回あった。(ただし、そうしたことで、県の職員とは折り合いが悪い。)できるだけ外へ足を運んでいくと、行政とつながりやすくなる。何があってもいいからつながりをもとうとするといいいでは。(草野氏)
-

→ 土肥でも、区域設定の議論をすることで国が来てくれた。伊座利では、地域でかわいがられていたウミガメ研究の学生が、のちに国の官僚になって担当として伊座利に来たことがあった。(加藤准教授)

(4) まとめ

- ・ 伊座利では、地域の人たちがやる気を出すポイントは「危機感」だった。土肥も危機感をもち、同じ出発点に立っている。新しい取組みにチャレンジしていくことで、人が来てくれ、関係性を構築しながら継続的に関心を持ってもらえる地域になっていくと、地域がよくなっていくスペックを作っていけると感じた。いざりの 100 人のリーダーと同様に、今日の参加者にはリーダーとなってそれぞれがいろいろな取り組みを進めることを続けていけたらよい。
- ・ (加藤) 草野氏が 40 代くらいの頃に始めた活動が、20 年後に日の目がでている。長期的な取り組みである。

閉会

18 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会（市民集会）

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和２年７月２０日（月） 19:00～21:30	旧土肥小学校 体育館	土肥地域 居住者・事業者 ４７名

（２）プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市）	
観光防災まちづくり取組状況 ●観光防災まちづくりに係る取組み状況および津波避難施設設計の経緯 ●これまでの市民集会（R1/5/29）のおさらい	
松原公園津波避難施設の基本設計 ●松原公園津波避難施設基本設計について	
意見交換 ●テーマ①「整備の考え方等を確認しよう」	 

項 目	当日の様子
まとめ	
閉会	

(3) 開催結果

観光防災まちづくりの取組み状況

・ 伊豆市

伊豆市、海と共に生きる観光防災まちづくりをみんなで考える会、市民集会を開催する。本来は3月に市民集会を予定していたが、コロナの影響で延期した。チラシにあったとおり、松原公園に現在、津波避難タワー、複合施設の基本設計を計画中である。ただし、住民合意という部分はどうしても避けて通れないので、今回、市民集会という形で開催させていただいた。これまで土肥町は、土肥こども園、小土肥、八木沢地区に1基ずつ、計3基の津波避難タワーを建設した。これについては、住民の方の避難、1次避難地ということがメインのタワー、施設であった。今回は、これまでの推進計画、そしてみんなで考える会で言ってきたとおり、土肥地区は防災だけではなく、観光も含めた部分も検討しなくてはならない。特に松原公園には、西側にある海水浴場、夏の海水浴客の安全・安心という部分で、伊豆市でも避難のシミュレーションかけたところ、避難困難エリアができてしまったということで、津波避難タワーの建設を考えている。ただし、今まで建設した3基のようなスチール製やコンクリートむき出しの避難施設ではなく、松原公園にマッチした、松林をイメージした基本設計をしている。今夜はその内容を説明し、皆さんのご意見等にお答えしたいと思っている。それでは市民集会をこれより開催をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

・ 事務局

まず、去年の5月29日に開催した市民集会の振り返りも含めて考え方について、説明させていただく。早速、今日、見ていく資料を確認する。受付で渡したものは、全体の流れが記載されている次第、スライドA3の紙が3枚、コメントカードとなる。資料が揃っているようなら会議をスタートする。ではスライドから、初めに、地域が抱える課題ということで、人口動態の話である。今は既に明治時代と同じ人口規模だが、今後、もう少し人口減少が続くという予想がある。これは世界に関しても同じような話になる。そして、地域を支えている産業は宿泊業、サービス業で、観光が主要産業であるということが見てとれるかと思う。今回の観光防災という防災の部分として、南海トラフ巨大地震が想定されており、その地震発生から6分後に高さが最大10メー

トルの津波がこの沿岸部に来る。何もしないとその被害を受けてしまうという想定が出ている。この図自体は浸水想定を示した図になる。これに対して地域の方々に既に取り組んでいただいている、いろいろなことがある。その一つがこの第3版、観光防災まちづくり推進計画というもので、これは平成27年から皆さんと協議しながら議論を重ねて進めている。環境・観光・防災、生活環境とのバランスの取れたまちづくりを地域の皆さんの計画としてやっていくことを目的として掲げており、第3版になって、さらに進めているというところである。実際にこういったのぼり旗とか地域にはあるかもしれないが、地域の皆さんとで協力しながらみんなで進めていくということである。この計画には、全体方針としてバランスが取れた海と共に生きるまちづくり取り組み方針というものが四つ挙げられている。リスクと共生するということ。避難、逃げるということ。避難した後、生き延びるということ。そもそもの災害リスクを減らしていくということ。本日は、計画の話なので割愛するが、これを基本的な方針として計画自体を立てている流れになっている。少しだけ話をすると、ハード等の対策を挙げていることについては、皆さんのご意見を伺いながら進めており、ワークショップ等を行いながら、皆さんができそうなことを伺い、それを計画として取りまとめている。計画ができた後も、地区防災計画の作成や、小中一貫校の方々に実際に観光防災を考える機会を設け、いろいろな世代の方に考えていただけるような会も行っている。また、ビーコンというIT技術を活用した津波避難訓練をやっていたりもしている。こういった訓練も計画の中の一つの取り組みとして、土肥地域の魅力を向上し、災害時とあわせて平常時も観光客にとって土肥の魅力を向上するということについて、皆さんと一緒に行っていきたいと考え、一つの施策と二つの計画を位置付けている。それを具体的に進めてきた延長線上が本日となっている。今回考えているこの松原公園について、5月の内容のおさらいで、皆さんご存じの詳しい内容かと思うが、松原公園は世界一の花時計や、重要な施設、海もあり、飛来林もある等、いろいろ教えていただきたい。ただ一方、先ほど、津波災害の話があったが、このエリアが浸水域で警戒区域に指定されており、公園のエリアでは津波の高さが3.1から5.5と想定されているため、災害時の避難方法を強化していく地域になっており、施策を基準水位の津波でも浸水しにくいようせり上がりを含めた高さにするなど、自然災害に対して備えなければならないエリアとなっている。また、避難時には、皆さんに協力いただきながら計画を進めた各施設、避難タワーや津波避難ビル等が多くある。しかし、その中で、一部避難困難なエリアとして松原公園のエリアがあり、それを強化していく必要があるだろうというのが前提としてある。昨年5月、一年前も同じようなテーマでワーキングをしたときに、皆さんからいただいたご意見がある。今回、防災という機能が重要であるので、その機能についてまとめたが、津波からの避難タワーとか、地元観光客を含めた避難施設、非常時の節になどいろいろいただいている。その意見を踏まえると、安心して生活し、遊ぶことができる地域にするため、地域の方々、観光客の方が各海岸、公園などから円滑に避難して津波から命を守ることが可能な場所、かつ、避難したとき命をつなぐための備えがある、安全に一時滞在ができ

るような場所になるといったご意見である。もう一つ、商業・観光という観点で見ていくと、観光客が立ち寄れる施設、景観を壊さずに同化するデザイン、いろいろと出てきたが、周辺の施設の連携といったところもある。そういった観点からいくと、土肥の景観になじむデザインにして、地元特産物の販売や、さらに集客を高める目玉を作って年間を通じて観光客が訪れるような新たな施設に、というようなご意見である。最後に生活、イベントということで、皆さんの生活がより良くなるといった観点のご意見である。要は地域の方が使える場所でもあること。親子の場所、近くの夕日や景色を楽しむ場所などのご意見がある。地域の子どもや大人が集い憩う場所であるとともに、例えば地域の活動やイベントができるような公園になるというのが概ねの意見かと思いをまとめている

松原公園津波避難施設の基本設計

- ・ 加藤会長

この観光防災まちづくり、始まってから４年半、今年で５年目を迎える。この間、かなり全国的に注目されるということになった。恐らく本日も、テレビに取り上げられた方とか、いらっしゃるかと思う。最近の国の会議では、先駆的な取り組みということで、土肥地区のこの取り組みがきちっと取り上げられるようになっている。そういう意味ではこの４年半でかなり前に進んだのかと思っている。ただし、問題があって、足元を見ると既に人口は明治時代、もう江戸時代に戻りつつある。土肥地区の子どもの数は恐らく史上最低まで落ち込んでいる。防災対策でいくと、今も地区防災計画などの取り組みが行われているが、実は物理的にはさほど安全にはなっていない。ほとんど安全になってない。ですからこの地域を次の世代につなげるためには、津波に対する安全の前提を踏まえつつ、安心して観光に来てもらえる、安心して遊びに来てもらえるような地域にしていく必要がある。それは計画の中にも書いてある。その第１弾として、今回、これから説明のある、観光と防災を兼ねた、新しい施設の計画があるということ。第１弾だが、第２弾、第３弾がこの後続いていくとさらにいいので、これからの議論は、これまで積み上げられてきた土肥の歴史にもう一枚未来に向けた新しいページを作っていくというのが、今日の議論かと思う。ぜひその新しい１ページを、単に新しいというだけではなく、明るい１ページになっていくことを期待している。また、この会議は４年半前からずっと同じタイトルだが、海と共に生きる観光防災まちづくりについてみんなで考える会。みんなで考える、一緒により良いものを作り出していく、そういうタイトルで今日はまずは細かい計画、デザインの考え方を知った上で一緒に未来に向けて議論ができるといい。

- ・ 事務局

前回、津波避難複合施設というのがメインであったが、この津波避難複合施設が建つ松原公園自体をどうしていくのかも欠かすことができない議論であった。私は、公園としての計画や設計を担当しているが、その観点から公園自体をどういう方針で造って

いくつかを考え、これまでの、前回の市民集会等々の話も含めて整理をした。そのお話をさせていただく。公園のメインコンセプトとしては、土肥のアイデンティティである、景観の素晴らしさを感じる場にしたいと思っている。この公園というのは土肥を発信する交流拠点でありたいということからメインタイトルを付けた。では、この交流拠点というのは一体どのような公園にしていくのかを、1番、2番、3番という3本柱を立てた。まず1番、観光利用者、公園利用者、避難のそれぞれを踏まえた園路、広場というものをメインに考えながらものづくりをしていかなければいけない、それはメイン動線であったり、それぞれの滞留空間であったり、公園自体も空間というのは重要で、その辺りを書いた。2番、海への眺望、まずクロマツである。模型で、目の前にマツをほぼほぼリアルに作った。そのマツ、それから土肥桜をメインとした景観、植栽を大事にしていきたい、さらに駿河湾に沈む夕日を生かした景観ということで書いた。3番、土肥地区全体の魅力を高める施設であること。今回、避難施設ではあるが、それと一体となったアクティビティー施設の導入、地域へ展開するための、公園のカルチャー、ベンチとかサインとかもろもろあり、そういうものを考えたい。その中で、今回、公園自体に求められる機能というのがあるのではないかと、A、B、Cで書いている。Aについては、観光のための機能。これはそれ自体が観光の拠点になるという話もあるが、町探索のための拠点としての機能もある。Bについては、防災のための機能。これは避難時に活用できる欠かせない機能であるが、災害時だけではなく、日常から避難を意識できるような機能がこの中にあるべきだろう。Cについては、プラスアルファで導入する機能。この公園に新しくできるそのものが、観光資源になるような機能を考えるべきである。一方、ここの住人の方たちというのはすごく大事な話なので、日頃の生活の魅力アップにつながるような機能というのもプラスアルファで考えたい。そういったコンセプトでこの公園を造っていきたいというものを書いている。この広域位置図は、土肥から見える景観というのがかなり広角で駿河湾を臨み、三保の松原、日本平、牧之原、その辺りも含めて見えるだろうということである。富士山は見えないが、北岳を含めたいくつかの南アルプスの山々が天気の良い日には少し顔をのぞかせるというような非常に素晴らしい景色が海辺に合わせて展開されるというのが魅力となっている。次に、観光動線のアイデアということで、当然、町の商工会の方が作られた町歩きマップが既にあるけれど、そういうことも含めながら、公園というのはいろいろな所と連携をしながら成り立っていくというのを考えながら動線を考えていく。そして、公園、少し大きい考え方で、松原公園と土肥の金山は、ペアで観光の拠点としてはあるべきという話である。それとともに海へのルート、海岸北ルートであったり、このルートを含めて海岸南のルートであったり、それが500メートルぐらい一つのパッケージとしてあるのではないかと。一方、川をさかのぼっていった源泉巡りがあるだろうと、また、町中も巡っていくと非常に豊かな昔なりの町並みが広がっていて、そういった各ルートが公園につながっているというところを考えていきたい。景観全体の話をもう少しズームアップしたのがこの眺望位置図というもの。今回、建てようとしている津波避難タワーのある場所から海

のほうへ臨むと、日の入りの方向が1月から7月まで移動していき、また7月から12月にかけて戻っていくと、夕日がずっと楽しめる場所である。一方、対岸には三保の松原、日本平がある。振り返れば町の景もある。それは当然、後ろの山々に囲まれた谷が奥のほうにつながっていくって話もあり、ここを防災拠点として考えたときに、やはり町を俯瞰しながら常に町の防災を意識するということもつながっている。で、この場所というのは、海の景、町の景セットになっている場所だとわれわれは意識している。そういう分析を重ねながら、皆さんのこれまでのご意見を聞きながら、今、公園の計画というものを作成している。松林のトーテムポールがあるところを下りた所に建物が見える。ここに津波避難の複合施設というものを配置している。公園のイメージとしては、松林が海沿いにあり、その松林の中に抱かれながら建築があり、それと温泉プールをうまく残したいという声もあったので、そういうもので構成していく。今の駐車場の辺りは、うまく使いながら公園として来客を広く保っていききたい。ただ、今、町道が真ん中を通して南のほうへ抜けていくというラインになっている。これに関しては、一体的な利用という観点では、安心・安全というのは少し侵されるので、南のほうに町道を移動するという計画を進めている。その中で、今のこの町道には、南側の河津桜があり、入り口のほうにはメタセコイアがある。土肥桜も点在しているという状況なので、動線に関しては、公園に入っていく人たちが通るところで、そういうものを意識しながらこの複合施設に到達させるように考えている。同時に、南側の地区の人たちも、今の町道のラインを車道としながらこの複合施設のほうに到達してもらうという話で作らせてもらう。逆に今のバスの停留所のルート、こちらの人たちもこの施設へと来てもらうという話もあるので、このルートは確保したいと思っている。同時に、この浜で遊んでいる人、浜を南北へ散策するという人もいるので、その人たちがこの津波の複合施設に到達するということも動線としては考えていく。それから当時ギネスで世界一の花時計に関しては、花時計の機体部分はかなり大掛かりな機械なので、それをそのまま継承していくとなると若干難しいかもしれない。ただ、土肥の人たちにとっての誇りであり、思い出であるので、何らかの形で魅力の継承は図っていききたいとは考えている。

・ 今井先生

普段は東大の施設の設計をやってきており、観光施設について携わった設計では、京都駅の設計である。観光施設としてはよかったという意見もある。今回の建物は、普通に建っているだけではなく、津波の力をともに受けないように造らないといけない、非常に特別なので、その辺りも含めて説明したい。今日は模型を作ってきている。本来であれば模型に集まって説明したいが3密を避けることから、少し席を立てただいて、周りから建物をご覧になられると分かりやすいかと思う。補う形で、今日はCGを作っているの、CGもご覧いただきながら説明したい。これはどういうCGかというと、先ほど説明があった栈橋です。この模型で言うと、松林があって、栈橋がある。そちら側から見るとタワーがどう見えるかという絵になっている。今回、非常に難しいのは、松林との関係をどう築くかというのが建築的なテーマになる。松林

は非常に歴史もあって、大木もある。これをいかに残しながらその間に入っていくかというのは建物の設計の一番肝である。今回、いくつか大木があるので、それを逃げるように平面計画をしている。栈橋から見て松林に対してゲートができるような、そういうイメージの建物を考えている。今回、津波がやってくるまで非常に避難時間が短い。大きな津波だと6分しかない。短い津波だと3分でやってきてしまうことがあり、少しでも砂浜に近い位置に建てないと逃げ遅れる人たちが出る。今、三日月型の足湯のコーナーが松林の中にはある。あと公衆便所、そういうものがいくつか建っている、この建物も松林を1本も傷付けずに建てるのは難しいかもしれないが、できるだけ今のこの状況をうまく生かして、その中に透明な空間が浮かび上がるような。10メートルの津波が来る想定なので、10メートルのレベルまで床を持ち上げないと避難としては成り立たない。その10メートルの床が松林に浮いているというような状況をどう設計するかというのがポイントです。津波のほうから直接建物の上へ上げられる大きめの階段が付いている。階段はいろいろな所に、松林の中に宙に浮かんだデッキのように造っていきたいと思う。この中庭は、建物の真ん中に穴開けていて、それは松林の木の1本がちょうどこの位置に来るので、逃げる位置に建物を建てているという状況です。最上階はオープンテラスになっていて、エレベーターも付いていて上がってこられる。屋上に家具とかも並べて、オープンキッチンとかも用意して、ある種ビアホールというか、最上階なので少しサービスもできるようなものもあってもいいかもしれない。その下の階が、メインの階になる。ここには物販とか、飲食とか、そういうものも考えられるし、何しろここは海の風景が素晴らしい場所なので、それが感じられるような施設になると思う。最上階は松林が非常に近くに見える特別な場所になるので、かなり観光スポットとしては魅力のある場所になるかと思う。この建物、ガラスのスペースと、その最上階の屋上が避難の中心の場所であるが、いつも10メートルの津波が来るわけではないので、普段は2、3メートルの浸水とかが一般的だと思い、そういうのも避けられるように途中階の空間が用意されている。外部空間だが、この部分というのは大体7メートルぐらいある。2階建て分の吹き抜けになっているので、台になっている上の部分というのは、ここの屋外席とか、少しリクライニングできる場所ということで、砂浜から上がってきて少し一服できるような場所になると思う。1階に関しては浸水するけれど、普段は物を売ったり、サービスできたりするような施設になるかと思う。今日は具体的に施設にどういうのが入るかは決めてきていないが、建物としてはこんな形で、大木を避けながらうまく間に建てていくということ。これはゲートになっているので、広場側から見ても、こんな形で松林の中にゲート状のものができて、もちろん松の木とか生えていて、その間を行って海のほう、栈橋のほうに行けるというようなルートが、松原公園から伸びるような形をイメージしている。建物の規模は避難の要件から大体決まっており、今回、1200人ぐらいの避難をこの建物でカバーしなくてはいけないということで、1人当たり0.5平米というのが決まりである。600平米の10メートル以上の床、これが避難の要件になるので、建物の規模は大体それで決まってきているということである。

意見交換概要

●テーマ①「整備の考え方等を確認しよう」・テーマ②「これからの土肥の話しよう」

・ 参加者①

設計段階で建物の強度は持つと思うが、外部的な力、例えば建物の周りにマツの木があり、建物の中にマツの木がある。東日本と一緒に、津波が来た時に木の力が加わった場合、建物はどうか、そこまで設計の強度に含まれているか教えてほしい。

・ 今井先生

この建物の構造は少し特別な構造をしている。具体的には組み柱といって、柱は、模型ご覧になられたかと思うが、ジャングルジムみたいな、いくつかの柱を束にしたような柱で全体を支えている。1本や2本折れても大丈夫なような組み柱にしている。漂流物として、車とか、コンテナというものが流れて建物に激突することも想定し、ある程度対処する意味で周りの外周部の構造が少しやられても建物が倒壊しないような設計になっている。

・ 参加者①

柱が数本で束ねているということは、考え方としては、例えば10本の束ねた10本のものは一つと一緒にですね。

・ 今井先生

いや、ここの4本でジャングルジムみたいに、横のはりとかも組み合わせながら、これで1本の柱です。1本折れても大丈夫なように、全部鉄骨でできている。だから外力についてはいろいろ想定してそうになっている。

・ 参加者①

マツの木だとビーバーのような加工でダムみたくなると思う、横に来たときに。

・ 今井先生

それは大丈夫。

・ 参加者①

大丈夫ですか。それからもう1点、世界一の花時計が見れない。

・ 事務局

世界一の花時計を見たいという話はあると思うので、このマツの木をうまく残しながら、一部はやはり選定をかけていかなくてはと思っている。なので、実際に工事が始まる時に、できるだけ見えるように少しその辺りを調整しながらやっていきたいと思っている。

・ 参加者②

基本的なことについて聞きたいが、津波の高さが10メートルという分析がどうかということ、それからこういう所は段になっているから、回り込んでくる波、直接直撃的に来る波、川に入り込んで堤防乗り越えてくる波、複合的な波があって、三

角波的にかなり 10 メーターじゃ済まない波が起きると思う。その辺の高さや、波の強さの分析はどうなっているのか。

・ 原田副会長

津波の話だが、シミュレーションをかけるときに土肥の地形を細かく考慮して、公園の中でどんな波ができるかというのを細かく検討している。その結果、10 メートルぐらいの高さといったところが見積もられていて、それに耐えられるような避難できる場所を造りましょうというところで 10 メートルという設計の条件になった。

・ 事務局

そういった津波の挙動を前提に、今、設計しているというところ。

・ 参加者②

建物の強度だが、ガラスはどんなものを考えているのか。津波の衝撃波というのは非常に強力なので、ガラスにもろ津波のスピードと、石が交ざったようなものがぶつかってくると金属でも突き破ってしまう。

・ 今井先生

そういう意味ではそれに耐えられるガラスを付けるつもりはない。基本的には避難のレベル、これは 10 メートルよりも上のレベルで考えているので、その部分に関してはもちろん通常にガラスを入れる。ただ、それよりも下については当然破られてしまうという前提で設計している。だから、外壁も全部流されるし、この足元の部分、物販の部分は浸水したらそれはやられてしまう、という前提で造っている。

・ 参加者②

下のほうとは、2 階が含まれるか。1 階はだめだろうけど。

・ 今井先生

2 階は外部なので流されるものはなくて、内部化しているのは最上階の部分だけ。

・ 参加者②

部分的に割れるだけでもみんな大けがををすると思うので、絶対割れない対策を考えて、大きな開口よりも小さい小割りの窓にするとか、そういった発想を変えなくてはいけないのかもしれない。

・ 加藤会長

ガラスが張ってあるフロアは、避難するフロア。

・ 今井先生

避難して 10 メートル以上の所には大きなガラスは入っている。それより下の所は外部ですし、1 階部分は物販に使っていただける空間だが、ここはあまりガラスは入れていない。

・ 加藤会長

だから水に浸からない部分についてガラスを使っているってということだと思う。

・ 参加者③

設計の前の話だが、これはいつ頃、完成させたいとか、そういう全体のスケジュールは

どうなっているのか。

- ・ 伊豆市

防災安全課のほうから全体のスケジュールは、今年度、基本設計、でき次第、実施設計を今年、来年辺りで書いて、その後の工事は2カ年をかけて実施していくような形を現在は計画をしている。ただ、まだ合意形成的なところがはっきりしていないので、あくまでも現時点での計画であり、今後についてはこれからという形になる。

- ・ 参加者④

今日ここで私たちが言いたいこと、1点は、できれば設置場所に松原公園を外してもらいたい。なぜかという、今ある松林というのは昔から散歩コースで静かなたたずまい、何もない、人工的でもない、そういうところを楽しむ外部の方が結構多い。そこにこういう人工的な建物を建ててしまうと、もうそれ自体、景観が壊れてしまうと思う。なぜそこへ持ってきたかいろいろ説明聞いたので、大変素晴らしい計画だと思う。だからこういう施設の建設とか、こういう計画については全く賛成だが、もうちょっと他の場所でできないか。例えば駐車場の裏側に芝生の広い所ある。あそこに建てる分には何も僕は反対しない。なぜ木を切つてまでそういう人工物をあそこへ持ってくるのか。あまりにちょっときれい過ぎというか、机上のプランのような気がする。本当に土肥の人たちがそういうものを望んでいるのかと思う。そういう点でぜひもう一度、もうこれはここへ造るという前提で話し合いするのはちょっと待ってほしい。例えば現在の松原公園にボーリングの機械が置いてあり、もうあそこへ造ると、なんの話し合いもないのだというふうになってしまう。もうちょっと考えて、もうちょっと市民の生の声を聞いて計画を進めていってほしい。

- ・ 伊豆市

先ほどパワポでも見ていただいたとおり、松林の中、それも海側にしたのは、まずは避難困難地域が発生したということから始まっている。これは見ていただいたとおりシミュレーションをかけていなくなるようにしていると。まずは住民側、こちら、南側、矢印が付いている。そちらの住宅地、それと夏の海水浴客、観光客対策という形で今回、計画をし、どこが最適かというところから始めている。確かに松林の中ということになりどうしようかという部分があった。ただ、計画を作る段階で観光防災まちづくりということを前面にうたっており、その関係で、松林と調和した環境、景観等も含めて計画をさせていただいた。これまでの避難タワーだと、ただスチール製、コンクリート製のものを造ってしまうという形だったので、それでは今回の松原公園の中ではマッチしないと。先ほど芝生の端のほうにという話もあったが、そちらのほうへ松原公園の中でそういうものをまた造ってどうなのかなということもあり計画のほうをさせていただいた。特に松林の中ということで、今回、松林の中の調和、松林との調和ということをもまずは第一にさせていただいて計画のほうを進めさせていただいたところである。

- ・ 参加者⑤

設計を始める前の話だと思うが、海際に建つ避難塔の宿命として誰が海のほうへ向かって逃げるのだということがある。つまり、逃げてそこで避難できるという安心感が得られるかどうかということ。避難場所の安心感が得られるかどうかというのは、2次避難にそこがつながっているかどうかということが大事なので。この場合、孤立系の施設を建てると、どれだけ下のほうに逃げるか分からないが、そこから2次避難はそれに代わるものを何か考えてほしい。つまり、安心感のない所に人は避難しない。これは当たり前。それがまず1点。それから、マツの林というのは、歴史と、それから住民が守り育ててきたもの。土地はいくら使ってもお金を出せば買えるが、ここの場所にあるマツはもう生き返ることない。そういうことから考えると、この場所で今のこの施設が成り立つものなのかどうか。私が今言った2次避難に対する安心感がどこかで得られるのかどうか。それから今まで培ってきた自然を傷付けずにできるものなのか。そのことをきちんと解決してからでないといこの話はやらないと思う。私どもは、避難場所が必要だということに大賛成だし、どうしても欲しいと思う。けれど、この場所にこの施設を造ることが本当にいいかどうかということについて言えば、私は全くナンセンスだと感じる。最初に地図を見させてもらったら、丸い円が描いてある。とりでか何かがあるぞと、こういうもので津波から市民を守るつもりなのだと勘違いした。大自然の脅威に対抗して造るものは大体見た感じで安心感がないとどうしようもない。花時計は世界一だと、土肥で持っている世界一はそれだけだと思う。だからなくさず継続したい。だったらそれも含めてもっと大きい避難施設を造ってその中に花時計を置く。今の丸い円形になっている花時計の土地というのは広い。それをいくら広げたいとしても、松林を削るような必要はない。そしてその避難タワーは見た目もしっかりしている。場合によっては、今、避難所は二つ、造っているようだが、例えば二つ目はもっと高く、例えば10メートルとする。そして安心感、そこは安全ということで次の避難も可能であるというようなことを考えながらやっていけば、可能な計画だと思う。今のやり方ではもう全くナンセンスと思う。ぜひその辺も含めて検討してほしい。いつできるのか、来年にも着工するのか。

- ・ 伊豆市

来年着工というのはまずそれは確定ではない。

- ・ 参加者⑤

2次避難が考えられない。

- ・ 加藤会長

2次避難というのはどういう意味でお使いか。

- ・ 参加者⑤

2次避難というのは、一時避難をする。そこも危険かもしれないから、もう少し、例えば山であればもっと上へ行くとか。

- ・ 加藤会長

土肥で想定されている津波は6分ぐらいで大きい津波がくる、だから時間との勝負であ

る。津波避難で二つ目が大きい。最初の波が一番大きいという計算されていない。

・ 参加者⑤

だから逃げる必要ないと。

・ 加藤会長

逃げなくてはいけないということ。短時間で津波に漬からない所まで逃げなければいけないという状態。

・ 参加者⑤

だからそれは1次避難しているわけで。なおかつさらに山の場合であれば上へ逃げるわけで。

・ 加藤会長

でも、山まで行く時間がない場所が・・・。

・ 参加者⑤

いや、山がいいと言っているわけではない。ここがもう孤立しているのだから、そういう宿命があるわけで、ただ、人が逃げるにはやはり安心感、信頼感を頼りに逃げる、そう思わないか。安心が得られない所に逃げるか。

・ 加藤会長

安心感がない所には住みたくないし、遊びに行きたくもない。

・ 参加者⑥

二つほどある。いわゆるこれは海に来た海水浴のお客さんが無事に逃げられるということとここへ造っていると思うが、海水浴のお客さんはこの辺では7月、8月だけで、あとは秋、冬は観光のお客さんが時々散策する程度である。地域の住民や、南側の民宿や住民は、果たしてここへ逃げてくるのか懸念される。民宿辺りからマリンホテルのほうは、ホテルの上のほうへ逃げると思うが、北側の松原公園に近い人はどうなのかと。たった2カ月の間の海水浴のお客さんのためにここへ造るのか、少しでも地域住民のことを考えるのであれば、もう少し駐車場のほうへ上げてもいいのではないか。景観のこともあるが、やはりあれだけ太いマツの木がたくさんあるので、2階からの景色はあまり魅力ないのではと思う。それから津波のことを考えると、歴史的に、1498年に東海地震があって、津波で戸田から松崎まで大きな津波が来て、対岸の住民に津波の被害があって、30世帯ぐらいが山の上に逃げたという歴史がある。それから安政元年11月、南海トラフの地震があって、下田にいたディアナ号が傷付いて戸田沖で沈没したという歴史がある。1498年のときは8月25日で、夏の終わり頃だが、必ずしも夏には来るかわけではなく。八木沢とか小土肥はだいぶ山のほう、上のほうに設置したのに、ここは海水浴のお客さんだけのことを考えてここへ造るのか、少しでも住民の方が、近辺の方が逃げられるようにお願いしたい。マツの木が1本でも2本でも残っていれば、その分、津波が来て、少しは防壁になるのでは。その上にある民家もその波が少し収まるのでは。前回の松島の大きな地震も、あそこは小さい島がたくさんあるからあんまり被害がなかったという話で、やはりマツの木は1本で

も2本でも多く残っていたほうがいい。もう一つ、少し南のほうに行った所に鈴木管工さんという所があり、その横に防災無線のポールが立っている。工事のとき見たが、1メートル掘ったらもう砂地で水はどんどんどん出てくるような所であるので、ここは大きな地震があると液状化するのではないか。砂地なので、建物としては強いかもしれないが、傾く可能性はあるのかなと、そういう意味でもう少し上のほうがいいかと思っている。それから、検討委員会の中になぜ消防団長さんが入ってないのか。たまたま土肥の方が伊豆市の消防団長をやっているので、今日も来ているが、やはり検討委員会の中に、特に防災関係でそういう人を入れたり、あるいはこのエリアの分団長も検討に入ってもらったり、まだまだ機会があるので、ぜひその辺を検討お願いしたい。

・ 今井先生

この場所にした理由は、観光客、海水浴にいらしている方々が逃げ遅れるわけで、建物を上げるのに2、3分使ってしまう、10メートル上がるのに少し時間がかかる。砂浜から避難して、かつ、安全な所まで行ける時間を計算すると、ここでもぎりぎり逃げ遅れる人が出るか出ないかぐらいの位置になっていて、これ以上、内陸部に移動してしまうと、避難困難域そのものをカバーできなくなってしまうという状況がある。

・ 参加者⑥

では、小土肥のほう、やはり砂浜に、土肥より少ないが観光客、海水浴客が来たり、釣りする人も来たりする。そこはだいぶ上のほうに造ってあるが、その辺がいまひとつ解せない。ぜひその辺を検討願いたい。もう一つ、いわゆる商業施設として、2階は活用するという事で、前に川勝知事が来たときに、こちらのほうの中から提案でありがとうの地場産品が非常に好評であるということで、松原公園の所に商業施設ができたかなと言った方がいる。川勝知事は、「それは大いに結構です。できるだけ協力しますよ。」というふうな話を聞いているので、ぜひその辺も。漁協だとか、しいたけ産業だとか、それからありがとうの店長さんも委員の中に入っているので、そういう人たちが入って、商工会関係まで入っての検討委員会だろうと思うので、再度検討願いたい。

・ 原田副会長

簡単に説明しておくと、今回の土肥の所は、海岸線が小土肥と比べると浜の距離が長い。逃げる場所までの距離が小土肥と比べると、小土肥の場合は海岸から真っすぐ奥のほうに逃げられるが、この場合は横方向に少し斜めに逃げなくてはいけないので、位置が海側にないと時間がないだろうというところである。

・ 参加者⑥

今、斜め後ろのほう、10メートル、20メートルぐらい下がった所に観光船が置いてあり、そこは駐車場にもなっているが、そこも含めてやれば。国道側のほうへ入れば、近くの住民が、そこへ取りあえず逃げようかとなるのではないか。この場所は再考できないのか、もう決定なのか。図面は非常にうまくできているが、やはりこの形を生かしながらどうかと思う。

- ・ 伊豆市

小土肥については、あの避難タワーは、海水浴客は収容数に入っていない。あそこは地元住民のみ、あと民宿があるので、宿泊施設の収容人数を対象とし、100人収容となっている。海岸については、防潮堤まで距離があるけれども、横に逃げられるということになっている。土肥については、山側から下りる避難、これはあまり想定されていない。松原公園の芝生にいる方々の海側の方が避難対象になる。なぜなら、津波がきたとき人間の感覚として、海側から山のほうへ逃げるとというのが基本になるので、山から海のほうに逃げない。土肥については、津波到達時間が非常に短い。6分で防潮堤を越えてくるという想定になっている。この想定は、6分間逃げられる時間ということではなく、地震発生からの6分なので、何分揺れているかによって逃げる時間が非常に短くなってしまう。3分揺れていれば逃げている時間は3分ということ。そのこともあり、芝生の奥、道路側のほうは想定できなかった。海岸線の道路の交差点の所については、向こう側の芝生の駐車場のスペースで、すぐ向かい側にマルトさんの建物があり、そちらは津波避難所という形にさせていただいている。だったら海岸の人はそこまで行けるのではという話になるが、それもシミュレーションして、そこまで行けないということになった。土肥の場合、防災だけではなく、観光も成り立たないといけなないので、2カ月かもしれないが、そこに来ている観光客の方々に安全・安心を与えるとなると、やはり海側で、ここなら避難できるであろうと。特に避難タワーこれについては、一時避難地になるので、とにかく命を守るという施設を造ろうということ。商業施設については、小土肥、八木沢のようにコンクリの建物があるだけだと普段使いがほとんどされていない状況になる。今回、松原については公園の中にあるので、コンクリート、スチール製のものは建てられないと考えていた。また、津波の到達時間が非常に短いので、海側の所に建てざるを得ないということでやらせていただいた。

- ・ 参加者⑥

それは分かるが、やはり観光を考えたときに、観光防災ということで、今、使っていないが、駐車場南端に観光船が置いてあり、あの辺は国道から近いから、観光のお客さんも商業施設が2階にあれば非常に目に付くのではないかな。やはり土肥は土肥桜が1月の中旬ぐらいからと期間も長く、お客さんも2階からお茶飲みながら桜が見えたり、あるいは真横にあるマツの木よりも少し離れた所から、マツの間から海が見えたりするほうがまだ開放感があっていいと思う。たった2カ月の海水浴のお客さんのことではなく、ぜひ周りの住民の避難ということ、税金使ってやるわけなので、伊豆市の税金でもあるわけだから、そういう意味で住民が少しはそこに避難しようかという所へ造ってほしい。住民の方が、松林の中へ逃げていくのかということとどうかと、少しでも国道に近ければ少し曲がって避難するのではないかなと思う。

- ・ 伊豆市

市道が松林の中にあるので、そちらのほうは避難路として整備をしなければいけないと考えている。表通りも道路が非常に狭い部分があるので、そうすると堆積された道が

どうなるのか、まず地震で揺られてブロック塀が倒れたりすると後ろへいけないということも考えられるので、そうなると避難タワーの所も一つの避難先になると。一応、算出方法として使ったのが逃げる時間で、健常者で 1 秒 1 メートルと計算されているので、30 メートル後ろに行くだけで 30 秒。もう避難できなくなってしまう。その関係で海側という形になってしまったということ、その部分だけはご理解いただけたらと思う。

・ 参加者⑦

1 点確認というか、私の考えを含めお伺いしたいことがある。ここのモデルですが、温泉プールがそこにある。この建物を造るためにここに生えているマツの木、これは何本ぐらい犠牲になるのか。それが非常に気掛かりで。恐らくこれだけの建物を造ることになると、2 本や 3 本の本数ではなかろうと勝手に思っているが、私は生まれも育ちもこの土肥の町で生まれ育ち、子どもの頃からこの松林の中で遊んだり、生活をしたり、いろいろなことを過ごしている。私にとっては、恐らく皆さん町の人もそうだと思うが、この松林の一本一本のマツの木は土肥町、旧土肥町の宝であり、宝石なのです。また、良き伴侶でもある。いかがでしょうか。皆さん方の伴侶の奥さんなり何なりが、ご家族の方が、これを切られたとしたら、やはり非常に慙愧に堪えない思いだろうと思う。そういうことで私はこの避難タワーを造ることについては大賛成で、ぜひ造っていただきたい。ところが、課長さんの話はよく理解できるのだが、ここの場所だとどうしてもマツの木をカットするようになる。それはいかがなものかと。200 年、300 年の昔から、先祖から引き継いだマツの木です。私どものこの世代は次の世代へこのマツの木を引き継がなければいけない、そういう役目も持っていると思う。そういうことで、もう一回ご検討をいただけないか。最後に 1 点。この中に 1 本マツの木が立っている。非常にマツの木一本一本を大切にしてくれているなという気持ちは持つが、見方を変えると、このマツの木で目先を変えている、逃げに回っている、といった変な気持ちで受け取る人もいるかもしれない。その辺もお汲み取りいただいて、ぜひもう一回再考していただけないか。

・ 事務局

まずマツの木を何本切るのかというお話。それに関して 2 種類話があり、これまで、恐らく昔からマツはあそこにあったという、『土肥の巨木・名木』という教育委員会が作られている本があり、そこに松原公園には 100 本近くのマツが植えられているという話がある。それで、われわれは松原公園のマツの本数を全数数えた。恐らく 50 年とか、100 年とかの単位で植えられているものに関して、確かに 95 本ある。その 95 本に対して、伐採するであろう本数は、工事の関係で 1 本、2 本、3 本前後するが、今、9 本という数字が出ている。100 本に対して 9 本というのがだいたいのところである。もう一つ数字があり、補植で植えられたであろう細い木や、勝手に生えた木というのが 200 本ある。それも含めると、先ほどの 9 本、大体 10 本ぐらい、あと 40 本ぐらいの細い木を切るという数字である。

・ 参加者⑧

土肥の避難タワーに関わった者として、避難タワーは先ほど言われたとおり 1 次避難で、とにかくみんなで山にいくと。ただし、どうしても間に合わないというときに、避難タワーにいくと。そのときに、10 メートルが想定だと、さらに 4 メートルあるから、14 メーターあるからこれ以上高くできないということでもっと高くしていただきたいが、想定が 10 メーターということで。あと屋根を造ってと言われたがそれもできないということで、今回、複合施設ができるということで大変いいと思った。ただ、この前のときにもやったが、基本的にここは避難タワーだから、海にいる人をどう逃げさすかというのが避難タワーとしては問題だと思う。それだけではもったいないということで複合施設が出てきが、それを聞いたときには、マツの問題と、それからもう一つ、海岸から逃げるときどこがいいか、今の場所はいきなり言われたが、この津波からの避難というと、特定避難という、そこから見ると、先にある南のほうに建てたほうがむしろ逃げやすいのではないかと感じた。

・ 事務局

今、シミュレーションというか、お配りしている資料というのは、当然いろいろな施設、現行の施設で避難できる範囲を引いていった際に、その残ったエリアがカバーできるように建てられた津波避難施設で、南とか例えばそういった所の議論は当然カバーできる前提で考えているし、避難距離をなるべく短くということと、海側のところがひとつシミュレーションで、結果としては、あくまで見ていただいているのは、今ある避難所とかを引いていった場合にどこが残るかというものを示している。では避難のための、どれぐらいで避難できるとかそういったところの避難施設というのではなく、今、現状の避難できる施設が引いていった場合にそこが避難困難エリアになる。

・ 参加者⑧

いる人たちが避難しやすいということ？

・ 事務局

はい、避難の位置としては、もちろん今の建てる位置によって、北側の場所もカバーしているエリアにはなる。

・ 参加者⑧

南にあるよりも北のほうがいいというわけか。

・ 事務局

そうです。南はどちらかというとマリンホテルとかそういった所である程度カバーしているが、北側が今、施設としてカバーできるようところがなかなかないと。

・ 伊豆市

北側の、先ほどの範囲だと、粹松亭さん側に逃げるという想定を立てている。ただ、橋があるので、地震時に橋がどうなるか分からず、そうすると、どうしても北側もカバーをしなくてはということで北側につくっている。

-
- ・ 今井先生

今、ここにタワーがあるが、このエリア全体をタワーでカバーしようという。

- ・ 参加者⑧

そこは海水浴客が多い所か。

- ・ 今井先生

そうです。

- ・ 伊豆市

旅行客が風呂上りにビールを飲むところとして大江戸温泉さんより赤い旗が、避難が大丈夫というのよりもタワーのほうが近くなる方もいらっしゃるので、そちらの方は直線になっているが、矢印のところ、それより下の方なら大江戸温泉さんよりタワーのほうが近いということは出てくるので、それで人数のほうを赤くエリアを出している。

- ・ 参加者⑥

松原公園の前の海岸は、砂利の海岸になっていて、そのすぐ南側、いまプールのある南側の所に小さい小川があり、それから南のほうはずっと砂浜になっているので、ほとんど海水浴のお客さんはそちらの砂浜のほうにいる。明治館のほうまでずっと砂浜になっていて、そういう意味では、小さい小川を渡って、プールの所の脇をあがってくるのかと。砂利の多い方は海水浴のお客さんはあまりいない。そういう意味で、もう少し南、要するに小さい小川渡ったほうの所から段を造って、そこから松林を渡って、今の南側の駐車場のほうへなら行くなれば行きやすいのでは。

- ・ 参加者⑨

今回のこの津波タワー、いわゆるオレンジゾーンに指定されたためには、町民に対して丁寧に、分かりやすく、かつ慎重にやろうとなっている。それが、検討会ないし分科会というのか、過去に3回しかやっていない。たった3回。しかも1回が2時間ぐらい。2×3=6時間。最初の会合のときは、役員と役割付け、それから自己紹介で終わった。2回目、3回目、トータルして4時間で土肥町百年の計を語られるか。皆さん集まったのは、土肥を愛する、土肥は心配だ、津波が心配だ、子どもを守るんだ、自分たちで守るんだ、こういう気持ちで来ているのではないか。この会合、皆さん集まった中でこれでもうOKなのか。ここは追認機関なのか、教えていただきたい。

- ・ 伊豆市

追認機関ではない。最初に申し上げたとおり意見をお伺いさせていただきたいと。

- ・ 参加者⑨

ということは、今回のこの会合で終わりではない？

- ・ 伊豆市

はい。先ほど言われたとおり、丁寧に慎重にやっていかないといけない。

- ・ 参加者⑨

こんな大事なことがあったら、皆さん力を合わせて、知恵を絞ってやりましょう。自分の

町ですよ。今、ここにある設計図、結構だ、私もいいと思う。ただし場所が悪い。300年でも400年でも続いたマツの木、これを話によっては何十本か切らなくてははいけない。いいのか、これで。あるときは防風林になったり、高波を避けたり、オゾンで冷をとったり、オアシスのいい所になっている。そういうことの中で、この土肥町の将来を決するようなことを短時間でされては困る。もう一回この場所を見直していただきたい。すぐ隣に市有地がある。やれ遠いとか言っても、いざ津波となればそのぐらいの距離感なんて関係ない、命が大事だから。今日、実は陸前高田の防災課へ電話した。ある方が応答してくれたが、5万本のマツがあることによって巨大な被害が救えただろう、少しは役に立っていると。強烈な津波は来たが、辛うじて言わせてもらえれば、マツのおかげだと言っても過言でないと。私がお願いしたいことは、この素案でなく、市役所の跡地、今、駐車場になっているあたりを中心にして考えたら、もっといいアイデアが出るのではないか。あそこの前は相当の車が走るの、津波タワーも目につきやすい。また、海水浴客が駐車場へ止まって見上げるのに、今の所では見えない。マツの木は天然記念物であり、あれだけのマツを育てるには何百年かかる。20本や30本切る、とんでもないことだ。大層なマツ、大きなマツを切って命のやりとりができるのか。この津波タワーはノーだ。やる所は、136号にある市有地の空地。それと、津波タワーを造るときに一緒にドッキングさせてこのありがとうを共存してみないか。1次産業、第2次産業、第3次産業、これがドッキングしてやる。分科会のメンバーを決して批判するわけではないが、1人でも大勢の人がこの土肥の百年の計を立つ案を作って、みんなで議論をし、ここへ持ってきていただけないか。

・ 伊豆市

まず会議の開催については、今日1回で終わりではないということ、そちらのほうは検討させていただきたい。会議は丁寧に、慎重に、今後も継続させていただきたい。場所については、移転ありきという形ではなく、メンバーとかも入れて、また検討をさせてほしい。また同じ場所になるかもしれないが、変わるかもしれないが、それはしっかり検討をさせていただきたい。そして商工のメンバー、防災のほうと検討させていただければと思う。

・ 参加者⑩

今後もこういう集まりをやるということなので、これだけの皆さんが集まっているので1人でも多くの方に発言をしていただきたい。進行係の関係の行政のほうについては1人の発言に関しては3分位内、こういうことを限定で物事を進めないと皆さんの意見が反映されない、その点、気を付けていただきたい。次に、先ほどこの計画の場所に関して、マツの木は何十本と話が出たが、もう一度再度確認です。計画では9本です。ね？

・ 事務局

今の段階では9本。直径0.5メートル以上が9本で、0.5メートル未満も含めると全部で51本。

・ 参加者⑩

分かった。先ほどからマツの木、建物、場所と話がいろいろ出ているが、報告はあるのか、説明はあったのか、私はこの会合に全て出ているわけではないのでよく分からないが、肝心の地質、随分海のほうにあるが、地質のことはどうなるのか。防災となると地質の検査をしたのかどうなのか。地震で、地質を無視して建物をたてても防災のためにならないが、その点は、やったのかやらないのか教えていただきたい。

・ 伊豆市

地質調査については、建設場所のボーリングはまだ済んでいない。八木沢と同じようにボーリングはやる。近いところで、粹松亭さんへ行く橋の所で、静岡県がボーリング調査をしたものはある。ただ、建設する場所でのボーリングはちゃんとする予定。

・ 参加者⑩

いずれにしろ、今、計画している場所に地質検査もせずに、議論するのはおかしい。地質検査をして駄目だったら元も子もない。最後に、旅館組合が今、経営している、花時計の前、橋の所にありがとうという店がある。その計画が出たときに、私は、観光地として松原公園辺りの空いている行政地の中に、1階をありがとうの店舗、2階を飲食店、3階を防災の避難所の施設、こういう3階建ての物事で計画をしたらどうかと、7、8年前に提案をしたことがある。本日、施設に関してはほぼ私が提案したのと同じような感じがする。場所のことはいずれにしろ、地質のことも含めて、この計画を何とか実現してほしい。やはり観光地としての防災、そして観光業の発展、直売所としての農業、漁業の振興、いろいろな面から含めて、ぜひ実現していただけるよう皆さまのご尽力に期待をする。

・ 今井先生

地質に関してはもちろん調査する。現状、近くのボーリングのデータを参考にして設計しており、くい長さで、大体46メートルぐらいのくいを打つことになるだろうというところは想定しながら設計している。46メートルぐらいの支持地盤、そこまでくいを打つつもりです。

・ 参加者⑪

実務的なことでもう少ししっかりやってほしいことを言う。一つは議事録かなにかは出して、少なくとも土肥の方だけには全部に配るとか、そういったようなことを明らかにしてほしい。それからQ&Aみたいな形で一つ一つの質問、あるいは疑問符の付くような文節、言葉について、一つ一つ回答する資料を作してほしい。それをみんなに配った上で、また必要な、重要な抽出すべきような意見についてはアンケートを採るとか、みんなの意見の一致を図るべく努力をしてほしい。その上で集会を持ってください。それから今、コロナウイルスの関係で地域の旅館業の方も非常にあえいでいる。この地域は防災観光のまちづくりをしっかりとやっていて、土肥はいい所ということアピールできるようにするためにも、みんなが大事にしたいと思うような施設を造ろうではないか。ぜひみんなからの意見をもっと集めるようにしてほしい。私もありが

とうへよく出店をしているが、ありがとうはお客さまと対話ができて本当にいい雰囲気がつくれる。そういう店、大事にしたい。ですから、いろんな話し合いは面倒でしょうが、市のほうでも費用とかはそんな極端にかかるわけではないので、いい建物ができれば十分お金は戻ってくるので、ぜひお願いしたい。

- ・ 伊豆市

議事録についてはしっかりと取っている。各戸配付については回覧という形でさせていただいている。集会に来られた方については個別で出させていただいたり、なるべく多くの方に参加していただくように、今後もしていきたいと考えている。皆様のご意見、こちらについては、意見を集めてまた議論の場をつくらせていただきたいと考えている。今後ともよろしくお願いいたします。

避難タワー建設（案）模型



（４）まとめ

- ・ 原田副会長

今日の議論をきっかけに皆さんの意見を聞きながら進めることになるのではないかと
いった印象。もちろん皆さんいろいろな意見があり、今日お話を聞いた中でもそれぞれの非常に力強い思い、みんなで考えようという意見があった。ですので、この土肥の財産になるような、地域の宝を増やすような取り組みになるよう工夫をしていくことが重要なのだと。もちろん今回検討しているものというのは、津波が来るかもしれない、だが逃げる時間がどうしても足りない、そういった場所が土肥の中にある、そこ

を何とかする、というのが大前提としてある。命をどうやって守るか、これはやはり考えておかなければいけない。その上で、土肥の宝、財産になるものを一緒に考えていく、これが一つの答え、方向性だと思う。今日、全ての方から意見をいただけたわけではないので、またいろいろな形で意見を集めながら、いろいろな考え方を集めながら、継続してこの土肥の地域というのをどのようにしていくのか考えてくれるといいかと思う。具体的な模型があると皆さんもイメージが非常にしやすかったのではないか。この模型のところを評価いただいたという意見も非常にたくさん出てきた。ですから、具体的な意見をいろいろ出していただけるとより良くなるのかと聞かせていただいた。今後も土肥の安全性、これはやはり高めていくべきことなので、皆さんのご協力をいただけるといいかと思う。

・ 加藤会長

先ほど、百年の計という言葉が出た。そう思って4年半前からこの観光防災まちづくりの記録が始まっている。今日に至るまでの間にこの話題に関して3回、これに至る推進計画というのは第3版まで出ている。第3版まで至る過程で何回ぐらいやったのか。恐らく数え切れないぐらい議論を重ねて推進計画の第3版までいっている。大勢の方がこれまで議論をぶつけ合ってきて、その推進計画に基づく第一のプロジェクトとしてこれまで3回議論をしているという経緯である。今回、本来は3月にやる予定であったが、コロナの関係で4カ月延びて今日になった。その間、設計作業を止めるわけにもいかなないので、設計作業は進んだ。そのギャップで今日は議論が紛糾してしまった気がする。今日も全ての人が意見を言うことはできなかったが、ある程度共有できたものはあるかという気はしている。先ほど、百年の計という話があったが、観光防災まちづくりの最も重要な共通の目標は一体何かというと、100年土肥の地域を残すこと。今のペースでいくと100年残らないかもしれない。その前に自然消滅が来るかもしれない。今、そういう危機的な状態にあるというのは推進計画の議論の最初の段階で関係者数名と協議した。100年残すためには防災だけではなく、基幹産業である観光、それも盛り上げていかなければいけない。観光と防災両立させていこうという計画は実は日本で初めて。だからこそ今、全国的にもこの地域が注目されているのだろう。観光業を振興するためにはどうしたらいいのか。安心できる、津波が来るとしても、津波に襲われると想定されていたとしても安心して遊びにこられる観光地をつくるということが必要条件になっている。その必要条件を満たすものとしての第1弾のプロジェクトが今回のプロジェクトである。観光も防災も両立させることで、100年後、土肥の地域がまだ元気でこの地でもって存在しているということを目指しているというのは今日の参加者、あるいは土肥の住民の方、共通の目標だろうと、これが一つ。二つ目は、松林。今日は松林でかなりもめている雰囲気があるが、肌感として、そんなにもめてないのかなとも思う。松林は土肥地域において、景観としてもそうだし、文化的な財産でもある。大変守るべきものだと思う。一本一本を守るという意見もあれば、うまく他の防災の問題に絡ませて総合的に判断して、松林の景観

をきちっと残していくという宣言もあったと思う。松林を次の世代にきちんと継承する、ただ、細かい部分、佳境に入ると若干皆さんの間でレベルの差はあるかなという気がしている。最後、位置については、一長一短あると思う。上のプランだと道路側から見えにくいとか、マツの木のやや太い木を9本ぐらい切らなければいけないとか、そういったデメリットはある。だけど、安心できる観光地、安心できる海水浴場というものは実現できる。場所であるから、別にどこでもいい、どこでも建てられる。ただし、それぞれの場所、それぞれの一長一短がある。そういうことを総合的に考えた中で、今回はこの辺がいいだろうというプラン。多分別の案を出せば、またその別の案についても別の一長一短がある。ですから、その辺りは今後ひとつ丁寧に議論しながら、100年先、土肥を残すということの一つの柱として最後はこれが無難だと一つに決める必要がある。

以上

19 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会（市民集会）

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和２年１０月２３日（金） 19:00～21:00	旧土肥小学校 体育館	土肥地域 居住者・事業者 51名

（２）プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市）	
観光防災まちづくり取組状況 ●観光防災まちづくりに係る取組み状況および津波避難施設設計の経緯 ●これまでの市民集会（R1/5/29、R2/2/6、R2/7/20）のおさらい	
松原公園津波避難施設の基本設計 ●松原公園津波避難施設について（加藤会長）	
ワークショップ ●テーマ「災害に対して安全で持続可能な松原公園とするための評価の視点を考える」	
発表・全体討議 ●グループ発表 ●意見交換内容を踏まえ、施設設計における地域住民の優先度について全体討議	
まとめ	
閉会	

(3) 開催結果

ワークショップの成果

表 ワークショップの成果 (A 班)

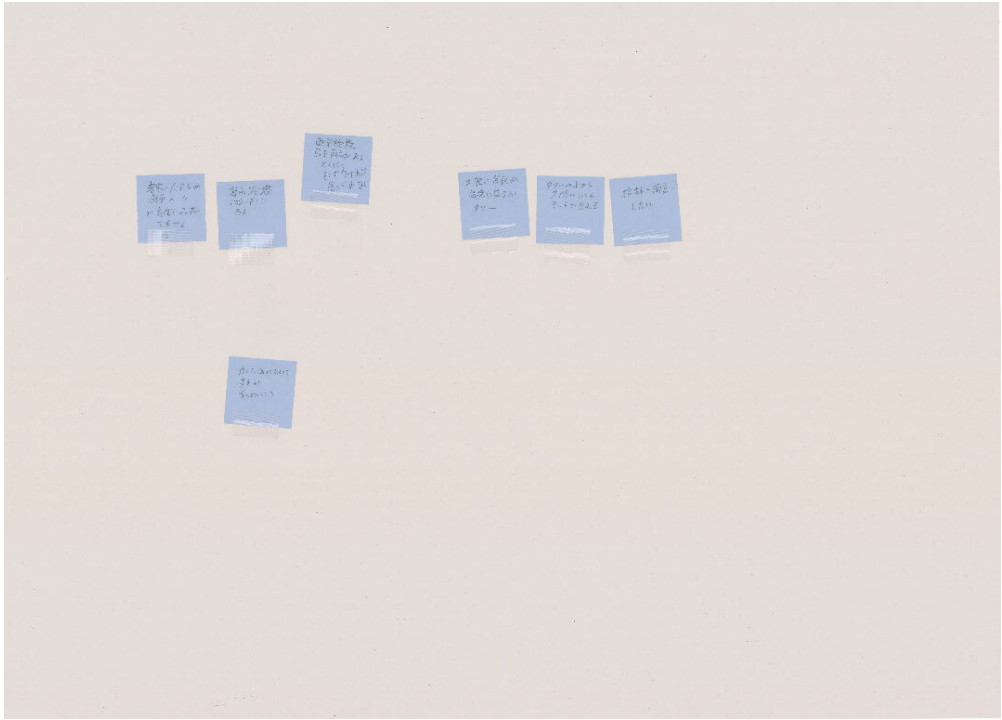
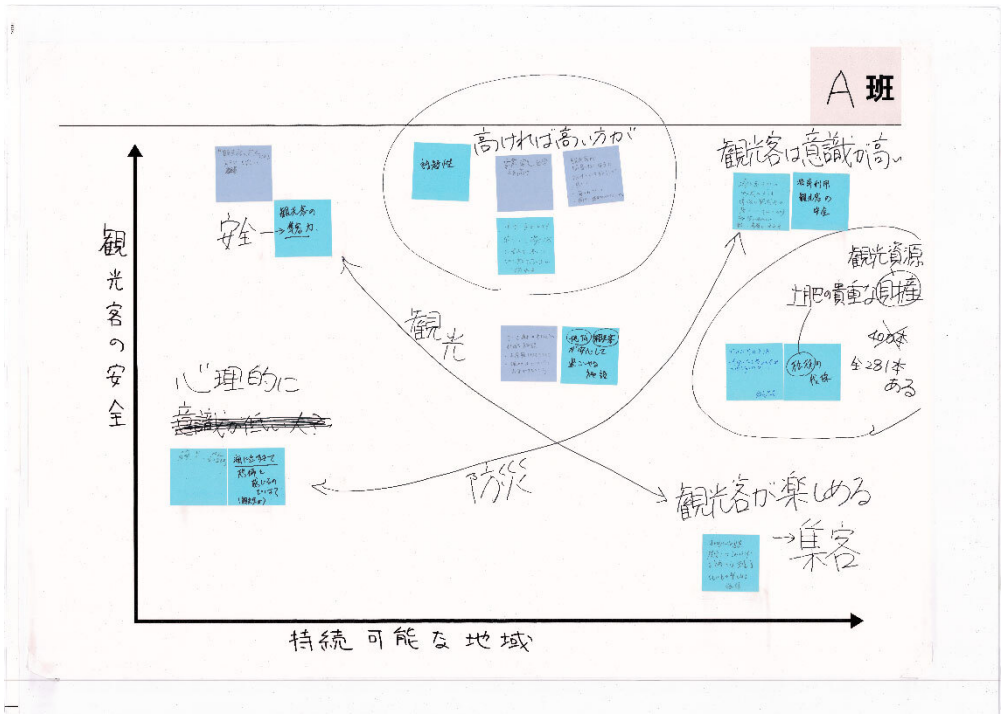
班	WSの成果
A 班 ①	
A 班 ②	

表 ワークショップの成果（B 班）

[illegible]

表 ワークショップの成果 (C 班)

班	WS の成果
C 班 ①	
C 班 ②	

表 ワークショップの成果 (D 班)

班	WSの成果
D 班 ①	The mind map 'D' is organized into five main branches, each with multiple sub-points written on sticky notes: 地域への合意 (Agreement with the community): - 地域住民の意見を取り入れる - 地域の歴史・文化を伝える - 地域の魅力を伝える - 地域の魅力を伝える - 地域の魅力を伝える 利用 (Use): - 地域の歴史・文化を伝える - 地域の歴史・文化を伝える - 地域の歴史・文化を伝える - 地域の歴史・文化を伝える - 地域の歴史・文化を伝える 避難 (Evacuation): - 避難経路の確保 - 避難経路の確保 - 避難経路の確保 - 避難経路の確保 - 避難経路の確保 母親・眺望 (Mother/View): - 母親・眺望の確保 - 母親・眺望の確保 - 母親・眺望の確保 - 母親・眺望の確保 - 母親・眺望の確保 景観・地域性 (Landscape/Local Character): - 景観・地域性の確保 - 景観・地域性の確保 - 景観・地域性の確保 - 景観・地域性の確保 - 景観・地域性の確保
D 班 ②	The graph 'D 班' illustrates the relationship between '観光客の安全' (Tourist Safety) on the vertical axis and '持続可能な地域' (Sustainable Community) on the horizontal axis. A dashed line represents the '持続可能な地域' (Sustainable Community) path, with points labeled: '避難' (Evacuation), '景観・地域性' (Landscape/Local Character), '母親・眺望' (Mother/View), '利用' (Use), and '地域への合意' (Agreement with the community).

表 ワークショップの成果 (E 班)

班	WSの成果
E 班 ①	観光商業 - 観光客の安全を確保する - PRを大切にする - 多目的な利用で施設を有効活用する - 商業エリアを活性化させる - 観光客が安心して滞在できる環境を作る - 南郷を観光地にする 環境 (EPA) - 自然環境は大切だが、安全を確保する必要がある - 観光客と自然環境との距離を近づける - 防犯カメラを設置し、安全を確保する - 得られた収益を環境保護に活用する - 新築した施設は環境に配慮する - 新築した施設は環境に配慮する 防災 人命 - 人命優先 - 防災意識を高める - 避難経路を確認する - 防災グッズを備える - 防災訓練を実施する - 防災意識を高める 次世代 - 次世代へつなぐ生活環境 市民生活 - 新築した施設は環境に配慮する - 新築した施設は環境に配慮する
E 班 ②	E 班 観光客の安全 持続可能な地域 観光商業 防災 人命 環境 (EPA) 市民生活 次世代

表 ワークショップの成果 (F 班)

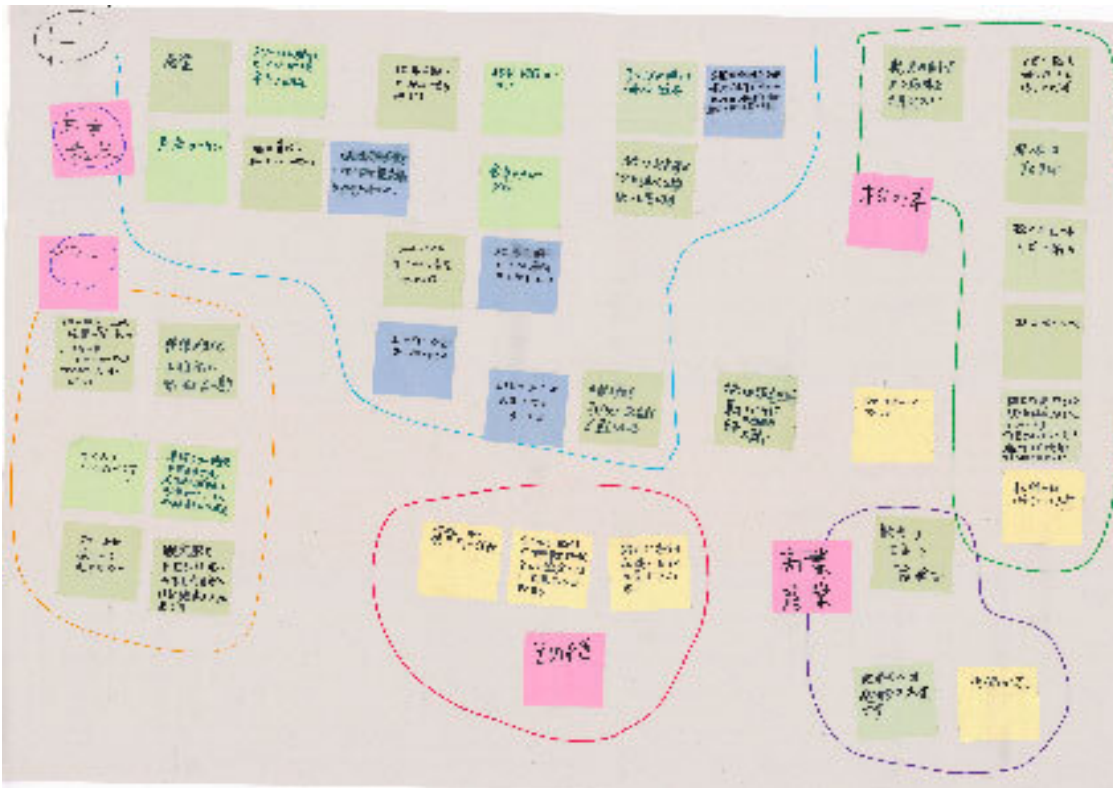
班	WSの成果
F 班 ①	 The image shows a large sheet of paper with a workshop result for Class F ①. It features a central cluster of sticky notes in various colors (green, blue, yellow, pink) connected by dashed lines. The notes contain handwritten Japanese text. There are several pink sticky notes with circular diagrams and arrows. The overall layout is a complex mind map or flowchart.

表 ワークショップ成果で出された評価の視点に係る意見（分野別）

項 目	評価の視点に係る意見 ※（ ）内は班名、下線太字は“観光客の安全性”、“地域の持続性”の両評価軸において高評価とした班名
防災	・ 防災、人命 (<u>E</u>) ・ 避難 (D) ・ 避難の時間 (<u>B</u>) ・ 避難タワーが海から見える (<u>B</u>) ・ 避難タワーが広く安心できる (<u>B</u>) ・ 利用者への PR (B) ・ 安全、安心と思える高さ (A) ・ 観光客が間違いなく安全に逃げられる施設が良い、海から近い、周りには建物がないところ (A) ・ 海を知らない地域の人は津波の警戒心が強いのでそれをなくす施設があればいい、新しい客層がふえる (<u>A</u>) ・ 海岸利用観光客の安全 (<u>A</u>) ・ タワーは芝生広場がよい、松原の風景は一朝一夕にできたものではないので大事にしたい (F) ・ 津波が来ても山の方へ行く方が良いと思う (F) ・ 津波タワー建設は望みません、人命救助は必要です ホテルや旅館の活用を (F) ・ 観光客のためには良いかもしれませんが地元の人はあまり (F)

観光・商業	・ 観光、商業 (E) ・ 昼間の利用 (C) ・ 防災と商業の両立 (C) ・ 商業利益の面 (C) ・ 商業の面の場所 (C) ・ 利用 (D) ・ 海に見える眺望 (B) ・ メディアへの PR (B) ・ 経済性と観光資源 (B) ・ 観光地の新しいシンボル (B) ・ 安全→観光客の集客力 (A) ・ 高ければ高い方が 話題性 (A) ・ 高ければ高い方が 小さい子がいても安心して海水浴に来ておいしいものを食べて思い出が作れる (A) ・ 子ども連れの方などが休める施設、お昼寝 (子) 出来る所、親の方はコーヒーなどお茶ができる所 (A) ・ 地域、観光客が安心して過ごせる施設 (A) ・ 観光客が楽しめる→集客 子どもには遊具、若者にはショッピング、お年寄りには温泉等、誰でもが楽しめる施設 (A) ・ 食堂 (F) ・ 魚店がほしい (F) ・ タワー内の施設としては地場製品の販売 (F) ・ 観光施設があればよいと思う (F) ・ 松原公園は土肥の一番の所です (F) ・ 土肥は人口が少ないのでもっと観光方面に力を入れたい (F) ・ 休憩施設がほしい (F) ・ 食事処が少ない (F) ・ おいしいものが食べられる食堂があればいい (F) ・ 松原公園にもっと食事をする所がほしい (F) ・ 子どもの遊べる遊具 (F) ・ 公園のまわりに子供達が利用出来るブランコ、スベリ台、鉄ぼうなどがあると良いと思います (F) ・ 小さな子供達をもっと遊べる物がほしいと思います (F) ・ 土肥にもっとゆく所がほしい (F) ・ 土肥の魅力は松原の松と夕日です (F) ・ 土肥の夕日もすばらしい お客様が見てくれる (F) ・ 土肥は海があるから夏はいいけど、その他の目玉が欲しい (F)
市民生活	・ 市民生活 (E) ・ 地元の人も安心して避難できる (B) ・ 観光客と共存できるようにしたい (A)
自然環境	・ 環境 (松) (E) ・ 松を残す 一本も切らない (B) ・ 松の木を植えかえる (B) ・ 松を残す 数本きるのはしかたない (B) ・ 観光資源、土肥の貴重な財産 (松の木 全 281 本ある) 松の伐採は反対、津波タワーを隣地の空地に造る事をしてほしい (A) ・ 観光資源、土肥の貴重な財産 (松の木 全 281 本ある) 松林の伐採 (A) ・ 観光の目玉である松林を大事にしたい (F) ・ 公園の松は切らないでほしいです (F) ・ 松の木をそのままに (F) ・ 松の木を切らない様に (F) ・ 松を切らないで (F) ・ 観光防災作するため大切な松木切るとはなたいです、防災タワーはどこに作る 場所はどこか考え、まだわかりませんが (F) ・ 松林のばっさいは反対 (F)

アクセス	・ 駐車場に近い (D) ・ 海に近すぎて恐怖を感じるのでは？ (観光客が) (A)
事業性	・ 工事、維持 (C) ・ 防潮堤の整備 (C) ・ 松の整備 (C)
その他	・ 次世代 (<u>E</u>) ・ 防災教育 (C) ・ 避難の面の場所 (C) ・ 景観 (C) ・ 景観 地域になじむ (D) ・ 景観 海の眺望 (D) ・ 代替地 (B) ・ 津波に伴う誘導灯の設置 (F) ・ ホテル、旅館が避難施設として協定されている表示を周知する (F) ・ 釣人が安全に釣場におりれる道があると良い (F) ・ 観光は大事な産業だ (F) ・ 地元の人々は売物に大変です (F) ・ 物価が高い (F) ・ シニアカーがほしい (F) ・ 地域の意見を！ (C) ・ 地域の合意 (<u>D</u>) ・ 広い住民意見 (B) ・ はんたいです (F) ・ タワー反対 遠いので近づけない (F)

発表

A 班

WSをやってみて色々なところに付箋が貼られている。チャートのどちらに来るかの整理もした。観光に重点を置き観光客を呼ぶようなものを作ろうとすると、安全度が下がってくるなど、相反するところが出てしまい両立するのは難しいと感じた。

その中でも 2 つ特色的なところがあった。まずは、松林は、土肥の貴重な観光資源であり、その資源の現状を把握し、守るようにすることで両立して行ける道が見えるのではないかという意見があがった。もう一つの特色としては、今回の避難タワーは全国でも初めての試みであり、なんでも出来るとすれば、出来るだけ高い施設を作ることによって安全にも寄与し、高さなどが注目され、人々の興味も惹きつけ観光客も増えるのではないかと、というのが A 班のまとめとなる。

B 班

実は意見が 2 つに割れ、未だに割れている。

松の木を 1 本も切らないという意見と。もう 1 つは、題名の「海と共に生きる、観光防災まちづくり」を考え、観光客を助ける施設をつくる、そのために海から見える場所につくる、津波が到達する前に避難できる海の近くにつくる、という意見。今回、候補地にあがっている場所には温水プールがあり、0 才から高齢者まで利用している場所であるが、地震が起こり、津波が来る前に避難しなければとなった時、0 才児を抱えて母親が逃げ切れるのか、膝が痛い高齢者が逃げ切れるのかと考えても、すぐに避難できる施設が温水プールのそばに出来るということはとても意味があると思う。

また、観光という観点からも松原公園の素晴らしい夕日を見ることが出来る、インスタ映えするなど、話題の観光スポットになるのではと考えられる。そう考えると先日の候補地はよいと思う。松の木を 1 本も切りたくない、減らすなどなのであれば、切った分を別の場所に植えるということも考えられる。粋松亭の近くにドックラン等も作り、その場所を第 2 松原公園とし人々が憩える観光スポットをつくるということも考えられる。

先人が松の木を植えたのはなぜかと考えると、自分たちのことを考えたからではなく、50 年先 60 年先の今の子供たちのこと、未来のことを考えたからであると思う。その思いは引き継ぎながら別の形で残して行くべきだと考える。それは、松の木を 1 本も切るなということではないと思う。

重要だと感じたのは、個人的な考えではあるが、松の木を切って新しい施設を作ろう、観光名所を作ろう、避難タワーを作ろうなどを考えている人やそれを反対している人がいる中、案をまとめるのは大変だが、こういう話し合いを持つことはいいことだと思ったことであり、この会を続けていってほしいと思った。

C 班

「観光客の安全」と「利便性と持続可能な地域の発展」という 2 つの方向性を考えてみた。その両方に関係するのが防災と商業の両立であると言うこと、その中で松の木についても防災になるので残すべきであるという意見がかなりあった。また、防潮堤の整備についても意見が出た。

そして、防災教育も大切であること、商業の利益を考えるとや景観を考えると地域の発展に繋がり観光客も喜んでくれるのでは思い、大きなウエイトを締めると考える。

駐車場まで波切から急ぎ足で行けば、1 分半で避難できることは実証済なので建設候補地の案としていいのではという意見も出た。

補足だが、防災教育というのは、従業員に対しての教育ということ。

D 班

5 つの項目があがった。1 つは地域の合意が必要ということ。地域住民が納得する内容であるということが大切である。利用することを考えると住民やお客さんのことを考えた施設であること。観光資源になりうる施設であること。避難ということで考えると観光客に安心感を与える施設であること。それから、景観ということだと夏だけではなく一年中使える場所であること。また、地域になじみ松原公園に溶け込むようなものであること。

観光客の安全としては避難、持続可能な地域としては景観あるいは商業が重要であるとなった。最終的には、安全と持続可能な地域として観光客が安全だと感じられるものであり、地域になじみ松原公園の松となじむことが大切な要素であり、地域との合意形成が必須であるということである。

E 班

観光は何だろうと考えると、それぞれの地域の特色はあるものの、やはり自然環境や今あるものを大事にしていくということが一番基本的な考えだと思う。観光客や土地の人の命を守る事は大事なことであり、この様な施設を作るとは必要だと考える。ただ、海岸からすぐの場所に建設するために 300 年も経つ松やその他 40 本強の松を切ってまで、あの場所に施設を作る必要があるのかという疑問がわき、松を切らずとも施設を建てる適地が他にあるのではと思った。地域の思いとしては松の景観は残しつつ、命を守る施設は必要であるということ。

F 班

商業施設、タワー、松の木、産業、その他、と大分類した。

商業に関しては、お店が少ないので増やしたい。子どもと一緒に遊べる環境の整った食堂・休憩所。タワーについては観光客のためにはいいかもしれないが、地元の人にはあまり好ましくない。松の木は切りたくない。その他では、ホテルや旅館が避難所として協定しているので活用してほしい。という意見が出た。

→内藤：私はこの市民集会には何度か参加しているが、F 班の参加者はほとんど初めての方が多く斬新な意見が多かった。よく聞かれたのは、普段の生活視点が多く、商店が少なく買い物に困っているということ、地元の産業が欲しいということを補足する。

(4) まとめ

全体討議

・ 加藤会長

今回の集会でもいろんな考え方があり、総合的なバランスを保つことが大切であると感じた。いろんな視点があり、こちらを取ればこちらがおざなりになるようなこともある。両方がいいところで納めていくということはとても大切なことである。そういう意味では、いろんな多様な視点があってバランス感覚が非常に重要だと考える。

もう一つは、松は土肥にとって極めて重要な資源であるということも共有された。ただ、松について議論を深めていくと、松は極めて重要であり、保存し次の世代に残していくべきものであるという考えは共有しているようだが、その残し方については発表の中でも松は残すべきであるという意見から松はまったく切るべきではない、松に触ってはいけないなど意見に隔たりがある。それが大きな対立のように見えてしまう。松についてもう少し理解を深めたいと思う。松が津波を弱める効果があるという話もあるが原田先生が詳しいので願います。

・ 原田副会長

松があると津波の威力が少し柔らかくなるという話もある。ただもうひとつ考えなくてはいけないのは松が津波と一緒に流れて家を壊すということである。松があるから安全だと言い切れない。津波が 3～4 m の時は、松が津波を和らげてくれることがあり、それを超える津波の高さだと松は津波と一緒に流れ、被害を大きくすることがある。実際に 2011 年の東日本大震災時には仙台や陸前高田ではそのようなことが起こった。限界があるということは知っておいて欲しい。

・ 加藤会長

松は常に人が手入れをすることで、あの形を維持している。常に変わりながら、あの形が維持されている。管理が必要である。ただ、そのあたりは詳しくないので次回に詳しい方に情報共有をしていただき、みんなで理解を深めていきたい。

自然の松は私も素晴らしいと感じている。先ほどの発表で次の世代のために植えると話していたが、世代を繋ぐとても重要な要素だと感じた。そういう意味でもこの集会の

大きな目標であるこの地域を次の世代に残していこうという意味での象徴的なものになると感じた。

また、別の意見で切った分だけ植えればいいといった、新しい発想が出てきた。この意見には賛否両論あると思うが、新しく松を植えた場所を次の世代の新たな観光資源にしていく。そういう新たな発想もあり得ると感じた。

また、新しい景観を作り出すということ。商業機能だけが観光資源ではなく、土肥にしかない新しい景観を作り出していく。その一方で、松の今の景観を保存していくこと、その両方がありえると感じた。これもまた選択をしていくことになると思う。

・ 原田副会長

皆さんの意見をお聞きして、これが正解でこれが絶対やらなくてはいけないことだというような答えはたぶん出てこないと感じた。ただ、皆さんがどういう風にやっていきたいのかということは、今日作成していただいた WS の表を見ることで見えて来たのではないかと感じる。その中で、何を優先すると決めることは難しいところである。観光も防災も重要だということは皆さんが思っていることだと思うが、それを実現するために何を選択し、具体的に何をするのかを案として出していただいたと思う。これを基に具体的に何を考えたらよいのかを、また引き続き皆さんで議論し、地域でどんな選択が出来るのかということを進めていき、その中で松をどうやって守っていくのか、またはどういう風に利用していくのか、公園としてどういうようにしていくと観光地としてもっとすてきになるのか、安全性が高められるのかなど、話が出来ると思っている。

・ 加藤会長

設計するにあたっては、これから設計チームが改めて提案すると思うが、先ほども話したようにすべての視点で 100 点満点採るような設計は世の中には存在しない。全体のバランスを伺って考える必要がある。その中で先ほどの話に出た松を残すという話と、1 本も切らないというのは相当違うことである。1 本も切らないとなると設計の制約がかなり掛かり、他の目標が達成出来なくなる可能性もある。もちろん切りたくないという気持ちは理解出来る。それで 1 本ならいいとか 2 本ならいいとかという話し合いも出来るが、1 本も切ってはいけないというのはかなり厳しい。そこで皆さんに考えていただきたいのだが、今回の場合 2 つの必要条件があり、1 つは持続可能な地域にどう繋げていくか、未来に繋ぐためにどう発展させていくかを考える。ただ放っておくと津波が起きる前に過疎化で自然消滅してしまうかもしれない。松を一本も切らないということは、この地域の持続性にどう繋がっていくかを考える必要がある。そのポイントをしっかり考えてクリアに出来れば、松を一本も切らないという選択もあり得るかもしれない。ただ、そうするには、すべての人達が納得するような説明でなければならない。松を全部切るということはある得ないが数本は切らなくてはいけないかもしれない。ぜひ次回の市民集会で、地域の持続性にどう繋がっていくかをお話いただければと考えている。

- ・ 参加者

最初に先生が言っていた、防災タワーが必要だということは皆さん理解できていると思う。場所については、色々意見がありますが、私の意見としては松をなるべく切らずに、なるべく安全な場所という2点がポイントだと思う。

- ・ 参加者

市として、防災タワーを含めて商業施設を作るということをどう考えているのかを聞きたい。県の方もいるので、県の方では防災タワーと商業施設をマッチングさせるということで、国も含め補助金はどう出るのかを知りたい。

- ・ 加藤会長

現在、国交省も応援体制になっている。観光局から出る補助金は、住民のためだけの避難タワーの場合で鉄骨製のみとなっている。観光客のために、となると条件的にハードルが上がる、まして商業施設もということはあることである。あり得ないことなのだがこの4年半の皆さんの活動を見て、何とかその条件の通そうという動きになってきている。

- ・ 榊原（県庁・危機管理部）

タワーを作る時のお金の出し方についてだが、国もこの土肥は観光防災のトップランナーと認識している。これからこの計画が具体的に固まって来た段階で、観光面、防災面の割合をはっきり出し、その結果で国が出す金額が決まってくるので、タワーが出来た段階で国が補助金を出すということになっている。

- ・ 参加者

市の方もどの程度その辺を認識しているのか。位置のことではなく、防災と商業施設を併設するといっているが、商業施設の面が検討されていないようなので観光課として具体的にどう考え進めてあるのかを知りたい。つまり防災課とどういう協議をしているのかを知りたい。

- ・ 鈴木課長

現在は、この集会を通して皆さんの意見を聞き、具体的にどういう商業施設にしていけるかを検討している段階である。

- ・ 参加者

具体的には固まっていないのか。

- ・ 加藤会長

観光と防災を併せ持った施設にするということは決まっている。観光と防災を1つの施設建てたことは今までにない。そして国は土肥のためにお金を出そうということを考えてはいないし、できれば少ない金額にしたいと思っている。ただ、今のところはトップランナーとして、特別扱いをされている状態である。この状況は県が頑張った結果ではあるがこれからプランを詰めていく段階で、凡庸なものを提案してしまうと、今の応援体制もそれなら従来の鉄骨避難タワーでいいのではないかということになってしまう可能性もある。定型の行政の仕事ではなく、前例のないことなので、市役所の方も県も相当の努力が必要になると思う。

- ・ 参加者

最後に確認ですが、松を 1 本も切らないということを設計条件にするのかどうかという話ですが、持続性に繋がるのであれば、1 本も切らないということもありうるというお話をされていましたよね。

- ・ 加藤会長

皆さんがそれに賛同したらという意味で言った。

- ・ 参加者

もちろん分かっている。今回ここでは多少でも松を切っていいということを、皆が了承した訳ではないということを確認したい。私は、個人的には 1 本も切らない派である。そういう人もいる、切ってもいいという人もいる。ただ、松を切ってもいいという結論ではなかったということを確認したいと思う。

- ・ 加藤会長

おっしゃる通りである。いろんな選択肢があり、それを形にしようとするより更にいろんなことを考えなくてはいけないことになる。もし設計士だとすると悩むことになると思う。

そうして繰り返し案を出し合うことで、だんだん形が絞り込めるようになっていくというのが設計の作業となる。本来はこういうプロセスで議論したかったのですが、前回もお話しましたが本来は 3 月に開きたかったが、コロナの影響もあり設計の方が先行してしまったということです。なので、一回もとに戻して、今回いただいた様々な意見のバランスを考えて、もう一回設計チームが位置とか形とかを詰めていくことになると思う。

- ・ 参加者

前は音調が悪かったため大きな声を出してしまったが、今日は良かったのでありがたかった。

私は松を切るのは反対である。そして、私なりに 3.11 の被害を受けた大槌町、気仙沼市、女川町、大船渡市、南三陸町、陸前高田市の防災課に電話をしていろいろ聞いた。死者が大槌町は 1,100 人以上、気仙沼は 12,000 人、女川市は 800 人、南三陸町は 618 人、行方不明がそのうち 221 人、陸前高田市は 17,600 人というデータがある。次に聞いたことは、御町は津波タワーを作りますか？だが、「まったく考えておりません」と言っていた。それを聞いてはたして、この土肥町に津波タワーを作ることは是が非なのかと根本的に考えさせられてしまった。この市町村の職員が言ったことは、津波タワーを作る費用があったならば、10 何メートル以上の高地に一目散に逃げるのが一番だと言っていた。今あげた市町村はすべて津波タワーを作らないとはっきり言っていた。

もう一つですが、オレンジゾーンの建設費用だが、市議員に聞いてもはっきりとは分からないので、だいたい幾らぐらい掛かるのかアバウトでいいので教えてほしい。オレンジゾーンの全体的な考え、コンセプトは単に津波タワーだけではなく他のものも作るのかどうかも知りたい。

令和元年 10 月 21 日から分科会が始まった。翌 2 年の 2 月、同年の 4 月 10 日に 3 回、分科会をやっただけで、これだけの大きなものを作ってしまうのは意識に反する、乱暴で拙速だと私は思う。皆さんはどう考えるのか。

・ 加藤会長

少しコメントする。一点目は多分に誤解が含まれているので訂正したいと思う。先ほどの被災地域は津波が押し寄せる場所には人は住まずに、高台に移転している。つまり避難タワーを作る必要や場所がないから避難タワーを作っていないということ。土肥のように、想定する津波が来た場合には、浸水するとされている市街地はすべて津波避難タワーを作ることを考えている。長期的に考えれば被災地で行っているような高台に住み替えるということが選択にあるとは思いますが、それが 5 年 10 年で出来るかという、現実的な考えではないと思う。

オレンジゾーンについてはいろんなコンセプトとか運動が生まれてくるということで、その第一弾が今回の避難施設である。この次はどんなことがありえるのかという質問だと思うが、こういうところに魅力をさらに追加することで条件がそろえば次のプロジェクトが生まれるのではないかと期待している。

20 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会（市民集会）

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和２年 12 月 23 日（水） 19:00～21:00	旧土肥小学校 体育館	土肥地域 居住者・事業者 50 名

（２）プログラム

項 目	当日の様子		
開会・挨拶（伊豆市）			
評価の視点の共有 ●前回の市民集会（R2/10/23）振り返り、評価の視点の共有			
施設の具体化に向けて ●松原公園津波避難複合施設建設位置検討委員会の設置について ●検討委員会委員の紹介 ●今後の進め方			
質疑応答			
意見交換 ●テーマ「これからの土肥の話をしよう」			
まとめ			
閉会			

(3) 開催結果

質疑応答

- ・ 参加者①

タワーができる場所が階段ではなく中にできる場合、防災に関する通路、避難通路の幅は決まっているのか？

- ・ 加藤会長

いまはつきり何とは言えないが、避難タワーの定員は 1200 人である。定められた時間、つまり津波がくるまでの間に、津波がこない高さまで滞りなく避難できる幅が必要である。施設の階段の幅、通路の幅、それから周辺の環境の避難に使う空間の幅は必然に決まってくる。設計においては、必要に応じてシミュレーションをして検証する予定である。

- ・ 参加者②

今回の避難タワー設置については、国土強靱化のプランの中に含まれていると認識している。この土肥地区は、地元で確実な避難をしてその場に備える津波対策を考えている。多くの所では大きい堤防を造り、また他の地域、浜松市では海岸沿いに 100 k m 程の長い堤防を造り景観が壊されて海が見えない状況になっている事例があり、土肥地区に見習えとなっている状況もある。期限がある中でも住民と議論するべきことについては、しっかり議論するための時間は確保できるのか？

- ・ 野毛委員長

第 2 回、第 3 回の検討委員会を開き、現地の確認、位置の決定を行う。第 2 回は 1 月中旬予定で、現地視察後に会議を行う。第 3 回は 1 月下旬予定で、第 2 回の会議を踏まえて再度議論し、委員 15 人で位置を決定する。議論するための時間という意味では、決定するにあたって時限があるが、それに向けては検討委員会ですっきりと議論していく。

- ・ 参加者②

住民の中で意見の分断、意見が大きく分かれて分断する、というようなことがないように十分配慮して進めていただきたい。

- ・ 野毛委員長

委員 15 人の中でも意見を集約すると、分断する部分もあるかもしれない。そのためにも公正公平な 15 人のメンバーを選んでおり、それについては大いに議論をしていく。

- ・ 伊豆市

この事業については国・県・市の予算をつぎ込んでいるため、後ろにずらすことはできない。検討会を 2 回、3 回と、しっかりと時間をかけて協議をしていくと聞いているので、ご了解をしていただきたい。

意見交換概要

●テーマ「これからの土肥の話をしよう」

・眺望についての意見

・ 参加者③

土肥地区は西海岸であり、西海岸の魅力は夕日である。例えば西伊豆町のように、夕日を強調するような施設、駿河湾を超えて静岡市、清水市、焼津市、島田市、と静岡が見えるような眺望の施設を、西海岸という魅力を活用するように検討してもらいたい。

・避難タワーの規模、構造、空間についての意見

・ 参加者④

避難タワーの規模や構造が不明なため、2 階建てとか 3 階建てとかの空間の想像もできないので、構想を具体的に説明してもらいたい。例えば幼稚園の所にある避難タワー位の規模だとか。その規模によって、空間の活かし方に対する考えが変わってくる。

・ 伊豆市

規模について、収容人数約 1200 人を予定。既存の小土肥、八木沢の避難タワーは平米 2 人の避難で設計、建築しているので、1200 人と仮定した場合 600 m² 必要である。それを 2 層あるいは 3 層という形で想定している。ただし、場所等がまだ決定していないため、空間を含め検討が必要である。構造について、RC か鉄筋コンクリートか、スチール製か、まだ決定していない。比較ということで、八木沢の避難タワーが 150 人の収容で 75 m²、小土肥は 100 人の収容で 50 m² という規模である。高さについて、仮に 2 層とすれば、下の階の床の高さは海拔 14m 以上、上の階はそれ以上の高さである。松原公園であれば、南側にある田中屋さんより上になる可能性がある。

・ 加藤会長

(7 月に提案されたパースの紹介、規模、空間のイメージの説明。)

この時の案は、高さ 14m、避難スペースは 2 層使って、1 フロア 300 m² を想定している。高さは松の木より低い。細かいデザインによって見た目の大小が多少変わってくるが、高さだけは決定している。

・災害時の安全性と、平時の観光要素についての意見

・ 参加者⑤

施設についてイメージするために、実際、災害発生時の色々な場面を考慮する必要がある。一番は安全性であり、この施設へ避難すれば安全だと認識できることが大切である。もうひとつ、観光にも役立てるなら地域の要望を聞く必要がある。例えば、ジオパークのような歴史的なものや、地層や景観の形成の違いをベースに体験型の観光を考えると。気候も亜熱帯化しているので、様々な果物を栽培できる。また直売所としての機能を入れて回していくのも良いかと。こうした多くの要素を考慮し、色んな

ことをもう少し議論する必要がある、それによってデザインも固まってくるのでは。

・ **観光、松の木の重要性・松の木の伐採についての意見**

・ 参加者⑥

先に、本日の会についての意見。質問時間が2分間とは発言抑止なのではないか、また、コロナ禍においてマイクを消毒しないのか。観光についての意見は、土肥の人口等について独自調査をした結果（ある技術者へ依頼）、土肥の人口約3400人、人口減少率14.9%、高齢化率49%であり、他の4地区、修善寺、天城、中伊豆と比較した場合、土肥は最下位。観光客については、平成30年現在、伊豆市全体で81万3千人のうち修善寺が約33万6千人（46%）、土肥は28万9千人（36%）で2番目である。過疎化比率の高いなか、素晴らしい力をもっている、観光をさらに振興させていくべき。観光に求められるニーズとはリピート率をあげること。宿泊施設はもちろん、周りの観光施設が重要である。観光名所をどこに置くか、また、海洋文化を観光に結び付ける等、多くのリピーターを確保できる施設にすべき。また、松の木については、松がもたらす自然への影響、松の木のもつ静けさは素晴らしいと感じている。できれば松の木をあまり切らないでほしいが、切らざる得ない状況が生じるのは仕方ないと認識している。今回、15人の様々なメンバーでの委員会は誠に結構であり大いに期待したいが、松の木の重要性については、十二分に議論し検討してもらいたい。

・ **避難経路についての意見**

・ 参加者⑦

避難タワーの件で、海水浴客が海岸から2階に上っていけるような道路を、避難道を2本くらいないとまずいのでは。もうひとつ、2階にレストランを作って、伊豆なら、土肥ならではのサービスを提案できたら良いのでは。（手書きの避難道、2階の施設案を手書きで紹介）

・ **避難タワーの規模について再意見と空間活用についての意見**

・ 参加者⑧

規模についての再確認、1200人収容するということは、八木沢、小土肥の約10倍近い、となると、松原公園の松林くらいの広さを取らないと収容できないのではないのか。また、夏の海水浴客のMAXの人数はどれくらいあるのか。MAXの人数を避難させるものでないといけないのでは。空間の活用ということでは、デジタルのバーチャル水族館を山側に作れば、ひとつ名所となるので検討願いたい。

・ 加藤会長

（7月に提案されたパースを紹介しながら、松林に対する規模のイメージの説明。）定員は1200人、それを2層に分けるので1層あたり600人。八木沢は150人だから4倍の規模になる。

・ 野毛委員長

パース図は、あくまでも規模について表すものであり、建設位置がここでないと認識してほしい。

- ・ 伊豆市

MAX の海水浴客は、ライフセーバーの集計等によると、1 日あたり 5000 人と把握している。ただし、5000 人を 1200 人の避難タワーに収容するのではなく、周辺の指定避難ビル、明治館さん、湯の花さん、大江戸温泉さんと、合わせて収容することを計画している。

- ・ **環境との調和、松の木の保存についての意見**

- ・ 潮木副委員長

パースを見る限り、松林と調和できているか微妙。設計者が京都駅を設計した著名な方と伺っているので、松林に調和したような外観を検討してもらいたい。平時の活用としては、例えば上の喫茶店のテーブルや席を夕日が見えるような配置にしたり、この場所ならではの憩いの場としての商品やサービスを提供したり、温泉、松林、夕日という自然環境をそろえている町の特徴を活かして検討してほしい。また、松の木を切るという話ばかりでなく、反対に不足した松を植える考え方や移動する考え方も持つていくべき。また、避難タワーという名称についても、この地域オレンジゾーンにちなんで例えばオレンジタワーとか、良いイメージにすることも必要。

2 1 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会（市民集会）

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和３年２月１７日（水） 19:00～21:00	旧土肥小学校 体育館	土肥地域 居住者・事業者 ４３名

（２）プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市）	
松原公園津波避難複合施設建設位置 検討委員会 検討結果について ●第１～４回検討委員会の議論の流れ と検討結果について説明	
今後の進め方について ●今後の進め方について説明【伊豆市】 ●地域主導による検討の場の設置に係る説明【野毛氏】	 
コメント ●総括（東京大学 加藤教授、静岡大学 原田准教授）	 
閉会	

(3) 開催結果

松原公園津波避難複合施設建設位置検討委員会 検討結果について

第1～4回検討委員会の議論の流れと検討結果について説明

野毛委員長

設置の位置を決める検討会が終了したが、どういう経緯で決定に至ったかが一番大事であり、皆さんにそのことを承認していただくのが今回の会である。まず、この委員会をサポートしていただいた地元の職員の方、そして各先生方はじめ有識者の方に敬意を表し感謝を伝えたい。では、位置の検討委員会の振り返りから始める。15名の委員会で、公正公平にバランスを見ながら進めたが、どのように進行之したか時系列で見ていくと、まず第1回、令和2年12月18日に、どのように検討委員会を進めていくかを説明した。第2回、令和3年1月14日に委員会全員で現地視察をしてイメージをいただいた後、役所に戻り白熱した会議をした。第3回、令和3年1月27日に、いろいろな評価の視点を踏まえた意見交換ということで白熱した議論をしたが、ここでは決められなかった。当初、3回の委員会での決定が目標ではあったが、補足ということで、第4回、令和3年2月3日に検討委員会を実施し、ここで決定した。どんな議論をしていったかという、この複合施設で一番必要なこと、避難のことである。必要条件1、安心して利用できる砂浜の創出、必要条件2、集客できる観光資源の創出、この二つのカテゴリーに大きく分けた。分類を見ていただくと、避難行動における安全性と津波に関する施設の安全性、さらに、評価の視点が細かく具体的に書いてある。その下に、地域外からの魅力ということと、地域住民の平時利用ということの詳細が書いてある。その他、コストマネジメントと近隣の影響という見出しを、分かりやすく簡潔に書いてある。海岸近くのA案、中央のB案、国道沿いのC案については、評価の視点と書いてあるもの、例えばA案の二重丸の青丸はメリットの部分である。A案は、海岸からの避難時間、距離については非常にメリットになる。比べて、中央のB案は完全なデメリットではないので三角印、C案のバツは、A案B案と比べるとデメリットに入ると評価している。相当時間を費やし議論を持ち合わせてまとめたものであり、時間の関係上、一つ一つここでは説明できないがご理解をいただきたい。委員が議論を進める上で念頭に置いた三つは、誤解に基づく決定はしないこと、熟議を重ねて結論を出すこと、決定案の短所を理解した上で、短所を小さくするための努力をして決定すること。つまり、徹底的に議論をし、メリット、デメリットを出しそれを共有して議論をすること、決定案の短所を最小にするための最大限の努力をして決定をするということである。具体的な議論の流れは、第1回、第2回の委員会で設置位置3カ所についてのメリット、デメリットを理解した。デメリットについて特に強く議論をし、改善策の議論を重ねた。配布資料にはないが、A3縦の資料に細かく書いてあるのでご確認いただきたい。第3回に、デメリットを解消するための対策を議論したが、位置の決定に至らなかったため、デメリットの対策を踏まえた意見を基に改善した案を検討するという意味で、第4回に位置の決定が持ち越

された。その中では、A 案のデメリットを改善した改善 A 案、B 案のデメリットを改善した改善 B 案ということで、われわれは意思の共有をし、議論を重ねた。避難、松、商業への影響の 3 つが議論のポイントであり、C 案については、第 3 回の時点では候補に挙がらなかった。改善 A 案はどういう所になったかと言うと、A 案の配置を三日月プールの位置へ変更した。位置を変えることによって松林の保全度を高めるためである。改善 B 案は、B 案と位置は同じだが目隠し機能を追加した。近隣への影響を低減するため、建物の開口部、窓、バルコニー等の位置や配置の変更であり、この辺の商業施設や近隣の住民へ最大限配慮した結果である。今井先生も苦勞をされ、建設、建築の設計も、複合施設の 2 階 3 階から近隣の建物の中の人を視認できないような工夫をし、模型で出来上がったという経緯がある。松についての話をさせていただくと、今、松原公園にある松の本数は 300 本である。当初の A 案だと、全部で 29 本の松を犠牲にしなければいけない。私を含め最初の市民集会で相当誤認識があり、50 本とか 60 本の松を切らなくてはいけないと認識されている方もいたが、実数は 29 本である。比較的大きい松、直径 1 メーターから 1.3 メーターのものが 1 本、70 センチから 1 メーター未満のものが 4 本、中堅よりも小さい松が 24 本、合計 29 本である。改善 A 案の場合、比較的大きい松が 2 本、中堅よりも小さいものが 9 本、合計 11 本である。B 案については、大きい松が 3 本、比較的小さい松が 4 本だが、実は隠れている桜の木を 5 本プラスして切らなくてはいけない。これは、あくまでも松の木を切る本数を、皆さんに分かりやすく説明したもので、松の木を切る本数が少ないからいいではないか、といった議論をして、それだけで決めたのではないということを、皆さんにご承知おきしていただきたい。われわれが検討をし尽くした結果、どこの案に、どこの位置に設置することを決めたかと言うと、海岸近くの改善 A 案になる。

質疑応答

参加者①

1 点、質問です。防災と環境を両立する施設を造ることは私も理解している。私が一つ心配なのは、改善 A だと津波を前提で考えると、人間の心理として海側は行けないと思う。東北の震災等を見ると、あの恐怖心があるとどうしても山側に逃げると思う。また、気になっているのは、以前、行政の方で防潮堤を土肥の海岸に造ると盛んに言っていた。そうすると、A 案だと、もし防潮堤ができたとしたら、その建物自体の直前に防潮堤ができると思う。建物がどういう設計になるか分からないが、防潮堤ができてしまえば、例えば 1 階に複合施設が入るとなれば、防潮堤で完全に隠れてロケーション的にも悪くなる。今回の計画の中で、防潮堤ができる可能性もあるということを含めて計画されているのか聞きたい。

野毛委員長

まず後半の防潮堤について、数年前に建設予定だという話があったが、今はゼロベースである。代替としてこの計画が出ていることをご理解いただきたい。緊急事態のとき

に海のほうに逃げるのかという質問について、委員会を始める前の市民集会でもその話が出たが、ここはあくまでも海岸から避難をする、しかも 1200 人が避難する施設になる、ということが大前提である。内陸から避難をする場合、津波の、要するに避難タワーということで伊豆市と契約をしている、ふじやさん、まるとさん、田中屋さん、粋松亭さんがある。今回の津波の複合施設、避難タワーというのは、あくまでも海岸にいる 1200 人の海水浴のお客さまをどのように避難させるかということが基本であるので、視認性について、B 案と C 案は見にくい。C 案の視認性は、わずか 39 パーセントか 40 パーセンであり、海からの避難ということについては難しい。

参加者②

改善 A 案で、松の木を 11 本切るとなっているが、工事に関して伐採する松は含まれていないと書かれている。工事の関係でどのくらいが伐採の対象になるのか。もう一つ、子どもさんたちがかなり遊んでいる三日月プールがなくなるということで、それが施設の中にできるかどうか。他の所に造るとなると、海岸でなければまた松林の中だと思うが、松を切らなくてはいけいないのか、不安である。

野毛委員長

まず、最初の松の木について、あくまでも建物を造ることによって伐採しなくてはいけない本数である。工事車両は海側から入って工事をするので、基本的にはこれ以上の松を切るということは想定されない。港湾で、市有地ではないので、県にも許可を取らないといけないが、あらかじめ内諾は取れている。それと、二十数本の杭を 50 メートル打たなくてはいけいない。杭を入れると松の根が傷つき枯れてしまうのではないかと懸念されるが、打つ前に松の木の根の養生のやり方ということで、松の木を生かしてやる。最大限いろいろ組み替えて、最終的には打つ位置を決めることもできるが、基本的には基礎を打つ段階で、松の根を傷めて枯らすのをできるだけ避けることが確実にできる。根拠として、樹木医、樹木の医者の見解も入れさせていただく。三日月プールについて、本委員会は複合施設をどこの位置に造るかというための委員会である。位置が決まった後、どのような複合施設を造っていくか、新しく次の委員会を設立する。三日月プールは 30 年以上たっているもので、そろそろメンテが必要である。プールのインフラや、別の所に造るのかということも含めて、全てのことは次の委員会で事業を承継する。今この時点で、三日月プールがどうなるかは言いようがなく、そのことについては第 2 委員会で議論されるのではないかと。

参加者③

松が倒れて施設に当たって、かなり危険性がある。松はかなり曲根で深く下に伸びる性質が強く、陸前高田の松原の松の倒れ方は、根っこが残って上がりぎれるように倒れている状況であった。津波の加速度やいろいろなケースがあると思うが、いずれにしても、浮力と加速度を伴い強力にぶつかってくることは確かであり、どれぐらいのものであればどういう力が働いて折れるのか、そういった検討はされているのか。もう

一点、松の保全について、薬液を注入したり松くい虫を弱らせたりといった対応や努力はされているのか。

野毛委員長

津波は海から陸のほうにやって来るので、それに合わせて松の木も海と反対側に倒れることは一般的な常識の考え方。何メートルの津波が来るかということによって、松の木の受けるダメージもだいぶ変わってくる。今回は10メートル以上の津波がくると、最大値を想定しているのだから、松はどんな形にしてもほぼ倒れる。一本松とか、東北の地震のときに松原に残ったとか、確かに事例としてはあるが、基本的にはほぼ全部倒れることを想定している。松くい虫については、この事業が始まろうが始まるまいが問題になっており、伊豆市も、松が枯れることについては間を剪定するとかによって、松の発育状況をより強固なものにするとか、いろんな形でこれからもメンテをしていくことになる。松くい虫の薬の散布もすでに行っている。今回この事業に携わることによって、行政側もわれわれも、300本の松を見ることでいろいろな問題が見えてきた。このタイミングでしっかりと松のメンテをすることは、これから300本の松の木を残していくという、非常に大事なことではないか。単純に安易に、この建物を造るから松の木を切ってはいけないと言う前に、あの松はしっかりとメンテをしないと自然に枯れていくことが、今回あらためて浮き彫りになった。

参加者①

津波タワーと複合施設ができるということで、例えば改善A案でできるとなっているが、この津波タワーの部分は、観光としてもタワーを使っていく予定なのか。観光として津波タワーに上って海を見たりとか、まだ決まっていないかもしれないが、今の段階で教えてもらいたい。

野毛委員長

あくまでも商業施設と津波タワーの複合施設であるので、当然、観光、あるいは商業ということについては、その施設の建物の中には入ることは大前提である。もちろん津波の避難タワーと考えているが、私見で申し訳ないが99.9パーセント平時の利用になると思う。つまり、有事はいつ起こるか分からないが、毎日有事が起こるわけではないので、普段はこの施設は平時使い、この点をご理解いただくという考え。それを踏まえて言えば、当然、観光の施設として、例えば、食べ物だったり物販だったり、具体的なことは決まっていないが、そういったものが中に入るということ。ただし、それは避難タワーも管理しているということで、24時間365日、その建物の上の部分は、人が上がれるような状態になる。商業施設であれば、当然、鍵を掛けて中に入れないスペースがあるかもしれないが、基本的には階段を上った上の避難のエリア部分については、24時間365日、解放してなければいけないというルールがある。施設の内容や、中に入るものについては、また承継した次の委員会で詰めていくというような形になってくる。

参加者④

人命を第一にということで考えると、A 案の場合は、一番近くの民家から A の所に行くまでにかなり時間がかかる。B だったら、すぐ前になる。景観が悪くなるかもしれないけど、あくまでも命を守るためには B の方がいい。いつ来るか分からないが、もし昼間だったら、浜から上、2 階、3 階へと上がれるような遊歩道を 2 本、3 本、造れば、そのほうがいいのではないか。その施設は、普段はもちろん観光に使うが、とにかく住民の命を守るということを最優先にお願いしたい。

野毛委員長

貴重なご意見だと思う。今回、津波の避難と商業と一緒にするが、基本的に津波の避難がウエートが一番大きいとご理解いただきたい。その避難はどこからの避難なのかというと、あくまでも海岸から最大人数 1200 人の海水浴客や観光客が、容易に避難ができることが最大のポイントである。視認性ということで考えれば、A 案なのか改善 A 案なのか、少なくとも B 案の位置よりは、視認性についてはたけている。あくまでも海岸からの避難を考えると、一人でも多く避難をすることが可能になってくる。また、B 案で幅 3 メーターの所でスロープを造って避難させる案も実はあったが、広くすればするほど、ここにある松を切らなくてははいけない。また、健康者で足腰が健康な人たちが一気に避難するということはなかなかないと思う。例えば小さい子どもを連れているお母さん、あるいはお年寄り、歩くのに不自由な方というのは、ここに着いたときに安心で立ち止まってしまう。そうすると、ボトルネックのように渋滞が起きてしまうことが考えられる。そうすると、A 案の方が同じ渋滞ができるということであっても、避難の通路がない分、ダイレクトに入れて間口が広いので、一人でも多くの方が避難できるということが、合理的にも説明ができると考えてる。

参加者③

景観の問題で、実際に松林とか海が見えるとか、そういった景観の問題は大事であるが、一番魅力的な景観は、やはり大勢の人が活気づいている場所に人は行きたくなる。その景観が見えないというような所、海岸のほうの施設に人が行くというのは考えられない。観光施設としては非常にマイナスの要素ではないか。サインかなにかでカバーすると書いてあるが、それでは全然駄目だと思う。国道から見えない。

野毛委員長

景観というのはお客さんの景観であり、国道から見えない所にお客さんは来るのかといった話である。告知については、そもそも相当いい施設を造らないと始まらない。今、全力で設計チームが作っている。違和感がないのは大前提だが、松林と砂浜、西側からの夕日、ここを全て融合させたような建物を造ることによって、この辺の景観が良くなるものを作っていることをご理解いただきたい。周知の仕方については、皆さまにもお伝えしたい。商業施設が入るので、土肥に新しい施設ができたことを宣伝しなくてははいけない。その宣伝のツールだが、皆さん、テレビ、新聞、あるいは旅行誌、パンフレットなどを考えると思う。確かにそれもそうであるが、今は SNS というツ

ル、道具がある。それは何かと言うと、露出する一つ的手段だと思って考えていたきたい。今、携帯は、ほぼスマホ、カメラが使える状態のものであり、いいなと思ったら写真を撮って、自分のブログという機能、ブログというのはどんな感じかと言うと、こんな所へ行きました、こんなにおいしいもの食べました、と写真を撮って、コメントを言って、インターネット上に載せる。そうすると、世界中の方が見られるような状態になっている。そういった効果を今回、SNS 機能で十分賄えるのではないか。国道から見えなくても、お客さんは SNS を使って来ることが想定されるが、そんな甘くないと思う人が多分ここにいると思う。だが、その昔、テレビが出てびっくりした時代があったと思うが、まさしく今、そういった時代だとお考えいただきたい。もう少し具体的に言えば、1 人暮らしの大学生のほぼ半数以上が、家にテレビがなく新聞も読まない。ただし、携帯でいろいろな情報を見たり聞いたりしているということから、テレビや広告誌や旅行雑誌あるいはパンフレットに代わり得る、立派な一つのツールというのが SNS ということである。一つ、これはリスクがあり、悪いこともどんどん拡散して広がることがあるが、これからは、SNS というツールが、テレビや旅行誌に代わり得る立派なツールという形になる。国道からの視認性はないが、SNS で発信することを見据えた松原公園のグランドデザインを、第 2 委員会のほうで承継して話を進める。観光客にできるだけ分かりやすい動線を開発するべきと考えている。第 2 委員会では、グランドデザインも含めて、デメリットの部分、国道からの視認性が悪い改善 A 案についての改善策も進めていく。

委員からのコメント

委員①

第 1 委員会の委員をやらせていただいた。第 1 委員会を振り返って、A 案、B 案、C 案についていろいろと話し合い、実際、現地に行って、スケールを広げて大きさを出して、メリット、デメリットを話し合った。初めは A 案、B 案、C 案だったのが、A 案、B 案に絞られ、最終的には A 案に決まった。これは、最初の委員会での投票ときは、B 案のほうが多かったが、委員会で話し合いを重ねていく中で、最終委員会の投票では A 案が多かった。いろいろな意見を聞く中で、考え方や、思い、気持ちが変わり、A 案に票を変えてくれた方もいたということだ。委員長は話し合いの前に必ず言うことがあって、A 案、B 案、C 案、どれに決まっても、決まったことに意見を言わず、決まった案でみんなで話を進めていいものをつくっていきましょうということで、毎回委員会を開いていた。A 案に反対だった人も、必ず A 案でよかったと思うときがある。そのために、みんなで次のステップアップした、今度は第 2 委員会、その話し合いをしていったらいいかと思う。例えば、切った松の木の再利用。旧総合会館の跡地が荒れ地なので、今回の避難タワーを造るに当たってそこも取り込んでもらって、第 2 新松原公園みたいなのを造る。土肥桜、松の木、芝生を植えたり、蔵みたいなのを造ったり、そうすれば公園も広がるし、切るなどと言った人も、増えるのだからいいのかと。温泉プールの上に造るということで、あれも昭和 62 年だけに造った。なので、

老朽化をリニューアルしてくという意味で、土肥を新しくしていったらいい。次の第2委員会でも委員の方がまた選出されると思うので、その方たちにあとを委ねたいと思う。

野毛委員長

旧総合会館の跡地、粋松亭の前の所、今、荒れ放題になっているが、そこは市有地ということで、今回このプロジェクトの中に大いに組み込むことが可能であり、土地を整備して、例えば伐採した松を植えるとか、観光協会土肥支部で一時的に保管している移植が容易な100本以上の土肥桜の苗を利用するとかいろいろな方法がある。総合会館の跡地は、どんな形にもこれからできるということであるから、今回この事業に含めて、開発していったらどうかと考えている。

委員②

去年の秋ぐらいから市民集会に参加したり、設置委員会の委員になり話し合いに参加したりしていたが、この数カ月は、本当に悩まされ、苦しかった。何かあればパソコンで調べ、自分でもいろいろ考え、いろいろな方から意見を聞く日々を送ってきた。私が、一番、気にしていたのは、松林の中に複合施設、複合施設と言ってもタワーということには変わらないので、景観を崩してしまうのではないかとということ。日本にあるタワーをネットで調べて、どんなものが建っているのかたくさん見ていったが、見れば見るほど幻滅をした。土肥のこども園にある避難タワーとか、八木沢とか、小土肥にもコンクリートの避難タワーがあったかと思うが、そのようなものが松林に建って景観を崩してしまうのを一番、心配していた。タワーもだんだん形が進化してきて、賞をもらっているようなタワーがあったので、それをプリントして設置委員会のほうに提出をし、設計の先生にも聞いてみたら、こういうものは造らないとのことだった。典型的な鉄で造られたり、コンクリートで造られたタワーではなく、今までとは違うタワーというか、施設を造るとのことだったので、設計の先生の言葉を信じてみようかと思った。まだ設計が確定はしていないが、今回の試みが日本で初めての取り組みということで、松林に合った、きれいな景観をつくり出す施設に設計していただくことを期待している。

野毛委員長

女性の委員ということで、女性の目線でいろいろなことを話し合いの中で出していた。特に、こども園のお母さんたちに独自でヒアリングをして、こんな意見があるということ、具体的に委員会の中でも反映させていただいた。皆さん、正面をしっかりと向いて、この委員会に向けて議論を重ねていったということで、ご理解をいただきたい。

検討結果の承認

野毛委員長

委員長として、この改善 A 案という位置に決まったことについて、皆さん、ご承認い

ただきたい。ご承認いただけるようであれば、ここで拍手をもって承認ということにさせていただきます。

(拍手)

野毛委員長

ご承認いただいたが、これで終わったわけではない。全体の事業でわずか1割が終わったような感じ。残りの9割、土肥の発展についてこれからいろいろなことを話したい。

今後の進め方

今後の進め方について説明

伊豆市

今後の進め方について、本日のみんなで考える会で建設位置が決定されたということで、今年度3月までに基本設計を行う。津波避難タワーということで、国費を使っているの、3月までに基本設計を終了する形になる。そして、実施設計を令和3年度に行う。実施設計のときには、地域主導の検討の場ということになっているので、後ほど野毛委員長から説明いただく。工事を令和4年、5年で実施していく予定であり、完成予定は、令和5年の夏、できたら夏前に完成し、運用、タワーと商業施設のオープンをしていきたいと考えている。地域主導の検討の場でも意見を吸い上げさせていただき、より良いものを造っていききたい、土肥のシンボル、松原のシンボルとなるようなものを造っていききたいので、またご協力お願いしたい。

地域主導による検討の場の設置に係る説明

野毛委員長

一回、整理をすると、位置を決めるための委員会は、もう全て解散している。委員長という任務を下りており、きょうこれが最後の任務になることをご理解いただきたい。次の委員会は、通称、第2委員会と言うが、設置の具体化に当たっては、地域主導の検討の場を設ける予定。委員は公正公平に地域で選定をして、3月の上旬に、この委員を選定するための会議を開催する予定。そして、よりきめ細かい議論ができるよう、検討委員会に加え、分野別の部会を設置するという考え。部会というのは、例えば建物だったり公園だったり文化であったり、カテゴリーの中で精査する部会をいくつかつくったと考えている。私が、この2カ月、絶対に揺らいではいけないということが一つあり、それは、あくまでもこの事業は民間が主導する、地域主導の検討の場を設けるということ。行政が造るわけでもなく、有識者の先生がたが造るわけでもない、民間が主導して造る。民間の意見を聞くことについては、市民集会で決めるのが一番よいが、それは現実的に難しいので、委員会を設立し、その委員会が公正公平なメン

バーの委員会であれば、市民集会というのは詳細について説明をするという場であるべき。第2委員会は、これから委員会の編成をするが、委員会の方たちは議論を重ねていって、令和5年の適当な時期に開設となると、決して長い期間ではなく、相当、密にスケジュールを立てていかないと、作業工程はこなせない。忙しくなる部分もあるが、短い期間でゴールに向けて進んでいって、完成に向かって真剣に向き合い、松の木の木保全も含めて考えていただきたい。

コメント

原田副会長

きょうは、野毛さんのほうでかなりいろいろな説明をしていただいたが、専門的なことも、野毛さん詳しいなと、皆さん思ったと思う。これは、検討する委員会の中で、委員の皆さんが疑問に思ったことだとか分からないことを、一つ一つ確認をしながら、皆さんで議論をしてきたその結果を委員長が取りまとめてくれたと、だからどんな質問でも答えられる。こういったような、市民、地域の人たちが疑問に思うこと、分からないことを、きょうの会の中でもいろいろ質問いただいたが、一つ一つ拾ってちゃんと考えて前に進んでいくと。こういったようなことが地域でできるというのは非常に素晴らしいことだと思うし、この土肥の地域、土肥の地区でできたということは、土肥の未来に向けて非常にプラスになることだと思う。今回、こういう施設を造るといったような話だが、土肥の未来を皆さんで考えてつくってきた、その一歩、二歩になっている、と思っただけでもいいかと思う。こういったようなことを繰り返してやっていく、施設を造ることだけではなくて、この会、きょう、皆さん来ていただいているのは、海と共に生きる、観光防災まちづくり、みんなで考える会ということなので、皆さんで、観光と防災、普通、考えると別々のもの、相反するというような考え方になるが、それをうまく組み合わせて土肥の魅力をさらに上げていく、安全を確保しながら上げていくと。そういったことで、松原公園だけではなく土肥の全体をより魅力のある地域にしていける。そういった取り組みをぜひ地域の皆さんで取り組んで、これを続けていっていただけるといいのかと思う。非常に皆さん、皆さんの未来を自分たちで考えてつくっていくということが進んでいる印象を持った。ありがとうございました。

加藤会長

皆さん、お疲れさまでした。この数カ月間、大変、長かったようで非常に短かったとも感じる。振り返ってみると、今回、反対の声が上がり、ある意味、地域が二分されてもめたことは、土肥にとっては非常によかったと感じている。この一連の、野毛委員長をはじめとして、委員の方の議論を聞いていると、実に多面的で、同時に土肥の未来をきちっと見据えた、非常に深い議論がなされていた。これは多分この地域にとって、未来につながる本当に重要な財産になったのではないかな。もし、最初の模型を

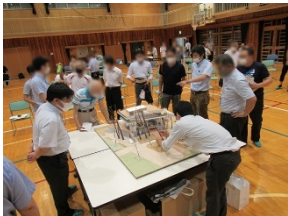
覧になったときに、東大の有名な先生が設計するのだからこれでいいのではないかと、何も議論せず結論を出すパターンもあり得るし、一方で反対の声が出たときに、では反対派側の言うとおりに造ればもめごとないから、というような決め方もできた。行政も資金繰りが、土肥は既にオーバーしているが、時間に追われてやっている中でできる限り早くやりたい。適当な案で決めておけば、それで通るかもしれない。でも、今回の場合は、全員がそれぞれの立場で、ある意味、粘り腰でしっかりと議論したことで、とてもいい結論に、それはA案B案で、Aの改善案がいいというわけでもないが、土肥の未来にとって素晴らしい結果になったのではないかとということをあらためて感じた。これは、まだ位置が決まっただけで、やっとスタートラインに乗った、実は、ここから先がかなり大変になる。ただ、大変ではあるが、拙速にならずに、やはりしっかりと深い議論にして、未来をつなげていけるといいかと思う。今回の委員会の議論の中で、すごいなと思ったことを、一つご紹介させていただきたい。これは委員の方から出た意見だが、今の土肥があるのは、過去の土肥の人たちが僕たちの世代に残してくれたものを、今、僕たちは共有しているのであると。今、ここで、いろんな今の時代の知恵を使って、何かこの土肥につくり出すと。それは未来の土肥の人たちへの贈り物だということをおっしゃっていた委員の方がいらっしゃいましたが、すごく感動した。時代の知恵を次につないでくと。それがどんどんこの地域の蓄積になってくる。これは、世界遺産を決めているユネスコの、文化的景観という概念の考え方そのものなのである。それを、こういった普通の地域の人たちの議論の中で出てくるということに、非常に感動した。恐らく、他の委員の方もそれぞれの心の中で、かなり深い考え方、気付きがあったと思う。それはもう素晴らしい財産だと思うので、それをまた次に生かして、未来の世代に残す贈り物という表現でよかった。贈り物をみんなで一緒につくっていただけるといいかなと思った。

22 みんなで考える会（市民集会）#14

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和３年７月１５日（木） 19:00～21:00	旧土肥小学校 体育館	土肥地域 居住者・事業者 43名

（２）プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市）	
松原公園津波避難複合施設と公園の設計案について ●「松原公園津波避難複合施設整備検討委員会」において協議され、とりまとめられた設計案をみんなで確認しよう！	 
意見交換	
コメント ●総括（東京大学 加藤教授、静岡大学 原田准教授）	 
閉会	

(3) 開催結果

第1～5回松原公園津波避難複合施設整備検討委員会 検討結果について説明

勝呂委員長

皆さんこんばんは。今回、松原公園および津波被害複合施設の検討委員会ということで、委員長を務めさせていただいております、勝呂と申します。よろしくお願いいたします。時間ちょっと限られておりますので、早速、資料に元づいて説明をさせていただきますと思います。着座にて申し訳ございませんけれども説明させていただきます。

まずですね、これまでの経緯を簡単にご紹介したいと思いますけれども、こちらにいらっしゃる方はもう概略位置の件、位置を決める検討委員会の方でも市民集会にでいらっしゃるっておりますので分かっているかとは思いますが、昨年暮れにですね、この施設の検討位置について住民の意見によって決めるべきだということで、皆様も承知のもと、建設位置検討委員会が立ちあげてですね、その後第2回から第4回の議論を経てこの位置に決まったということで、建設位置の方も3か所ありましてそれぞれメリット、デメリットについて洗い出して第3回、第4回でデメリットを解消するための対策を議論し、またデメリットへの対策をふまえた意見をもとに改善した案を検討したということで、松の木の伐採について大きな議論が沸き上がったのは皆さんご記憶に新しいことかと思っておりますけれども、検討を重ねた結果、海岸近くの（改善A案）に決定したということでございます。

松の木の伐採についてはいろいろと議論ありましたが、本当にわたしもそのときに、松の木について土肥の皆さんはなんていうんですかね、思い入れがものすごくあったということで、その思いをですね、今回の複合施設および松原公園の整備について、ぜひその用途についていろいろと検討しようという事で今回も検討委員会を進めております。

静観いただいたように皆様もいらっしゃると思っておりますけど、心より私は敬意を表したいと思っております。

その際、アンケートで前回の検討委員会について反対があったんですけども、その際に民意を取り入れるべく新しい委員会を立ち上げて議論をすべきだという意見によって検討委員会は設立されましたけれども、目的としては地域の住民の思いを設計者へ確実に伝える事、あともう一つは地域の持続性実現に向けた建築や公園の空間利用についての議論、たとえば津波避難施設をどう使いたいか、施設の魅力をどう伝えたいか、松原公園はどうあってほしいか、松原公園に訪れた人をどうもてなすか、について議論する事としました。地域の持続性の実現というのが僕はすごく大事な事だなと思って、そもそもこの事業の発端というのは平成29年12月に作成された「海とともに生きる観光防災まちづくり推進計画」これは目的の一部は土肥の少子高齢化や過疎化に歯止めをかけるという事も取り上げられてますけれども、この事業というのは土肥の未来に向けた大きな橋掛かりとなる大事な事業となっていると思っています。この検討委員の進め方スタイルとしては具体的なデザインについては設計サイド

で検討して、検討委員会で確認・共有するという方針をとっております。

一応そのことを踏まえて委員制なのですけれども、基本的に呼びかけは前回設立されていた建設位置検討委員会だったという事からこのメンバーの思いを優先、思い入れを優先してお声がけをさせていただきました。残念ながら数名事情があって抜けてしまったメンバーもいらっしゃいましたけれども、残ったメンバーで再協議した結果、屋形区長ほか旅行関係、観光関係の方々、商工会関係の方々、漁業の理事さん、農協の理事さん、土肥料理飲食店組合、土肥特産市ありがとうの関係者、あと近隣の大規模観光施設である土肥マリン観光さん、あとは9人の住民代表という事で、9人の住民代表の方々も多種多様で、土肥の活性化のためにイベントなどの活動を行っている人、後は小さいお子さんを育てている今後の土肥を背負っていくような家庭の方々、近隣で個人事業を行っているの方々、地域の様々な考え方が出せるようにバランスを見ながら公平公正に選定できたと思っています。

検討委員会の実施状況ですけれども、4～6月にかけて全5回実施いたしました。第1回目これは主な今までの検討経緯、それと検討する際の条件・注意事項、後は意見を出す際の観点、あと検討対象、検討の進め方について確認、どんな感じにできたらいいのかなというようなアイデアを少し出してもらったかと思います。第2回から第4回にわたってはまず建築・公園のたたき台案をもとにみんなで意見交換して、またそれによって改善案を次回提示してもらって、またそれに対して我々が意見交換をするそういうキャッチボールを行いながら、第5回でまとめたという感じでございます。

それから、次に案を発表いたしますけれども、私の後に設計者が詳しく説明しますので読み上げ程度で出したいと思います。まず、公園設計のあり方ですけれども、公園のコンセプトは「未来へ受け継ぐ新たな土肥の景づくり」サブタイトルで「のんびりくつろぐ浜と夕日と松林を守り活かした、発信交流拠点を目指して」という感じです。一番上に観光利用者、公園利用者、避難のそれぞれを踏まえた園路・広場。利用者動線を踏まえた園路の設定や利用者の滞留時間を踏まえた広場整備を行う。まあ、散策路とか広場ですね。

あとは海への眺望、マツ、サクラをメインとした景観・植栽。駿河湾に沈む感動的な夕日を活かした景観・植栽整備を行う。まあ主に松林とかあと桜、土肥桜等を植えたりして見栄えのある公園を作りましょうという事です。

あと3番目、土肥地区全体の魅力を高める施設として、避難施設と一体となった魅力的なアクティビティ設備の導入や地域の拠点となるような各種施設の整備を行う。温水プールとかそういう場がそれに該当すると思います。

公園設計のあり方ですけれども、温水プールについては通年利用可能な足湯とプールをつけたものを整備すると、あと遊び場については多様な年齢層に対応した遊具を置くと、あと芝生広場の整備、花時計については、いま壊れているんですけれども修理あるいは改善改良を兼ねて充実させたいという事です。松林に関しては適切な維持管理を行い、健全な松林とする。こういったような公園設計のあり方を計画させていただきました。

施設設計のあり方に移ります。整備方針としては、「平常時の活用が災害時の安全性を増幅させる複合施設」。観光施設あるいは商業施設として日常利用を可能にすることによって、地域経済的な効果、あるいは普段使いをしてもらうことで、こういう感じで逃げたらいいんだよとか、こういう階段使ったらいいんだとよとかそういうのを皆さんで、共有して安全性を高めるという事です。

あと、松原の風景を尊重し、これを生かした新しい地域景観。これまでの歴史的な松原の風景と文化を十分に尊重して計画し、人々に愛される地域景観・空間を創出する。あと、きめの細かい配慮がなされた安全・安心な津波避難施設という事で、従来の津波避難タワーで見られない新しいアイデアを統合して、構造・避難・コスト上合理的な新しい建築を実現したいと言う事です。

施設設計のあり方ですけれども、最上階、屋上部分ですけれども、ここは飲食可能なフリースペースです。と共有させていただきたいと思います。2階に関しては飲食店が入るイメージ、1階と中2階については雨天時の使用が可能なキッズスペース、飲食可能なフリースペースとして整備をしたい。階段は、円滑な避難のため階段の幅を広めに整備、後は避難者の体力の有無も考慮して緩やかな勾配の階段も整備をすると。あと、全体に対しては非常電源等を用いた照明設備を整備したい、色合いについては比較的明るい色彩を用いる。あとは素材ですけれども、裸足にやさしい素材を活用すると。まあ海で遊んでいるときに靴を履かないで逃げてきた場合に足にやさしい素材を使ってくださいという事です。あと、アクセスや搬出入のためエレベーターを配備したい。そんなことを全体像として、みんなで共有議論をしました。

あと、下のところですね。議論の中で反映が困難であった事項という事で3項目ありますけど、例えば屋上階への遊具の設置。これは避難スペース確保のため、固定されたものは実現は困難ですと。あと、階段をスロープ化したらどうかという意見がありましたけれどもスロープ化すると避難距離がものすごく長くなってしまいますので、これも実現が困難でしょうと。あともう一つは、施設内へ足湯等を作ったらどうかという事なのですが、これはもう公園内というより、近くにある部分に設置を予定している、また建物の中だとコストが高くなっちゃうよという事でこれも実現が込んだと思います。これ、3項目主なものを載せていますけれども、これ以上にすごくたくさんの事項について検討議論をしています。これ全部説明しますと、本当に1日かかってしまいますので、主な部分だけ抜粋させていただいております。また、どんな内容だったのか、こんなこと検討したのかということを伺いたい場合は、ぜひ私か伊豆市、皆さんの周り身近に検討委員に参加している人がいますのでその方々にぜひ聞いてください。今説明する時間はないので、そういう形をとらせていただきたいと思います。

施設・空間整備の優先順位という事で、ここでも重要なことを申し上げたいと思いますけれども、今回皆さんに報告しているこの案というのは、あくまでも我々住民側と設計側の意見のすり合わせによる理想、理想案という事なんです。この案をもとに今後予算とか、予算の配分、あとたとえば行政的なもので保安林解除に係る制約、あとは

この施設で事業にかかわる方々ニーズとか事業費の制限等によって現実的な案に変わっていくと思います。その時もあるべく我々が検討した民意が反映させるように優先順を付けさせていただきました。

まず、道路の付替、防災にかかわる園路整備、防災にかかわるサインというのは公園整備するために必要だ、後は避難経路に関する、避難に関する重要な施設と言うことでこれは外せないなという事です。あと温水プールについては一部取りやめ、規模縮小、あるいは仕様変更の可能性があります。次に遊び場、これも位置の変更や規模縮小、仕様変更の可能性があります。園路の整備、照明も含めまして、主要園路のみの整備、仕様変更の可能性があります。あとサイン。公園内のサインなのですが、こちらでも主要サインのみになる可能性がありますよと。あと花時計に関しては、なるべくリニューアルしたいんですがこれも規模縮小、あるいは仕様変更の可能性があります。あと駐車場の整備、現状のままになる可能性があります。あと、散策路。こちらでも位置の変更、仕様変更、現状のままになる可能性があります。芝生公園に関しては現状のまま利用の可能性があるという事です。下に米印があるのはスライドでは見えませんが、予算規模によって優先順位によらず整備が可能となる場合がありますという事です。これはあの、たとえば、簡単に説明しますと、温水プールをやめた場合にその下のなんていうんですか、その設備の整備が可能になりますよといった場合は、温水プールを削ってそちらの遊び場が上位にくる、遊び場がでてくる可能性があるというようなことを書いてあります。

それでですね、こういった議論を続けていくにつれて、今後さらに検討が必要な事項というのが浮かび上がってきました。先ほど説明しました施設・空間整備の精査というのは我々が出した案に関していろいろ保安林解除とか予算の都合とかで、設計内容が精査されて変わってくる可能性がありますよという事です。これは優先順をつける形で対応をしておりますけれども、この方法に関しては特に検討委員会は閉じる予定だったんですが、ある程度キャッチボールしないといけないのかなと思っております。あと管理運営方法については、例えば駐車場を有料にするのであれば料金設定どうするとか、駐車場も有料にするしないという議論もしていかなければいけないんですが、そういった料金設定をどうするとか。あとは夜間利用者への対策、特に年末年始などの夜間に利用なさっている方々も多いんですがそういった部分の対策も考えられました。あと、多目的芝生広場、複合施設内のテナントの管理をどのように行うのか。周辺施設の、公園と連携した周辺施設の整備や公園との関わり方。たとえば、今地場産品販売所ありがたいをやってますけれども、国道からの視認性を高めるために、ありがたいではないんですが、地場産品物販所として新たに松原公園の駐車場にサインを立てた方がいいという意見もありました。この辺もどうしていくのか。あと海側の空間をどのように活用していくのか。あとは地域の活性化の方策として、地域文化に係る要素の導入、松とか夕日、これをどのように今後反映していくのか。あとは、地域が一体となった公園の活用方法ということで、公園を使って、コロナで中断はしてますけれども、鯉のぼり行事等やっておりますけれど、

そういった例えば公園イベントとの連携を、公園あるいは避難施設で連携を強化していくべきだろうとそういったことが議論が必要なものが浮かび上がっています。

一応さっき話をしたことをおまとめしてあるのが、この頁で。ここは説明を先ほどしたので割愛させていただきますけれども、今後検討が必要な事項についてどうするのかというのが一つの議論があがっております。なので先ほども申し上げましたけど、理想論がいろいろと予算とかそういったもので変わってきますよという事を、変更の共有というか確認をしていく、あるいは少し意見を言わしていただく場が必要なんじゃないかなということで、これから1・2回程度委員会の延長という形で、行いたいなと思っております。

あと今後のスケジュールの事なんですけれども、現在はみんなで考える会7月15日市民集会を行っています。一応あの12月中にですね、いろいろとこう実行していくうえで意見をまた、案を変えていきますので、それを我々検討委員会の方で設計内容等を検討する場を1回くらい設けて随時確認をしたいと思っています。そして12月に予定されているみんなで考える会にその意見をまたご報告をさせていただくと、というような形をとりたいと思っております。

あの、本当に大切なのはこれができる事ではなくて、しっかりと事業の運営を続けて土肥の未来の、土肥の発展につなげていく事だと思いますので、こういう形で今後も見守って住民全体でサポートしていければなと思っております。

参加者①

2月の17日のときに基本設計を検討しますとありますが、これやってないんじゃないですか。17日というのは建物の位置の委員会の報告ではないですか。基本設計っていうのはもっと前に1回図面が出て、17日の日にはやってないと思います。やったんですか。昔の事なんではっきりしないですけど。

勝呂委員長

そこに書いてあるように、令和3年2月の17日の会では検討委員会から検討結果を報告しましたけれども、ここはあくまで位置の決定で、設計については、モデルは見せたかもしれませんが、決定事項は一切してないと思います。

伊豆市危機管理課

令和2年の2月の段階では、実設計自体はうちの事業としては発注をかけています。それでこのところ、2021年は基本設計が出てくることになります。うちの事業としては、基本設計は入った形になってますので、ただ位置が決まっていない。2月の段階で位置が決まって3月になって基本設計が決まりました。という事になります。

参加者②

私思うに、普通の道の駅とは違って、津波防災という前提がありますから、津波というのはいつ発生するかわからないもので、24時間で使える施設になると思うんですけど、そのへんで管理の仕方っていうのは、例えば今の段階では例えば管理人の人に

ね、常に 24 時間体制でおくとか、日中はずっと人がいますので日中はその人にまかせるとか、夜は誰か一人管理人をおくとか、そういうのは今のところ考えておられるのでしょうか。

伊豆市観光商工課

資料の 13 頁に、今後さらに検討が必要な事項というところに、管理運営というのを設けて、今後どういう風にしていけばいいのかというのを、ちょっと今後検討させていただいて、今こうですというところは、申し訳ございません、まだ決まっていないので今後の検討事項とさせていただいております。

伊豆市危機管理課

こちらメインは津波避難タワーですので、避難スペースが屋上、それとその下の階になりますので、そこにつきましては屋上はフリースペースという形になると思いますが、その下の階は商業施設等を兼ねる形になりますので、そのこのところの管理についてはまだ最終決定しておりませんので、結局閉めきりになると閉めっぱなし、困っちゃいますと入れなく避難スペースでなくなってしまうので、そのこのところは今後管理のほうと詰めさせていただいて、最終決定したいと、まだ今の段階だと最終決定していないということになります。

参加者③

個人的なことを言わせてもらいますと、松の木の伐採は、何が何でも反対ということで通したわけなんですけど、最終的にはこういうことになりまして、この施設の設計につきましては、本当にこのままで進んでもらいたいという風な気持ちで今はおります。そういう中で、勝呂委員長のお話を聞く中で、いろいろな施策がぽんぽん出てくる、何回かの委員会の開会の中で、いろいろなことが更に加わってくるという風に思われます。そういう中で、詳しいことはわかりませんが、国の方のそういう支援、市の方の支出、どの程度が最終的になるかはわかりませんが、いま流れの中で考えると、相当やっぱり中身のある土肥のまちの宝だということでこれを設定することになると相当な支出がかかってくるのではないかなという風に個人的には思います。そういうことが、土肥のまちをみて、何百人何千人という人が町内に住んでいるわけですが、そういう方に PR して、アピールして、ご寄付を、この施設を充実するためにご寄付を求める、場合によってはクラウドファンディングのような形をとりながら、そういう方向に目を向けることが必要ではないかなという風に思います。

松原公園津波避難複合施設整備の検討状況について

東京大学今井先生

皆さんこんばんは。本日は現地に伺うことができなくて申し訳ございません。それでは建築の設計の部分にいて東京大学の今井からご説明いたします。まずこの建物、避難タワーですけども、整備方針ということで 3 つほどコンセプトが上がっております。

1 つ目が、平常時の活用が災害時の安全性を増幅させる複合施設ということでございます。これは商業施設と避難タワーがどう一体化するのかというところです。単なる避難施設ではなく、特徴を生かした商業施設として十分に有機的に活用できるよう考えております。

2 つ目が、松原の風景を尊重しこれを生かした新しい地域景観ということで、松原公園の中にこれができるということで、単純に松原公園の風景と建物が激突するのではなくて、一体的に融合してデザインされるという事が重要ポイントです。

3 つ目として、キメの細かい配慮がなされた安全・安心な避難施設という事で、これは様々な配慮がなされていますので後程、各部分部分の説明をしたいと考えています。では、建物の特徴について詳しくご説明したいと思います。

まず 1 つ目なのですが、これは津波に耐えなきゃいけないという施設ですので、骨格といいますか、建物のストラクチャの作り方で特徴がございます。この宙に浮いた 2 層の床レベル、これが避難スペースになるわけですけど、これを支えているですね。全部で 6 本あるんですけど 4 本が一つの組になった、組柱というものを提案しております、これは漂流物対策ですね。何か大きなものが流れてきて、ストラクチャを棄損したときにそれでも建物が倒壊しないという事を考えて、こういったストラクチャで作っています。

もう一つは、やはり避難施設で、わかりやすすくないといけないので、どこから逃げてくださいといったサインを立てるのではなくて、建物の形自体が避難のしやすさを作る必要があります。考えたのは周りにですね、螺旋状に階段が上がっていく風景。これが、非常にわかりやすく、どこから逃げたらいいのかというのが一目瞭然ですし、しかも上がり口もいくつか用意してありまして、いろいろな方向からこの建物に逃げられるように配慮されています。

この 2 重螺旋になっている階段ですね。これが一つのこの建物の特徴を作っております、避難しやすいというだけではなくて、階段のスペースも非常に魅力的に、カップルたちが座るとかですね、そういったちょっと違った使い方ですね、ができるようなスペースになっておりまして、とくに上のほうに至っては駿河湾が見渡せる展望スペースのような階段スペースというか、たぶんそこには人が集まると思います。それがこの建物の特徴になっていまして、避難施設としましてはそういった特徴があります。それから、商業スペースなのですが、この上の 2 枚の床というのはいずれも避難スペースなのですが、2 層に避難スペースを作ることですね、内部空間ができます。で、その内部空間が商業利用ができるという事なのですが、同時にその屋上のスペースですね、これはあの、通常求められる避難スペースよりもかなり余裕を持った高さを持っていますので、こちらまでくればかなり安心感あるかと思いますし、またこの最上階、屋上はですね駿河湾を一望できる展望台としても機能しますのでそういった意味で非常に人々がここに上りたいなと思えるような特徴を持っています。

あとは、大きな特徴として、この松原公園とそれから海水浴場をですねつなぐ貫通路と

いうものを中に設けております。これはあの、現状ですね松原公園がある種、防風林として非常に重要な機能を果たしているのですけれどもそれと同時に、行き来をちょっと阻害しているというところもあるので、人の流れという意味では1階レベルでうまく松原公園の中を貫通して、砂浜まで行けるというのが、ある種ゲートとしての建物ですね。これを作るという事が都市計画的にも非常に有用だと思われま

す。次にあの、全体の説明は以上なのですが、部分部分の説明をしていきたいと思

います。模型の都合上、屋上から説明いたしますが、屋上はですね、この模型の通りですね、床はウッドデッキ張りで作れたらいいなという風に考えておりまして、屋上にですね、ただ単に広いスペースというだけではなくて、人々のアクティビティですね。ベンチであったり、あるいはキッチンスペースであったり、こういうものがあると非常にアクティビティがプロモートされるかなという風に思います。

それで、屋上に立っているのは、これは塔屋でしてこちらにエレベーターで、最上階まで上がってこれるというのと同時に、こちらが備蓄倉庫とかですね電源もこちらに入っておりまして、浸水されて電源喪失しないというポイントも重要なことかと考えております。

屋上の仕上げは今、金属質の反射質のもので作られていますけれども、これはこの建物が建ったことで松原公園が暗くならないという事に配慮してまして、松原の風景や空を映しこんで自然に溶け込むようにこの建物を作りたいという思いから、この最上階の塔屋に関してはそういった反射質のもので仕上げたらどうかと考えています。

この屋上からですね、駿河湾を見る風景に対して手すりが必要ないように、そちらの面は今強化ガラスで手すりを立てております。強化ガラスの手すりは非常に安全性も高くですね、風を止める効果もありますので、ここは風の強い場所ですのでそういったことにも配慮していきたいと思

います。また、金属の手すりも併用しながら、コストへの配慮もしたいと思

います。これが一応屋上で、順番に下を見ていきたいのですが、このレベルも避難階レベルになりますけれども、内部空間が、大きな内部空間がとられておりまして、エレベーターからのアクセスとですね、機械室がここにありまして、それ以外はオープンなフリーなスペースとなっております。現状はここにレストランが入ることを想定して、今この配置、席の配置とかにしてありますけれども、ここに仮に厨房を作ったかどうかという事で、それもオープンなものを考えて配置してありますけれども、こちらは事業者が定まったら詳細に検討していきたい内容になります。その場合にバルコニーがこうとられていましてバルコニーのところも、外に染み出して座席が配置できるような余裕のあるバルコニーがとられてい

ます。階段も幅員も3.5メートルござい

ますので日常的には、人々が腰かけてそこで風景を楽しむですとか、語らいあうというようなアクティビティも想定されますし、何かいろいろな企画が考えられるかなあというふうに思

ましてそういった樹木に逆らわない建て方をして、有機的にそれを結びつけようとしています。

次、下の階になります。

下の階ではですね。これは中間避難階というふうに我々は呼んでいますけれども、いったん津波避難ですね、方々から中間避難階のレベルまで避難できるようになっていまして、特に砂浜のほうからワッと人が押し掛けたときにここでスタックしないように、幅広の6メートルの階段を、大階段を設けておりまして、こちらもある腰かけて使うこともできますし、日常的には非常に魅力的なスペースになると思いますけれども、そういった幅員のコントロールですね、避難で人々が押しくらまんじゅうにならないような計算を施して、いったん建物に上がると冷静になるので、ここで清流効果も働きますし、2本階段とられています、こちらはちょっと急こう配ですけども、こちらは緩やかな階段ということで、お年寄りとか逃げる人も様々ですので、そういったことを考えて2本の螺旋階段をもうけております。

中間避難階ではさまざまな使い方ができますけれども、今現状はここに子供が遊べる遊具のようなソファを置いたりとか、ベンチとか置いて有効にここが使えるように、こちらにも何を配置したらいいのかこれから考えていきたいと思いますが、ポテンシャルのある、将来性のある空間だという風に思っております。

あるいはここにライフセイバーのつめ所を用意したりそういった使い方も可能かなと思っております。

あるいは、こちらには、ここに遊具を作るという計画があるんですけども、そちらにわたっていけるようなバルコニーを設けたりとか、そういうこともしています。

次、1階のご説明をしたいと思います。

1階は、特徴はこの6メートルの貫通路ですね。これが、松原公園と砂浜をつなぐように設けられているという事です。最も人通りが期待されるこの空間にはですね、その両側を挟むようにボリュームが配置されていまして、そのボリュームの中には商業、小さな商業とそれから少し大きめの商業で向かい合うように計画されていまして、6メートルもありますので、そちらに屋台とかそういうものを出しましてここマルシェのようにできるだろうと考えております。

それから、6メートルの貫通路を設けるときに、ここにあった公衆便所を撤去しておりますのでこちらの機能はこの建物の中に組み込んでおりまして、このゾーンに公衆便所を考えております。24時間使えるように貫通路も設けまして、海水浴客からのアクセスもしやすい位置に設けておりまして、なおかつ商業からも貫通路を介して雨にぬれずに公衆便所が使えるような配置にすることで、この建物のトイレと兼用できるというメリットもございます。

それから建物の外周部にですね、バルコニーを少し設けまして、こちらは木陰の非常に良い空間になりますので、そちらには長椅子を設けて、くつろいでいただけるようにしたいと思いますし、もともとこの建物が建っていたところには半月上の温水プールが、足湯がございました。それを撤去することになりますので、その機能を補う

形でこちらに足湯と温水プールを設けております。これは季節利用で、夏が温水プール冬が足湯というのがいいと思っております。

さらにこの建物ができることで、海水浴場に対して非常に可能性が出てくるので、こういったところに座席を並べて砂浜で食事をするとかそういうことができるようなことも考えていきたいと思います。

それから、最後にこの樹木なんですけども、ちょっと傾て立っていますけども、これは現状の林を3Dスキャンしたものを、3Dプリンターでプリントアウトした樹木になっていまして、現状この傾きとかはこのようになっています。これやってみてわかったんですけども、少し厳しいところもございまして、それは枝を払ったり、建物の形をコントロールしながら樹木の保全に努めていきたいと考えております。

建物の外壁の説明は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

参加者④

東日本大震災のときに、松がほとんど倒れて、津波で流されたと思う。で、この松原のすぐ近くにこの建物があるというのは、絶対に大丈夫ということなんですか。その津波で流された松でこの建物が被害を受けるかそういうことはないのでしょうか、あるいは津波に流された材木、住宅なんかは引き潮で流されたときにここに溜ると思うのですが、そのときの建物の構造というのは大丈夫なのでしょうか。

東京大学 今井先生

この建物の構造体なんですけども。構造計算上はスマトラの大地震のときにおきたスマトラの津波がありまして、その時の専門家の調査によってですね、どういう構造体にしていくとよいのかという設計指針が国土交通省の方から出ているんですね。それに基づいて実は設計しておりまして、で、ちなみに津波が来た時、松って全部山側に倒れるというか、海と反対側に全部倒れるということになっていまして、今実はこの建物は海と松原の間に建つんです。なので、倒れた松の木はこの建物には来ないです。海側に倒れるという前提です。引き潮の時の波のスピードとやってくる時の波のスピードは全然違っていて、基本的にはやってきたときのインパクトが一番大きいんですね。ですので、もちろん、引き潮の時にいろんなものが流されてきて当たることは想定していますし、それはもちろん考えなくてはいけないんですけど、一番考えなきゃいけないのは、海から来る津波に耐えるということ。それについては、しっかりと構造的に強いものを作っております。

参加者⑤

避難の点を考えたときに、屋上にトイレが必要でないでしょうか。作れないでしょうか。

・ 東京大学 今井先生

トイレについては人数分のポータブルなトイレを備蓄倉庫にしまっておくということと考えています。設備としてトイレを設けると、すごい数になってしまうので、避難用のトイレというのがあるんですけども、それを倉庫の中に人数分用意しておくとい

うことを考えております。

事務局

2 階の方に商業スペースの中にはトイレがございます。ただやはり津波が来た時にトイレの例えば給水の配管とかですね、建物は無事でも配管とかの方が万が一破壊されてしまうこともありますので、避難時には備蓄倉庫にあります、簡易トイレをですね、避難用のものを用いて対処とさせていただきたいと思います。

参加者⑥

設計とか建物の形は非常によろしいと思うのですが、避難路について 2,3 教えてください。まずですね、設計図の中で設計路 2 は勾配がきついとお話がありましたね、避難路 1 は幅が 6m、海岸からあがってくるところ、それがぐるっとまわって 2 階にあがるときの階段の幅というのは狭くなりますよね。それからこの人、避難路 3 から来た人も避難路 1 の階段を使いますよね。ここで 6m のところに人が来て避難路 3 と合流して、2 階に上がる時に階段の幅がせまくなりますよね。そのへんの逃げ方はどういうことかということと、長いスロープで登りますので、子供さんとか体の不自由な方というのは普通の健全者と同時に登れないと思うんですよね。そのへんの対応というのは何かお考えがあるのでしょうか。

東京大学 今井先生

まず幅広の階段なんですけども、それほど必要はないんですね。もともと 3.5m あれば十分なんです。ちょっと大きめにしてあるんです。で、大きめにしてある理由ってというのは、わっと押し掛けたときに最初に上り口のところで、スピードが遅い人と速い人がいると思うんですけど、それを追い抜かしたりできるようにして、最初の時に、いったん中 2 階にあがってしまえば、ほとんどの津波は実はそこで過ぎるんですね。で、さらにその中 2 階の中間避難階から基本的には一回上がっているので、だいぶ落ち着いた状態になっているはずなんです。最初に建物に入るまではすごいみんな焦っていると思うのですが、一回半分上がってしまえば、だいぶ落ち着いてくると思うので、そこである種の整備効果というんですか、それなりに規則的にあがれるようになっていますので。

その 2 つ勾配を有しているのは、急勾配の方は急勾配ではなくて普通の勾配なんです。やわらかい勾配もかなりやわらかい勾配なんです。かなり緩いです。なんで作っているかというやっぱり足腰の弱い方、子供さんとかいると思いますので、あえて緩い勾配の階段を設けています。本来は両方急で構わないんです。なんですけど、そこは少し配慮して緩い勾配のものをひとつ設けているというのが今の状態です。で、普段のことを考えると、やはり緩い勾配だったり幅広な階段っていうのは、海岸に建つ施設として、商業価値がかなり出てくると思うんですね。そこに階段以上の使い方が考えられると思いますので、そういう意味で幅広の階段を作っているということなんです。

松原公園整備の検討状況について

事務局

公園の屋外設計を担当させていただいております。よろしくお願いします。公園設計の在り方というペーパーだけ画面に出していただいて、勝呂委員長の方から公園のコンセプトとか、それに紐づくいろいろな考え方とか、ほぼすべて読み上げてしまっているところなので、その中で補足的に、このあたりを注意してやっていきますよというところを少し時間いただいて説明させていただきたいと思います。でですね、今、公園設計の在り方という風に書いてあります。これですね、今回第二委員会整備委員会というところで、公園設計をどういう風にしていきたいと思いますか、というところを進めてきました。で、その中で公園設計というのはこういう方向性でいきたいと思いますところまでは、委員会のメンバーの方々とオーソライズさせていただいたと思います。もちろん引継ぎ、これから設計の詳細については詰めていこうと思っているところで、今回は在り方というところで書かせていただいております。

この中で特に②です。「海への眺望、マツ、サクラ」という話で、この中に松という話があります。皆さんが一番大事にされている松という話が一番大事な話です。じゃあこれから松をどうしていくのかという話が最も大事な話だと思っております。当然、松を守るという話です。松を守るということに関して、松を侵食するような病気とかそういうのがあります、松の材線虫が発生をして、いわゆる松くい虫ですね、松が全滅しちゃうということが他の地区ではあったりします。なので、今回モノを作るということもあるんですけど、やっぱり松を守るためにどういう風な拠点、維持管理計画を立てるかというところも当然大事な話になってくると思っております。なので、そのような維持管理計画を今回地区の中でももう少し考えて、もちろん我々と、それから樹木医さんという方もおられますので、樹木医さんの知見をお聞きしながら、この期間の間に維持管理計画を作ろうと思っております。それから疫学的なこと以外に、松を守ることはここの土を土壌を守るという話があります。ここの松を見させていただくと、弱っている松があるんですね。それが何かというと、踏み固められて、松の根のところが弱っている。松そもそもは栄養が貧相なところで育っているので、基本的には強いんですけども、人が入って踏み固められると、そこに酸素がいなくなる。そういうところはやっぱり、土を守る、土を守るためにはここで書いてある松林の中に散策路っていうのがあります。要は、いろんなところに、松の近くのところ、人が歩いて行って踏み固められるというところはやっぱりなかなか避けていきたいという話があります。一方ですね、松林の中をお客さんが来られた時に、美しい松林のなかを歩きたい、そういう両面があるので、そういうところをコントロールするための散策路という話を作っていきたいということを思っております。

あとサクラの話。マツ、サクラの桜ですね。またあとで、この模型ずっと以前から出させているんですけど、裏に入って申し訳ないですけど、後でまた見てください。濃い赤が土肥桜、薄い赤が河津の桜、真ん中のメインのストリートのところに入っている、

たぶん知っておられる方もおると思うんですけども、土肥の桜っていうところはまちづくりにとって非常に大事なところ、ここを土肥桜の名所にしていくために補植をしていく、というところを留意していきたいと思っていますが、皆さんの意見を聞いていく中で、土肥桜と河津桜だけでなくいろんな桜を入れて、長い季節でお客さんに楽しんでいただく、それは当然地域の人も楽しむ、という話になると思っていますので、この2つの品種だけではなくて、もう少しいくつかの品種を入れながら、長い季節で楽しんでいただくというところの桜、景観を作っていきたいという風に思っております。

それからですね。3つ目。土肥地区全体の魅力を高める「アクティビティ」という言葉を書かせていただいております。アクティビティ、この公園をどういう風に使うのかという話ですね。イベントの時に祭りがあって、それはもう当然アクティビティです、それ以外の日々ここ公園を使っていただくときのアクティビティを高める要素としての遊び場という話があると思います。今、遊び場はあのあたりかなというところで設計をさせていただいているんですけども、この遊び場についても単なる遊び場というわけではなくて、いろんな世代が使えるような遊び場という話があります。お母さん、おばあちゃんに連れられてくる小さな子供、3歳、4歳、幼稚園の年少さんくらいですかね、という子供たちがお母さん、保護者達に見守られながら遊べるような遊び場、ともう少し幼稚園の大きい子とか小学生とかその子供たちが松林の雰囲気の中で遊べるような、ネット系遊具を今考えているんですけども、そういう風な遊び場というような、いくつか世代が違っていても世代によって遊べるような遊びの仕掛けというのを気を付けながらやっていきたいという風に思っております。

それから次の頁よろしいですかね。今言ったようなことがこの頁にちりばめられているんですけども、ここには一応5つ項目が書いてます。温水プールについては先ほど今井先生の方がもう説明されたので、割愛しようと思ったんですけども、とにかく温水プールを作るときには樹木を切らない、当然の話だと思っているので、という話の中でいろいろ建築側と公園の設計側と調整しまして、ここに作るということでデザイン調整をしていました。足湯を使うっていう話と、先ほどプールっていう話がありました。おそらく腰湯ぐらいになると思います。そういうのを組み合わせながら海を眺められるような足湯を作りたいというふうに思っています。それから桜の話については先ほどお話しました。それから芝生広場ですね。芝生広場は今もう松林の裏、花時計の前のところにあります。あるんですけども、やはりこのところを巻き込んだ利用ができるような芝生広場というところで、きれいに芝生をカットしながら設置していきたいなと思っていますところです。それから花時計です。花時計なんですけども、もう少しこれは議論が必要だという風に思っております。花時計自体がギネスブックに登録されている、そういうものです。とはいえ、これの改修をすると、なかなか結構な金額になります。百万、二百万ではおそらくできないと思います。桁が一個変わります。というジレンマがあります。なので、そういうところをちょっと加味しながら、ギネスをそのまま続けていくのか、何か形を変えてギネスっていうのをなんとか保つ

ていけるのか、というところも含めながら、以後継続協議をしながら設計を進めていきたいという風に思っております。ただですね、周りの健康遊歩道あしつぼとか、あのあたりは結構みなさん使われていて、観光客の人も来られたときに痛い痛い言いながら喜びながら歩いていらっしゃるということもあるので、そういう風な機能は維持しながら、この花時計の在り方を考えていきたい、そういう風に思っております。松林は先ほど申し上げた通り、作るということなんですけども、やはり守るためには維持管理計画が大事かという風に思っております。屋外については以上になります。ありがとうございます。。

参加者⑦

遊びの広場にはトイレがありますよね。そのトイレは撤去するんですか。土肥の観光客に作った県のもので、観光の補助金をもらっているんですよ。そうすると補助金の返還ということも考えなくてはいけないということになります。

伊豆市観光商工課

県の補助金をいただいて整備した施設につきましては、今後県と、場合によると何分の一かを県の方に返さなくてはならないということもございますけども、そこらへんは今後県と協議を進めて、なるべく負担のないように進めていきたいと思っております。

参加者⑦

夏場、ここに今ごみステーションがあると思うんですけども、夏場やばたのごみステーションをどうするか、どここの場所に移設するか、やばたのところで、これ海水浴客がやって来ると必ずごみが出てくるんですね。とにかくごみ処理の場所がないと、環境整備されていますけども、ごみを置く場所がないということになると、夏場なんかは匂いがつくんですね、実家なんかありますし、そこらへんの考えはいかがですか。

伊豆市土肥支所長

ごみステーションの関係は、もう一つ屋形区さんのごみ集積所もありまして、いろいろな、このままいくと道路の付け替えもありますので、いろいろな支障も出てきますので、そのへんも今後の検討ということで、ご承知いただければと思います。

参加者⑦

よく土肥に遊びにくるんで、ちょっと公園設計の在り方についてお伺いします。コンセプトから1,2,3とあって、ちょっとわからない。地域の拠点となるような各種整備を行いますとありますが、具体的にどういうことをお考えなのか。それからもう一つは、あり方の方で、芝生広場、多目的に利用できる芝生広場とは具体的にどういう風に多目的なのかよくわからないのでお願いします。

事務局

地域の拠点となるような各種整備なんですけど、具体的に大きな施設をつくるとか、そういうものは建築施設自体が拠点施設として機能するんだろうなと思っております

が、一方ですね、施設を作らなくても、多目的な芝生広場っていうのがいろんな地域の集い、祭りであったりというような空間になりうるというような考え方でいますので、その部分について、今駐車場とそれから芝生広場っていうような明確な区分分けがされているような状況ですので、そこを全体芝生広場にすることによって、もう少し空間としての広さを確保しながら、拠点というか、そういうような集まって何かできる場所というのを確保したいと思っております。それとですね、あと多目的芝生広場に臨時駐車場という風に書いてあります。この臨時駐車場なんですけど、芝生なのに臨時駐車場になるのかという話なんですけども、今いろんな候補がありまして、この碎石層のところに用土分が入って、その碎石層のところに芝生を直接植えることによって、耐圧効果を持たせながら、緑を植えることができるということがあります。なのでそういうものを活かしながら、芝生と駐車場というところの両立を図ることを考えております。ただですね、ご説明した中で、優先順位というものの表を付けさせていただきました。建築施設に関してはこれは間違いなく作るという話なんですけども、やっぱり限りあるお金ですので、これから先に進めていくことに対して、できることとできないことというのが、基本的には話し合いによって決められていきます。で、その時に駐車場整備っていうところとか、あとは芝生広場、後ろから2つ目なんですけども、芝生広場ですね。できればいいんですけども、なかなかやっぱり金額も高く、できるかわからないんですけども、その際にはちょっと優先順位が低いというところで、いろんな決定をちょっとこれからしていきたいと思っております。

検討結果の承認

勝呂委員長

以上でご報告を終了したいと思いますけども、これまでご説明させていただきました、整備、公園と施設の在り方案について、みなさんでこの場で共有できたということでよろしいでしょうか。

(拍手)

勝呂委員長

ありがとうございます。これでひとまず、検討委員会の報告を終了させていただきます。。

4 コメント

総括

原田副会長

静岡大学の原田です。よろしくお願いいたします。検討委員会でいろいろ検討をいただいて、かなりいろいろな具体的な意見を出して来ていただいたんですね。その結果先ほど、今井先生の方でご説明いただいたような、かなり具体的な施設を検討していただきましたし、公園の方もいろいろな機能が必要であるとか、いろいろ配慮されるべ

きことが考慮されているとか、そういったようなことが、かなりまとまってきた段階だと思います。で、このお話がですね。津波の避難施設、これを作りましょうというところから始まっているんですけども、非常にいい施設であつたりとか、公園の整備として土肥の町のなかで、非常にシンボルとなるようないいものが出来上がりつつあるのかなと思っています。ですので、これを機にですね、実現していただきたいという風に思いますし、引き続き皆さんも気付くことがあれば、ぜひご意見を寄せていただいて反映できるところがあれば、反映していただけるといいんじゃないかっていう風に思います。施設が出来るところを、今、一生懸命やっていますけれども、この施設を今後、出来た後により活用して、土肥の町を活気づけていく、いざという時には安全が確保できるという、そういったような場所にして、ぜひ皆さんもこの会であつたりとか、この施設ができたあかつきには、いろいろ利用したりだとか、仲間でもみていただけるといいんじゃないかなという風に思いました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

加藤会長

加藤です。コメントをふたつしたいと思います。ひとつは先ほど登木口さんが未来の地域の宝物のなるという話をされてました。あの、まったくもうその通りだと思います。で、今回の一連の取組ってというのは、こう未来の土肥の地域の持続性を高めていくんだという、これが大きな目標である。今回の施設の地域の未来の持続性を作り出すための施設であると、で、まさにこう、今の人々が未来に人たちに送る、宝物である、そういう意識だと思います。ただし、これがあれば地域の持続性は維持できるのかっていうと、たぶんそれだけではまったく不十分だと思います。で、この施設が出来た後にいかにこの施設を管理しながら、地域の力を盛り上げていくのか、観光客を呼び込んでいくのか、という視点が非常に重要なんだと思います。その中で先ほど登木口さんが、土肥ゆかりの人たちから寄付を集めたらどうかという話をされてました。で、いま全国に土肥ゆかりの人ってかなり大勢いらっしゃると思うんです。まさ、いまの70代、80代のチナツさんより下の人はみんな都会に出ていってるはずなんです。で、今は土肥ゆかりの人たちは非常にたくさんいるわけです。ところがあと、10年、20年したらどうなるか、たぶんその下の世代だと土肥ゆかりの人が無くなっている可能性もあるかもしれない。だから、未来の地域の持続性を作っていくためには、土肥ゆかりの人たちをいかに増やしていくのかっていうことが、とても重要なんだと僕は思います。で、さきほど登木口さんが言われたクラウドファンディングみたいなものがイメージされているかと思いますが、そういうのをまさに未来の土肥のゆかりの人っていうのを、今この時代にしっかり引き留めて次の世代に渡していく、すばらしい機会になるんじゃないかという気がしました。ぜひ検討いただけると嬉しいかなと思います。で、ふたつ目がですね。まあ、ある程度設計が出来ましたので、この後令和5年に向けて、とんとん拍子で進みます。進みません。実は進みません。で、ふたつ大きなハードルがあつて、ひとつはこれだけのものを作る予算が、どこまで獲得で

きるのかと、これはもう市役所の手腕に掛かっていると、これ市役所だけで管轄するんじゃないくて、大半は県とか国の補助金になるんですね。それで、ご存じの通り国の財政は非常にきつくなってますのでほどきますと、絞られる補助金をいかに市役所ががんばって、余分にもらう余裕を見て必要な分だけもらってくるかということがひとつですね。で、ですからぜひ市役所をみなさん応援していただけるといいかなと思います。で、あともうひとつはですね、2階がかなり使いでのある商業スペースになります。で、あとで模型をしっかりとみていただけるといいと思うのですが、1階部分の真ん中抜けてるところの両サイドの商業的機能がおけるようなスペースだと思います。かなり使いでのあるスペースなんですね。で、その施設の運営を誰がどうやるのか、ということはまだ決まってないんですね。まだ決まってません。で、決まらなと空っぽの箱が出来るというだけで、何ら地域の持続性も維持につながついていない。ですから、この予算と中に入る、運営する人、企業が決まるとやっところ前に進む。ですから、ある意味形が出来て、やっところスタートラインにのったという事です。で、テーブル的にうまくいく、地域挙げてこうする体制を作っていただくといいかなと思います。

閉会

伊豆市観光商工課

本日は市民集会へご参加いただきありがとうございます。また、活発なご意見・質問等を出していただきありがとうございます。このような意見を参考に、今後検討を進めていきたいと思ひます。今後のスケジュールにつきまして、先ほど説明させていただきました、今後検討しなければならない設計や管理方法、まだまだ詰めなければならない課題がございます。こちらにつきまして、行政だけで勝手に進めるのではなくて、この資料の最後の頁にも書いてあるんですけども、設計内容を共有する場を検討、検討委員会のメンバーが中心になろうかと思うんですけども、市の考えもお示しして、またそこでもんでいただいて、市民集会にどこまで具体的なことが皆さんにご説明できるか今現時点ではわからないんですけども、本日より具体的な説明をさせていただきたいと思ひますので、また今後も皆様のお力をいただきたいと思ひます。

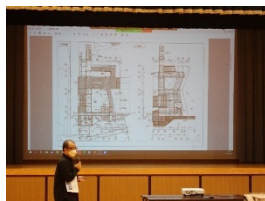
以上

23 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを みんなで考える会（市民集会）

（１）開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和４年４月２６日（火） 19:00～21:00	旧土肥小学校 体育館	土肥地域 居住者・事業者 35 名

（２）プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市）	
松松原公園及び津波避難複合施設整備検討委員会 検討結果について【説明：勝呂委員長】	 
意見交換	
コメント ●総括（東京大学 加藤教授、 今井教授、静岡大学 原田准教授）	
閉会・挨拶（伊豆市）	

（３）開催結果

松原公園及び津波避難複合施設整備検討委員会 検討結果について及び意見交換

- ・ 勝呂委員長

令和３年の４月から検討し、各先生方の意見も踏まえながら、我々の意見も建築とか

公園とか色々反映いただいた。その結果を本日伝える。1 枚目。本検討委員会の目的、松原公園及び津波避難複合施設の建設は、第 1 検討委員会の時に松原公園をどのように作るかで、検討委員会があった。その際、行政に任せるのではなく、津波避難施設、松原公園を、我々がこう使いたいからこう作って欲しい。そして来訪していただいた方々をもてなしたい、地域の住民にも親しんでほしいという思いが、第一検討委員会のときにありまして、それで検討委員会というものを設立させて、行政あるいは建築の先生、公園設計の方々に意見を反映してもらうということで設立をいたしました。委員のメンバーとしては、屋形区の元区長さんをはじめ、住民代表の皆、観光業者、商工会関係、農協関係、飲食関係の方々、小さいお子さんを持つお母さん方にも参加いただき、色々な方面から意見をいただければと思い、バランスを見ながら公平公正に設定した。令和 3 年 4 月、第 1 回検討委員会を開催し、おおむね 1 ヶ月半にわたって、計 5 回行い、ご提案いただいたたたき台に対して、我々の意見をお伝えした。または、それに基づいて次の案を提示いただき、それに対して意見をお伝えする、そういう作業をした。令和 3 年 7 月 15 日にみんなで考える会を開催し、そこでみなさんに検討結果について報告した。

市民集会では、公園設計、各設備の設備イメージ、温水プール・遊び場・芝生広場・花時計。施設設計については、平常時における各階の使用イメージ、災害時の活用方法、外観および機能について説明した。その時点で、今後さらに検討が必要な事項として、施設・空間整備の精査、整備のあり方について、施設・空間整備の優先度等を踏まえた設計内容の精査、その後の管理運営方法、管理体制、周辺施設、公園と連携した周辺施設の整備や公園との関わり方、地域の活性化方策、地域文化に係る要素の導入、我々地域の住民が一体となった公園の活用方法を考える。そういった部分を共有する場が必要ということで、この検討委員会を延長し、その後、同じように検討を繰り返した。検討委員会第 6～8 回において、特に公園設計についてキャッチボールを行った。ただ単にデザインされたものではなく、住民目線で、避難する際に、避難施設の階段の幅、公園の中の木道の長さ、あるいは遊具の位置、手すりの位置、これが避難する際に適切であるかどうか、スロープ、そういったものを質問していき、先生方に明確な説明をいただいた。あるいは景観に配慮していただいた。

細かいことを少し説明させていただくと公園設計のあり方、公園のコンセプトは、未来へ受け継ぐ新たな土肥の景づくり、サブタイトルとして、のんびりくつろぐ浜と夕日と松林を守り活かした、発信交流拠点を目指してというもので考えている。コンセプト①は、観光利用者、公園利用者、避難のそれぞれを踏まえた園路・広場、利用者動線を踏まえた園路の設定や利用者の滞留空間を踏まえた広場整備を行う。

②では、海に面するので、海への眺望、マツ、サクラをメインとした景観・植栽、駿河湾に沈む感動的な夕日を活かした景観・植栽整備を行う。

③として、土肥地区全体の魅力を高める施設、避難施設と一体となった魅力的なアクティビティ施設の導入や地域の拠点となるような各種施設の整備を行う。そう言ったことに関して、議論を重ねてきた。

我われの意見とマッチしているものとして、温水プールがある。温水プールは、通年利用可能な足湯、プールとして整備する。松を伐採する位置には設置しない。夕日が見えたり、景観に配慮した位置・設計とする。遊び場、遊具設置のために松を伐採しない。複合施設、海辺、松との雰囲気配慮した遊具とする。多様な年齢層に対応した遊具とする。芝生広場、多目的に利用できる芝生広場として今のまま活用する。春のみどころとなるように桜を植える。

花時計、健康遊歩道（足つぼ）は今のまま活用する。ライトアップ・デジタル表示等も検討する。今、花時計は故障しているので、この際に直して欲しいという意見を出している。松林、適切な維持管理を行い、健全な松林とする。のんびりくつろいだり、散策ができるようにベンチや木道を整備する。

そうはいつでも、予算が限られている。優先順位をつけて出来るところから、攻めていっていただきたい。そういうことで優先順位をつけさせていただいた。

どうしても必要な道路付替え、避難経路に必要な整備、防災にかかわるサイン。これらは必須のものである。上から順番に、温水プール、園路整備、遊び場、公園内のサイン、駐車場整備、散策路、花時計、芝生広場、桜の植栽こういった順番で、優先順位を付けさせていただいている。概ね計画の中に反映されていると思う。

施設設計のあり方として、施設の整備方針。平常時の活用が災害時の安全性を増幅させる複合施設、観光施設として日常利用を可能にすることによって、地域経済的な効果や、慣れた施設としての安全性を高める。観光客も住民のみなさんも使い慣れて、いざという時にこういう感じで逃げれば大丈夫だと、普段から認識してもらおう、そういう施設にして欲しい希望である。

松原の風景を尊重し、これを生かした新しい地域景観、これまでの歴史的な松原の風景と文化を十分に尊重して計画し、人々に愛される地域景観・空間を創出する。きめの細かい配慮がなされた安全・安心な津波避難施設、従来の津波避難タワーで見られない新たなアイデアを統合し、構造・避難・コスト上合理的な新しい建築を実現する。こんなことをテーマに議論を重ねている。

施設設計のあり方として4階、飲食可能なフリースペース、夕日等の眺望や景観に配慮した展望スペースとして整備してほしい。3階、眺望を活かして飲食店が入るイメージとする。避難時にスムーズに入れるようセキュリティに配慮した設計とする。1階・2階、雨天時も使用可能なキッズスペース、飲食可能なフリースペースとして整備する。賑わいを生む物販等の商業テナントが入るイメージとする。階段、円滑な避難のため、階段の幅を広めに整備する。避難者の体力の有無も考慮して緩やかな勾配の階段も整備する。全体、災害時にも活用できるよう非常電源等を用いた照明設備を整備する。松林の色彩を考慮し、比較的明るい色彩（ライトグレー等）を用いる。木材やタイルを中心として、裸足に優しい素材を活用する。アクセスや搬出入のためエレベーターを配置する。避難場所へはいつでも誰でも避難可能とする。議論の結果、反映が困難であった事項もいくつかある。屋上階への遊具の設置。これは避難スペース確保のため固定されたものは実現が困難。階段のスロープ化。こちらに関しては、

避難距離が長くなるため実現が困難。施設内への足湯等の設置。これは公園へ設置予定、コストが高くなるため実現が困難という回答をいただいている。今までの部分が、おおむね反映していただいた部分である。今後すごく大事なこととして、管理運営をどうするかまでお話をする。我われの要望としては、日常的に人が訪れる観光拠点施設としての設計をして欲しい。避難施設や海の家ではなく、観光施設として新たに賑わいを創出する施設デザインをしていただいている。例えば、旅館宿泊者の夕食場所としても利用できる施設。閑散期や夜間にも利用されるような集客力ある施設。閑散期にお客さんがすごく少なくなるので、この部分で収入がないと管理もできなくなるという問題が出てくる。固定集客の確保として周辺施設連携による誘客。イベントや広報による施設 PR。こういったものが必要になっていく。これらについては、例えば、旅館との連携により、食事提供場所として宿泊者を誘客する仕組みづくりをしなければいけない。賑わい創出につながる管理運営費用を充当して欲しい。ということである。まとめとして、一年を通じて賑わいある状態を実現しなくてははいけない。閑散期(特に冬季や夜間)の集客を確保するための取り組み。「地域連携」により「集客確保」へ繋げるアイデアが必要ということである。

行政サイドになるが、官民連携事業目標として、民間ノウハウを活用した「広報やイベントなどのソフト事業」や「地域連携」による「集客確保」につながる官民連携事業を目標にして公募条件としては、現段階の想定だが、1.事業手法と事業範囲、公園、駐車場を含む、観光施設部分の管理運営を、指定管理者制度等で公募し、可能なら同じ事業者、防災施設部分の管理を委託する。2.契約や協定の締結、公園及び観光施設部分に対する管理は、観光商工課と、防災施設部分の管理は、危機管理課と、それぞれ選定された事業者が締結する。3.施設運営収入、駐車場および屋上などの施設に対する利用料金制の導入。4.自主事業、飲食事業、物販事業、自動販売機、収益イベント事業を自主事業として行う。5.設問・評価基準、地域連携による集客確保に資する取り組みを評価できるよう設定する。

これは、あくまでも想定である。

これまでに議論を重ねてきた中で出てきたさらなる課題を、今後さらに検討が必要な事項としている。周辺施設との連携、公園と連携した周辺施設の整備や公園との関わり方、地場産品販売所ありがとう、粹松亭さん前の広場、海辺空間、これらを今後どう関わらせていくのか、今回の整備計画に入らなかった部分をもっと発展させなければいけないと思う。

地域の活性化。地域文化に係る要素の導入。松、夕日、地域が一体となった公園の活用方法イベントとの連携強化、例えば、現在商工会で行っていただいている鯉のぼりあげ等の行事に松原公園を積極的に活用して欲しい。

地域住民が参加した公園・施設の活用方法。施設名称の選定。公募形式など色々方法があると思う。公園サインのデザイン検討。これは我々の検討事案ということで、提案を待っている状況である。地域防災力の向上。施設への避難。施設への避難訓練による検証。避難後の安全確保方策。観光客を含めた避難所への避難誘導、避難所の運営

支援。後の話だが、津波避難タワーに限れば、どうやって避難所まで誘導していくのか、避難所からどうやって観光客を帰すのか、そういった課題がまだある。

整備のあり方。検討委員会において方向性が確認された事項として公園設計、施設設計。

整備イメージ等は前回市民集会で確認された事項である。

施設・空間整備の精査。松林の整備方法や整備費用等を踏まえた、公園・施設について整備のあり方を見直し、管理運営、事業目標や公募条件等を整理した。これらを取りまとめて実施設計を取りまとめ、松原公園・津波避難複合施設着工予定となっている。ここまでで残された課題がいくつかある。今後さらに検討が必要な事項として、周辺施設、公園と連携した周辺施設の整備や公園内への取込み、地域の活性化、地域文化に係るコンテンツの導入、地域が一体となった公園の活用方法、地域住民が参加した公園・施設の活用方法、地域防災力の向上、施設への避難、避難後の安全確保方策があり、事業者や地域の皆様と引き続き意見交換を通じて検討していく。この検討委員会も引き続き継続していくべきだと私は思っている。

最後に、今後のスケジュールを説明する。設計については、概ね4～6月である。保安林解除に関しては、6月頃からである。公告については7月。議会が7～9月。9月くらいから工事に入る。事業者公募・選定については、8月くらいからだと思う。以上で、検討委員会の状況の報告をさせていただいた。

もう少し詳しく、事務局に補足事項として説明をさせていただきたいと思う。

- ・ 事務局

公園の話をしていただいて、その設計、建物の話をさせていただいた。これからお見せするのは、公園の設計のイメージを色々な角度から見られる映像で、それも参考として見ていただければと思う。

※イメージ動画投影・説明

- ・ 勝呂委員長

ありがとうございました。次に津波避難複合施設の補足をお願いします。

- ・ 東京大学 今井先生

今日はお配り出来ていないのだが、図面も既に完成しており、印刷資料が無いのでお配り出来ないのだが、配置は公園から抜けて海へ行けるようになっている。

1階の部分、さきほど説明にあった、通り抜けられるスペースになっているが、両側に商業施設を入れているので、マルシェというか、露店がでてるスペースとなっている。

避難としては1階から2階の海側から大階段で上がっていく、模型で言うところの部分、海に向かって座れるような大階段になっている。幅員が6mほどある階段で、階段自体が一つの場所になる、そういうスペースである。

建物としては横から階段であがれるようになっている。

これが避難施設であるとすぐにわかるように、どの方向から見ても階段で上に上がれるのだということが、一目で分かるようにしている。

最上階に、1,200 人分の電力、備蓄倉庫を割り当てて設計をしたところ、屋上の避難スペースが想定より狭くなったので、実際には 4 階の屋上に上がる階段を設け、避難スペースを増強している。

階段の勾配だが、正面に見えている階段は、ゆるい階段になっていて、お年を召された方にも、子供でも上りやすい階段に設計していて、この模型では、結構色々なところに踊り場があるような形になっているが、現在はもう少し踊り場の数を絞って、逆に勾配を緩くする工夫をしており、その設計も完了している。もう一方の階段は急にして、逆に早く上がる使い分けができる設計をしている。

3 階は、レストランが入る前提で設計をしている。3 階には備蓄倉庫が入っている。そこに 1,200 人の方が逃げてきても、水とか避難用のトイレをそういった設備をそこにしまっていくようにしている。そのため、そのスペースが膨らみ、実際に設計してみると想定より大きくなっているので、その大きくなった部分を模型では、外部空間を縮め、内部を少し広げる形で修正している。このスペース、模型では外部だが、図面上では内部に変更している。

既存の公園内の公衆便所を壊して人がスムーズに流れるように計画しているが、その公衆便所の機能を建物 1 階に新しく設けている。加えて、自動販売機や新たなごみ置き場、補助的な機能も計画している。微小な修正をして、実際に建てても問題ない設計をしている。あまりおおきな変更はなく、進んでいる。

意見交換

・ 勝呂委員長

ありがとうございました。質疑に入りたいと思います。 1 問 1 答型式で参りたいと思う。質問の有る方は挙手にてお願いしたい。

・ 参加者

画面を見て、松林の中と階段の灯りが気になった。

真夜中にそういうことがあった際、足元をずっと照らしていないといけないのか。そこが気になった。

・ 勝呂委員長

夜の公園の照明はどうなるかということか。

・ 東京大学 今井先生

階段の脇に照明が入っている。フットライト、足元を照らすライトが階段に仕込まれている。眩しくないように、天井面を狙って入っている。天井に直接照明を付けるのではなく、下から照らす。光々と照らすと雰囲気が無くなるので、控えめにしている。公園設計についても照明を検討しているはず。基本的には、人が逃げるのに必要な照明

は、付けている。

- ・ 事務局

ランドスケープ設計担当の日本工営の真子です。避難路になる部分は公園についても、分かるように検討している。松林の中の木道についても避難の導線となる場所に関しては、ライン照明等により夜間でも避難できるように照明計画を検討している。

- ・ 参加者

- ・ タワーに名称はないのか。避難タワー観光センターとか名称をつけ、遠くからも見えるようにして欲しい。避難タワーがあることで、見に来る人もいると思う。大きな看板をライトアップして見えるようにして欲しい。

- ・ 勝呂委員長

施設名に関しては、まだ検討していない。公募で幅広くアイデアを募集し、選んでいくかたちをとりたい。全国的にも名前が知れ渡ればいい。看板は、どんな感じになるのか。

- ・ 事務局

全体図で説明する。アプローチ園路の先、展望台付近、土肥大橋を渡ってきたところに園名サインがある。展望台付近の園名サインは、現在、松原公園にある縦型の「松原公園」と書いてあるサインを検討している。

土肥大橋を渡ってきたところの園名サインも「松原公園」という園名サインを検討している。大きさは、今の段階では、高さ1m横2mくらいのコンクリートのものを考えている。

園名サインの内容については、先ほど委員長からもあったように、名称等、今後検討していく。

真ん中のメインのメタセコイアと書かれているところにも、園名サインがある。先ほどCG動画にあったように、「松原公園」もしくは、建物の名称をライトアップした形で検討している。

- ・ 勝呂委員長

名称が決まったら、検討事項となる。他に無ければ、検討するべき事項は、引き続き検討委員会の中で、精査をしていく。このまま進めてよければ、みなさまの拍手をもって、承認いただきたい。

※会場拍手

- ・ 勝呂委員長

では、承認いただいたので、延長戦にはなるが、頑張っていきたいと思う。委員からもコメントいただければお願いしたい。

- ・ 西川委員

すごくいい形で完成を目指して進んできている。粋松亭の前も今後考えていかなければ

いけない部分についても、桜を植えていくとか少しずつ進めたらよいと思う。色々聞きたいこと、分からない事があれば、委員の方々に聞いて欲しい。より良いまちになるように委員も話し合っていくので、どんなことでも質問してほしい。

- ・ 勝呂委員長

施設が出来ると思うが、大事なのは、その施設を活用してわれわれ、土肥がいい方向に進むように、一致団結し、進めて行くことだ。その部分も、本日参加した皆さんを中心に周りの方に広めて頂き、一緒に頑張っていければと思う。

- ・ 事務局

ありがとうございました。最後に総括として、先生方から一言いただければと思う。

コメント

1) 総括

- ・ 東京大学 今井先生

本日はお越しいただきありがとうございました。無事、設計が完了できたことを良かったと思っている。この後、工事に向けて、見積もり等、色々な調整作業が残っている。工事が進められるように今後も取り組んでいきたい。困難な状況もある。社会情勢とか大変なことになっていて、その辺りをどう対処していくかが、今後の課題になる。今日いただいた意見は、慎重に考える。指摘いただいたことは、注意しながら前へ進んでいく。

- ・ 静岡大学 原田准教授

皆さんで、共有、議論をして、とても良いものができると思っている。良いものと言うのは、設計部分で良い施設ということもあるが、皆さんが関わってくれたこと、色々なご意見をいただきながら、地域のなかでの施設に関わって作ってきたという点で、非常に良いものが出来ると思っている。今回作っているものは、基本は津波避難施設という位置づけだが、それを超えて、観光施設としても利用しようという施設は、おそらく初めて作られると思う。土肥が初めて色々な取り組みを、日本全国を先導するような形で進めていると思う。これを作って終わりではないと、委員長からもあった。これを皆さんでどうやって活用していくか、引き続き協議をしていただきたい。

- ・ 東京大学 加藤教授

色々な、紆余曲折あり、今日の日を迎えられ、ほっとしている。原田先生がおっしゃったように、これが終わったのではなく、これから始まる。一連の施設の設計、計画について様々な議論を、検討委員会を含めてやってきた。この議論の積み上げによって、非常に地域社会の力がついたと感じている。それが、土肥地区の次の時代を開く、非常に素晴らしい財産になった。この財産を活かして、未来に繋げていけたらと思う。この施設はお金がかかる。今後 10 年見たときに、国と市のお金が入るこれだけ大きな投資がこの土肥のまちに入ることは無いと思う。この大きな投資を無駄に終わらせないようにするためには、地域、社会の力が非常に重要になる。こ

の投資と施設を活かすも活かさないも、地域社会に関わる。是非頑張っていければと思う。

最後に、この式次第を改めて見て頂きたい。タイトル「伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会」この観光防災まちづくりとは何かというと、この施設を作ることだけではない。まだまだほかにも、たくさんやるべき事、やった方が良い事が、山のようにある。山のようにあることの一つが今やっと目途がついたということだ。まだまだたくさんやる事があるので、皆さんでお力を合わせて、新しいチャレンジをしていければ良いと思う。

津波防災に関しては、逃げることを中心に考えて、ホッとするわけだが、実は、土肥の地形を考えると逃げるだけでは不十分だ。まずは逃げる。逃げた後、取り残された方を助けるということが必要になる。更に国道を含めて、たぶん道路が寸断され、孤立する可能性がある。そうすると自立的にこの地域で生き伸びる対策が必要になる。今回、観光に比重が置かれていたが、防災に比重を置いた議論も押さえておく必要がある。

また、次の課題に向けて新しいチャレンジをしていけるといいと思う。

- ・ 事務局

先生方、ありがとうございました。そうしましたら、今日の次第につきましては、以上をもって、全て終わりとなる。最後に、今回お配りしているコメントカードがある。ぜひ、前向きな、期待とかでもかまわないので、書いて頂けるとありがたい。

閉会

- ・ 伊豆市

ありがとうございました。以上で市民集会を終了させていただくが、今後この事業についての詳しい皆様へのご報告については、広報誌や、かわら版という事で、回覧の方をださせていただく形で、皆様に事業の報告をさせていただく。本日は長時間ありがとうございました。

24 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを 小中一貫校も考える会

(1) 開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和5年2月24日(金) 10:30~12:20	見晴(みはる)ホール	全校生徒41名 教員10名

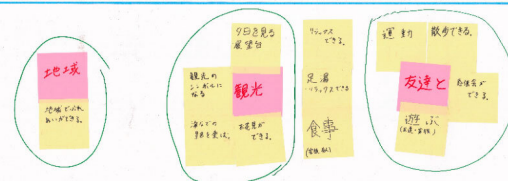
(2) プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶(伊豆市) 「海のまち伊豆市土肥の観光防災まちづくり」 ●津波避難複合施設建設の検討委員会委員長	
話題提供 ●伊豆市観光協会長 勝呂氏 ※静岡大学原田准教授に解説いただきながら、土肥地域において想定されている津波のシミュレーション動画を鑑賞	
グループワーク ●「津波避難複合施設の名称を考えてみよう！」	

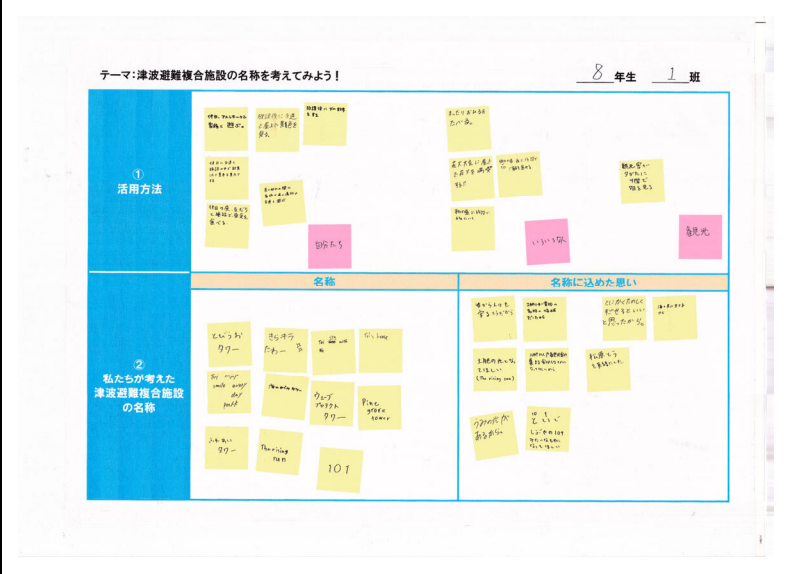
項 目	当日の様子
全体発表	
まとめ	
閉会（伊豆市）	

(3) 開催結果

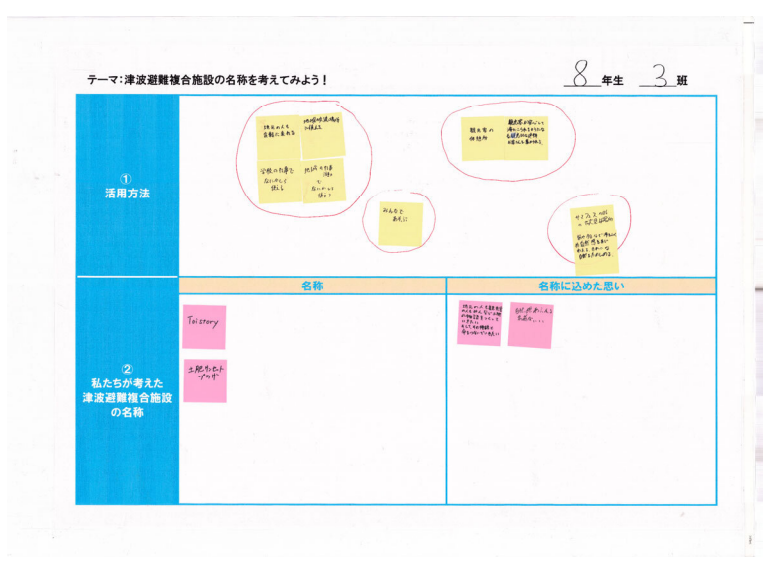
7 年生 1 班

当日の様子	結果																						
	テーマ：津波避難複合施設の名称を考えてみよう！ 7 年生 1 班 ① 活用方法  ② 私たちが考えた津波避難複合施設の名称 <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="750 694 1053 728">名称</th><th data-bbox="1061 694 1372 728">名称に込めた思い</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="750 728 798 772">土肥物語</td><td data-bbox="1061 728 1117 772">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="805 728 853 772">Toi house</td><td data-bbox="1125 728 1181 772">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="861 728 909 772">松原の家</td><td data-bbox="1189 728 1244 772">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="917 728 965 772">Sun city Toi</td><td data-bbox="1252 728 1308 772">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="973 728 1021 772">Toi future house</td><td data-bbox="1316 728 1372 772">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="750 772 798 817">Toi Sumire house</td><td data-bbox="1061 772 1117 817">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="805 772 853 817">Toi future building</td><td data-bbox="1125 772 1181 817">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="861 772 909 817">Toi story</td><td data-bbox="1189 772 1244 817">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="917 772 965 817">Toi house</td><td data-bbox="1252 772 1308 817">土肥の歴史を伝える</td></tr> <tr> <td data-bbox="973 772 1021 817">Toi future house</td><td data-bbox="1316 772 1372 817">土肥の歴史を伝える</td></tr> </tbody> </table>	名称	名称に込めた思い	土肥物語	土肥の歴史を伝える	Toi house	土肥の歴史を伝える	松原の家	土肥の歴史を伝える	Sun city Toi	土肥の歴史を伝える	Toi future house	土肥の歴史を伝える	Toi Sumire house	土肥の歴史を伝える	Toi future building	土肥の歴史を伝える	Toi story	土肥の歴史を伝える	Toi house	土肥の歴史を伝える	Toi future house	土肥の歴史を伝える
名称	名称に込めた思い																						
土肥物語	土肥の歴史を伝える																						
Toi house	土肥の歴史を伝える																						
松原の家	土肥の歴史を伝える																						
Sun city Toi	土肥の歴史を伝える																						
Toi future house	土肥の歴史を伝える																						
Toi Sumire house	土肥の歴史を伝える																						
Toi future building	土肥の歴史を伝える																						
Toi story	土肥の歴史を伝える																						
Toi house	土肥の歴史を伝える																						
Toi future house	土肥の歴史を伝える																						
発表内容																							
僕たち 7 年生 1 班で考えたのは、まず津波避難複合施設の活用方法として、友達と遊ぶ、勉強会ができる。観光の面では、海の景色を楽しむ、桜など花見ができる、友達と観光とを混ぜたもので足湯や隅でリラックスできる、食事ができるなどが挙がりました。私たちが考えた津波避難複合施設の名称は「Suncity Toi」、夕日などのきれいな景色を観光客やみなさんに伝えたいからという意味です。「Toi house」、土肥のみんなの憩いの場になるようにこの名前にしました。「Toi future building」、土肥の未来をよりよいものにできるような、津波避難複合施設にできるといいと思います。																							

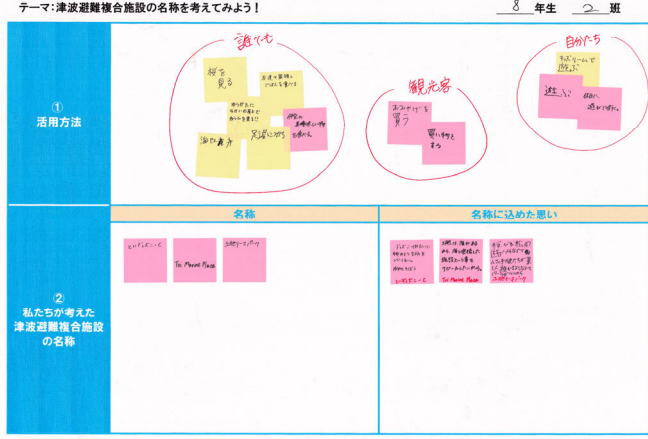
8 年生 1 班

当日の様子	結果
	
発表内容	
僕たち 8 年生 1 班では、タワーの活用方法としては、自分たちでは、友達と遊んだり、お昼を食べたり、観光では、きれいな景色を見たり、色々な人が食事や景色を見たり遊んだりなどの意見が出ました。僕たちが考えた施設の名称は、たくさんの意見が出て、まず、「とびうおタワー」、土肥はとびうおが有名だから、「Toi's house」、「海のめぐみタワー」、「ウェイブプロテクトタワー」、「ふれあいタワー」、「The rising sun」「101」が出て、ザライジングサンには、土肥の光になって欲しいという思いがあって、101 は渋谷 109 のような土肥のシンボルになって欲しいという意味が込められています。	

8 年生 2 班

当日の様子	結果
	
発表内容	
私たちの班は、活用方法としては、地域の方をメインに考えていた人が多くて、地元の人でも気軽に来られる、学校行事に活動できる、交流場所などが出ました、みんなで遊ぶものとして、観光客の休憩場所や観光客を呼び込む材料にもなる、夏に行われるサマーフェスティバルの花火を見られる場所などたくさん活用できるなというのと、桜や夕日、海などの自然をこの場所ひとつでたくさん味わえるので、そういう自然もよいという話になった。私たちが考えた津波避難複合施設の名称は、話し合いながら意見を出したので 2 つにまとまっているのですが、ひとつめは「Toistory」。これは映画のトイストーリーをモジった感じになっているが、名称に込めた思いとしては、地元の人でも観光客の人でも、みんなで土肥の物語を作りたい。そしてその物語と命をつないでいきたいという思いが込められています。もうひとつが「土肥サンセットプラザ」、自然感にあふれる名称がいいなと思い、この海に沈むきれい夕日が一番見どころかなと考え、この名前をつけました。	

8 年生 3 班

当日の様子	結果
	 テーマ:津波避難複合施設の名称を考えてみよう! 8 年生 3 班 ① 活用方法 ② 私たちが考えた津波避難複合施設の名称 名称 名称に込めた思い
発表内容	
8 年生の 3 班では、活用方法としては、自分たちの中だったら、休日遊びに来たりとか観光客など誰しもできることだったら、施設付近の桜を見に来たり、屋上で夕日を見に来たりなどの活用方法が出ました。施設の名称は、「Toi Marine Plaza」で、名称に込めた思いは、土肥には海があって、海と密接した施設をアピールしたいから土肥マリンプラザを考えました。	

8 年生 4 班

当日の様子	結果
	
発表内容	
班で考えた活用方法は、観光客が多く出たのですが、自分たちや家族だと、身近にあるレジャー施設で使う、暇な時に一緒に遊ぶ目的として意見が出ました。観光客だと、土肥のシンボル、夏の海水浴の休憩場所に使うなどの意見が出ました。他にも憩いの場所として使う、いざとしての防災避難複合施設なので、避難などの活用方法が出ました。この施設の名称ですが、色々な意見が出て、その中でも防災に注目して、「ウェイブロックタワー」、波のウェイブ、それを守るブロック、花時計のクロックを合わせて、この名称にしました。「土肥（Toi）と生（Toi）きる塔」、この施設ができて、土肥を支えていこう変えていこうという意見もあります。	

9 年生 1 班

当日の様子	結果
	
発表内容	
僕たちが考えた活用方法は、確定という部分では、雰囲気を感じたい、デートスポットにしたい、青春を感じる場所にしたい。遊び場という部分では、暇な時に遊び場として使用したい、友達と遊ぶ時に使用したい。精神という部分では、気軽に足を運べる場所にしたい。メシ・ごはんという部分では、非常食として災害時に無料で避難者に配布できる、暇な時に安いごはんを食べられる場所にしたい。要望という部分では、コンビニを入れて欲しい、展望台から夕日が見たいとの意見が出ました。子育て世代の視点では、小さい子供がいるので、安全な場所にしたい、複雑な建物になっているので、ルート覚えやすくしたいという意見が出ました。僕たちが考えた名称は、様々な最高の意見が出て、その中でも 4 つに絞りました。発案者から説明してもらいます。僕が発案したのは、一番上の「Super Sea Stopper」略称トリエスと、一番下の「Neo 海の家」です。ポリエスは、名前の響きを意識しました。津波の被害を防ぐことができる建物になって欲しいという思いが込められています。「Neo 海の家」はどの時代でも最先端をいって欲しいという思いが込められています。2つめの「TORIDE」の発案者です。土肥の砦として、地元の人たちに来て欲しいという思いと、避難所として第一、避難所の名前に適していて、呼びやすい名前だと思って「TORIDE」にしました。3つめの「海の家ピース」を考えました。海の家という単語なんですけど、海の家はなじみがあって安心できる名前であると思いました。ピースはうれしい時にやるピースサインと平和を英語にしたピースを掛けて、誰もが安心できる場所にしたいという思いで、この名前にしました。	

9 年生 2 班

当日の様子	結果
	
発表内容	
9 年生 2 班では、どのような活用方法ができるのか、色々な視点で考えて、気軽に利用できる場所、イベント会場、季節を感じられる場所として、グランピング、デートスポット、イルミネーション、インスタ映え、BBQ ができたり、流しそうめんをしたり、そういうことができる場所と考えました。そういったことを踏まえて、色々な名前が出て「HAPPY パーク」、「西の都」の意見も全部却下されてしまい、最終的に決まったのは、「サンセットシー」略して「サンシー」です。友達と「今日サンシー行こうぜ」と、気軽に言いやすい名前になっています。土肥には夕日と海があり、サンセットは夕日、シーは海、その2つが含まれています。夕日は明るいというイメージを入れて、明るい気持ちになれることが含まれています。また夕日は観光のものとして、海は防災であり、観光ということから、「サンセットシー」、サンシーになりました。以上です。	

(4) まとめ

・勝呂委員長：皆さんありがとうございました。すごく楽しそうに作っていたので、非常にこちらも良かったと思います。ところどころ、施設の使い方についてはかなり色々な事を期待してくれていて、みんなの意見をもう一回練り直してぶつけてみたいと思います。名前も色々考えてくれて、今度公募にかける時に、是非それを出していただいてもいいんじゃないかなと思います。すごく参考になりました。ありがとうございました。

・静岡大学 原田准教授：今日皆さんありがとうございました。色々な意見を出していただいて、皆さん面白がってやってくれたところもあると思います。面白がってやってくれたことが重要で、面白くないと興味がわきませんよね。来年の春にはできているということなので、皆さんが実際に行って利用する場面があるので、今日実際どんな使い方ができるかなと考えてもらったことは、後1年ぐらいたら実際行って使える場所になります。皆さんの方から色々な意見が出て、自分たちも行ってみたいという思い、友達と一緒に行ってみたいという思いもあると思います。興味をもっていただき、できた時には行ってみて、あの時話をした施設ができたんだなと思っていただいて、加えて、知り合いや友達、家族の人と使って、散歩で行ってみるのもいいかと思っています。色々な使い方が出来ると思いますので、できたら一度と言わず、繰り返し訪れて使ってみるといいと思います。名称に関しても、色々考えて、楽しんで考えてもらえたと思います。いろいろな意見があって、いろいろなアイデアがあって面白いなと思いました。今日ここで出してもらったアイデアもそうですが、正式には、公募があります。皆さんも応募できるような公募があります。その時に、今日考えてくれたことを踏まえて、みなさんがアイデアをいろいろ考えて、公募することができます。公募の中で、みなさんが応募してくれた案が採用されたら、「あれは俺がつけたタワーだ」「私が名前をつけたんだ」ということになるかもしれませんので、そういったことも期待して興味を持っていただければいいと思います。色々な使い方ができる施設になると思いますが、ひとつの要素としては、津波の避難に使えることが重要ですので、利用する際は、津波がきたらここに逃げればいいと理解して使ってもらえるといいのかなと思います。今後土肥のシンボルとなるような場所がまた新しく整備されてきていますので、みなさんも注目して、おうちに帰ったら家族の方とも話をしていただければよいのかなと思います。今日のワークショップも興味を持ってもらえるといいのかなと思います。

以上

25 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会

(1) 開催日時・会場・参加者数

日 時	会 場	参加者
令和5年10月30日(木) 19:00~21:00	土肥支所4階 集会室	土肥地域 居住者・事業者 32名

(2) プログラム

項 目	当日の様子
開会・挨拶（伊豆市） 松原公園津波避難複合施設整備等について ✓ 松原公園津波避難複合施設と公園の整備状況について ✓ 指定管理者の選定結果について ✓ 検討委員会における検討状況について ✓ 施設の名称について ✓ イベントについて ✓ 施設のオープニングイベントについて ✓ 指定管理者【株土肥ノベーション】からの報告 ✓ 駐車場管理利用料金について ✓ 観光防災まちづくりについて	  
コメント ✓ 東京大学 今井教授、 ✓ 静岡大学 原田准教授 ✓ 東京大学 加藤教授	 
閉会（伊豆市）	

(3) 議事内容

1) 挨拶

① 伊豆市産業部長

本日は、“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。こちらの会議ですけれども、前回、1年以上前以来の開催となりますけれども、その間に工事のほうは、複合施設の工事も着々と進められております。公園のほうは、ほぼ完成しているという状況になります。それとともに併せて指定管理者の指定等、そちらにつきましても地元であります土肥ノベーションさんのほうに選定されております。また、施設名につきましては、テラッセオレンジトイというような形で、いろいろ準備が進んでいるというような状況になります。

本日は、今日もこちらの市役所を含めて、指定管理者の皆さん、検討委員会の皆さんから建設工事の進捗ですとか、管理運営の進捗状況、また松原公園駐車場の運営管理について、またイベントの予定等について、報告をさせていただきたいと考えております。松原公園につきましては、これまで市民の皆さんが、主に地元の皆さんが普段使いをしていた公園の場ではあるんですけれども、今回、リニューアルをすることで、観光施設としての意味合いづくりであるとか、また商業施設としては、収益を上げていくというようなところも考えとして必要なかなと思っております。

今日は、皆さんにこのようにご参加いただきまして、施設整備後の土肥地域の観光防災まちづくりをさらに一歩進めるために、皆さまと共に前向きな意見交換になればと思っております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

2) 松原公園津波避難複合施設と公園の整備状況について

① 日本工営

公園のほうは、概ねできているけれども、いま建築が工事をしている中で、その周りの部分が公園との接続部分になります。そこに関しては、まだ接続部分は工事が進められないので、建築のほうが立ち上がったなら、その周りの部分というところは、最終的に接続をしていく状況になっております。

建築工事についてです。ただ今、切れている北側の階段の部分と、津波避難複合施設本体の部分、あと南側のトイレの部分について、それぞれで工事を進めているような状況でございます。

本体については、全て基礎工事のほうは終わりました、本体については鉄骨工事の第1節目が終わっていて、これから第2節目に進むというようなところになっております。

11月中頃以降、鉄骨が立ち上がっているのが徐々に見えてくるかなと思います。

今、北側の階段部分については、基礎、あとコンクリートの打設は終わっているところです。南側トイレ部分についても、今、配筋とコンクリートの打設のほうを進めているようなところになります。部分的に写真を載せております。下の写真が本体になります。真上から見ているものになっていて、四角で見えている所が柱の部分になりま

す。こちらも、もう少し視点を変えた所から見ている写真です。

続いて北側の階段部分になります。周辺を見て、歩いた方は見えているかもしれませんが、北側の階段部分については、今このような形で立ち上がっているような状況になっています。ここから本体の2階の工事が進むとともに、こちらのほうが接続されていく形になっています。下のほうが近くで見た写真になります。

この写真は、南側のトイレになります。こちらは配筋の状況の写真ですが、今はコンクリートの打設をしているような状況になっております。

最後に、ただ今の工事規制の範囲をお示ししております。松原公園の北側の駐車場の部分と工事車両搬入用で敷鉄板を引いている部分、あと本体の工事と公園の工事の一部分については、今、規制のほうをかせかせていただいております、赤枠が入れないエリアになっています。それ以外については入れますので、機会ありましたら見ていただければと思います。海側のほうについても工事車両の搬入用仮設道路のほうを敷設し、圧接しています。公園と海の間の歩道については、今、歩ける状況にはなっていますが、これから鉄骨の搬入、そして上階の工事が始まるに伴いまして、一部侵入が不可な期間が出てきますので、ご注意くださいかなと思います。

② 東京大学 国枝氏

工事は着々と進んでおりまして、ちょっとずつ進めている階段のほうに今日登ってみたんですけど、この階段を上ったレベルが、2階のちょうど床レベルになりまして、もう既にかなり完成し、かなり気持ちいい場所になっています。今、公園の松林も量とか葉の光の感じとかをきれいに調整してもらったので、松林を歩くと気候的にもいい環境になっています。さらにこの上に、鉄骨の建物ができて、そこからさらに夕日を望めることになるので、さらにいい環境がこの上にまた作られるということになりますので、期待いただければと思います。

③ 日本工営

公園のほうは、概ねできているけれども、いま建築が工事をしていの中で、その周りの部分が公園との接続部分になります。そこに関しては、まだ接続部分は工事が進められないので、建築のほうが立ち上がったなら、その周りの部分というところは、最終的に接続をしていく状況になっております。

④ 東京大学 国枝

(動画を見せながら) 基本的には松林を避けて、大きい木が生えている所は避けているので、斜めになる形ができています。公園側から6メートルの幅の貫通路があって、その左右に、テナントさんで飲食店と物販が両方あります。その囲まれた間を歩いて海のほうへ段差なしで真っすぐ行けるように考えています。今、堤防がありますが、そこまでは段差なしで行って、そこから大きい階段が海からつながっていますので、これで2階に行けます。今日、僕が階段を上ったのはこのレベルで、このような高さから海が見えます。基本的に海からの眺望を最優先で、できるだけ建物は存在感なく、ガラスで海がばっちり見えるように設計しています。これは3階の飲食店の内装の様子です。海が見えるようなカウンターも今検討しています。3階から上がってきて、

これは屋上のテラスです。ただの展望テラスだけではなくて、実際に飲食ができるような所を考えています。こちらは夜の状況です。もちろん地震・津波は夜にも襲ってくる可能性があります。最低限外から見るとともに魅力的なものにしたいと考えているので、外からでも映えるし、中に入っても使いやすいような照明計画を検討しています。

3) 指定管理者の選定結果について

① 伊豆市観光商工課

私から指定管理者の選定についてご報告いたします。指定管理者の選定につきましては、指定管理の在り方を基に公募要項を作成いたしまして、2月13日から4月4日にかけて公募を実施しました。その後、4月6日に提出された書類を1次審査という形で審査しまして、1次審査通過の候補者を決定しました。その後、4月26日に2次審査として、伊豆市の指定管理者審査会というところで、プレゼンテーションによる審査を行い、指定管理候補者を決定しました。その後、6月29日に伊豆市議会で指定管理者の指定についての議決を得て、こちらにありますように、株式会社土肥ノベーション様が指定管理者に決定しました。本日、土肥ノベーション様にもお越しいただいているので、ここで一言、ごあいさついただきたいと思います。

② 株式会社土肥ノベーション

土肥ノベーションという会社ですが、分からない方もいらっしゃるかもしれませんので、あらためまして説明させていただきます。株式会社土肥ノベーションは、土肥温泉旅館協同組合という認可団体が100パーセント出資をしている会社です。土肥温泉旅館協同組合は認可団体ですので、しっかりとした法人格ではありますが、これをあえて株式会社化して、この事業運営に携わらせていただきたいというところです。これには、いろいろな理由があり、この株式会社を立ち上げたんですが、名前は土肥をイノベーションするという強い思いからです。この経済構造を改革して、ぜひこの土肥をもう少し強い経済の風を吹かせて、土肥の経済的な生産性を持った場所として、この松原公園に一つ重点を置きたいと考えています。

年間約35万人の宿泊客が土肥は泊まられている中で、流動観光人員は年間約100万人というよう

に推計されております。かなりの数のお客さまがこの土肥地区にお見えになられているということです。ぜひとも、こうした新しいスポットを1人でも多くの観光客の皆さまに周知していただいて、土肥の経済活性に大いに寄与したいと考えています。株式会社土肥ノベーションということで、株式の増資、あるいはこれに応援していただく一般人の方、任意団体・認可団体の方に、たくさん声を掛けさせていただいて、増資をしてまいりたいと考えていますので、ぜひとも皆さまのご教示・ご協力をいただければと思います。

4) 検討委員会における検討状況について

① 勝呂委員長

何度も説明をさせていただいており、くどいようですが、もう一度おさらいから入らせていただきます。まず本検討委員会を立ち上げた目的は、津波避難タワーの整備ということで、そこに商業施設を組み合わせたものができます。公園も一部改修をする中で、われわれ地域住民が、避難タワーについて、商業目的も組み合わせたその思いを設計者に確実に伝える、それが1番重要ではないかと思って立ち上げています。それに向けては津波避難施設をどう使いたいか、先ほど土肥ノベーションさんが説明したように魅力をどう伝えるか、公園はどうあってほしいか、公園に訪れた人をどうもてなすか、そういった観点で議論を重ねていこうということで立ち上げています。あともう一つ、松原公園津波避難施設の整備の情報をみんなでリアルタイムに共有したいという思いがあります。

そういった思いがあるので、委員を選定するところで、主に地域住民の方、あと屋形区長さん、あとは商工会関係・漁業関係・農業関係・観光事業者・観光業界等の関係メンバーで構成して、概ね商業関係と住民のバランスも半々ぐらいで、非常にバランスが取れた委員会としています。

主な検討経緯ですけれども、1番最初のほうにある令和2年11月は、本検討委員会の前身という形で、避難タワーの位置を決める検討委員会がありました。令和3年3月に建設位置が決定しまして、その後、われわれの検討委員会が立ち上がっています。第1回から第5回までは、公園の在り方、施設の在り方について、どんな在り方がいいのかということについて議論をし、優先順位を付けました。第6回から8回までは、こちらでは設計がもう決まり、その設計内容や管理・運営の検討状況を確認しました。令和4年3月には、実施設計の業務が完了し、昨年4月に市民集会にて決定しました。その後、第9回から13回においては、工事の進捗状況に関するリアルタイムでの共有、施設の名称を決めるということで、名称の選考委員会の立ち上げ、今後も津波避難施設をPRしてみんなに浸透させていくための関連イベントの検討を行う、イベントの検討部会の立ち上げをしています。

令和5年10月、本日はここで、工事の進捗内容や施設の名称について、今後説明を加えながら、報告していきます。あとイベントの情報を共有させていただきたいと思います。

次に、公園のコンセプトですが、これも第1回目ぐらいから常に皆さんにお伝えしていましたが、観光利用者も含めて、土肥の皆さんが普段から使えるような公園であって、楽しい広場にしよう。海への眺望、マツ、サクラをメインとした景観、特にマツを大切にしながら公園を再構築しよう。3番目に土肥地区全体の魅力を高める施設にしてほしい。そういうコンセプトがあります。

津波避難施設の整備方針としては、平常時の活用ができ、いざ災害が起こったときにも皆さんが集中して安全性が高まる、そういったものを目指す。さらに、松原の風景を大事にし、これを生かした新しい地域の景観を作る。そして、安全・安心に向けて、きめ細かい配慮がなされた施設を造る。そういう整備方針で行います。

整備の在り方のまとめですが、令和4年4月26日時点では、実施設計を取りまとめて、公園および津波避難施設の着工が決定され進行していましたが、さらに検討していく事項がありました。周辺施設との連携、公園と連携した周辺施設の整備や公園との関わり方。いま地場産品販売所である『ありがとう』をどうするか、粋松亭さん前の広場・海の前の空間を検討すべきではないかということが挙がっています。

あと一番下に、地域防災力の向上ということで、施設への避難、施設への避難訓練による検証、避難後の安全確保、観光客を含めた避難所への避難誘導、避難所の運営支援、この辺が課題として残されています。もう一つ、真ん中に赤い枠で囲われているように、地域の活性化も一つの大きな課題です。これは地域と一体となった公園の活用方法、イベントとの連携強化、地域住民が参加した公園・施設の活用方法、施設名称の選定、公園サインのデザイン検討についてです。特に赤字になっている所は、今進行してまして、これから発表となるところです。

先ほど説明したとおり、それに向けて、名称選考部会、イベント検討部会が立ち上がり、既に名称は決まり、イベントも現在進行形です。名称選考部会のほうは、伊豆市さんから発表と経緯等も簡単に説明していただければと思います。

5) 施設の名称について

① 伊豆市観光商工課

名称について報告します。この津波避難複合施設が土肥地域の新たなシンボルとなるっという意味をイメージしていただきながら、訪れる多くの方々に親しみを持っていたき土肥地域の持続性や安心・安全に寄与する施設であり続けることが伝わるような名称ということで募集しました。それらを満たす要件として5つ設定させていただいておりまして、分かりやすく親しみを持っていだけけるようなもの。観光と防災への取り組みが分かるようなもの。地域に似合い、行ってみたいと思われるようなもの。前向きな気持ちになれるようなもの。将来の土肥地域への期待が持てるようなものという要件を満たすというところで、選考のほうを進めました。

名称選考部会としては、こちらの5名の方のご協力を得ながら、先生方とも一緒に審議のほうを進めました。決定までの流れですが、まず6月1日から名称の公募を始め、全国各地から全207件の応募をいただきました。7月7日に1次審査として、名称選考部会の先生方により候補の絞り込みを行い、候補13案を絞り込みました。その後、7月18日からこの13案の候補に対し、地域の皆さまや外から来られた方々に、QRコードやパネルにシールを貼るなどで投票をいただきました。投票数については、453票でした。8月9日に2次審査として、この投票結果を踏まえ名称選考部会で協議を行い、名称が決定されたという流れです。次のページは、選考の様子を示したものです。

名称については、テラッセオレンジトイということで決定しました。なお、下に記載がある原案『オレンジテラス toi』については、2次審査において首位でしたが、この名前と同じ名称の飲食店が存在することが判明しました。作者の小石さんの名称に込

めた思いを損なわないように、部会のメンバーと先生方により審議し、補作により上記名称で決定として、テラッセオレンジトイというような名称に決定しました。名称に込めた思いについては、テラッセという部分は絶景を楽しめるテラス、これはフランス語のテラスになります。2番として、災害時には灯台のように生命を守り照らせる。そして3番目として、伊豆市の観光や未来を照らせる。また、ひらがな表記の『てらっせ』には、土肥の方言『こらっしゃー』や『おいでらっしゃー』という響きと似ていて、土肥にいらっしゃいという意味も込めて、地元の方にも親しまれるようにということで、作者の方が考えてくださいました。オレンジについても、土肥の海に映る美しい夕日、そして全国初のオレンジゾーンによる施設である。そして名産のミカンから温かいイメージというところ。そしてトイについては、土肥という地名もありますが、ヨーロッパの『toi toi toi』というおまじないで、幸運を祈る、応援の意味ということがあるそうです。作者の小石さんから、資料の右にあるようなコメントをいただきました。審査の中でも、名称はもちろんですが、この名称に込めた思いが素晴らしいというようなご意見をいただきました。

名称の発表ということで、9月19日の定例記者会見で名称の発表をさせていただきました。発表に併せて、伊豆市長から原案作者の小石さんにお礼の品ということでギフトの贈呈を行いました。左下がそのときの写真です。こちらは、各社の新聞記事、ネット記事、テレビの県内ニュースでも取り上げていただきました。この決定したテラッセオレンジトイという名称が、地域の皆さまに親しまれて愛されるようなものになっていていただきたいなというふうに考えています。

6) イベントについて

① 検討委員会委員 潮木氏

先ほども紹介がありましたが、イベント検討部会は、検討委員会等のメンバーと指定管理者も入っていただいて、イベントを考えていくという組織です。実施方針としては、イベント検討部会のメンバー間で共通の目的意識等を持って、土肥地域の活性化や安全・安心につながるプレとオープニングイベントを考えていきます。目的としては、土肥地域の皆さん誰もがこのタワーのことを知ってもらえる、説明できる、また整備後も地域の活性化や安全・安心につながって、魅力的である場所になることをとしています。

オープニングイベントと整備前イベントは、もう2、3個考えていますが、一つは既に9月に終わりました。また後でご説明いたします。実施方針の2ですが、日常的に利用してもらい、観光振興から災害時の適切な行動に繋がるように、一般の方々や土肥の市民の方々がこちらのテラッセオレンジトイを知って、皆さんに紹介していただけるような形を取りたいと思います。子どもたちにも遊具等で遊ぶ場所となって、愛着を持って使ってもらい、周辺の方とも理解を持って分かりあえたらいいと思います。あと観光客の方ですね。こちらは安全であるということで、来訪、そしてリピートを目的として進めていきたいです。視察としては、日本初の津波避難複合施設というこ

とで、全国的に注目を集める場所になると思いますので、そちらも力を入れて進めていきたいと思っています。留意事項としては、ただ今工事中ですので、工事への影響や指定管理者さんとの連携にあたって、収益性も考えながらイベントに係る資材も最小限となるように配慮しています。

イベント検討部会は、第1回目が6月16日に始まり、10月26日まで7回実施しています。中ではイベントに対する話や仕掛けに関して、毎回話を進めています。11月5日には津波防災の日のイベントも控えています。先ほどもう一つ終わっていると言いましたイベントですが、工事見学会を9月25日に行いました。とても天気がいい日で、一般の住民の方にも当日参加という形で参加していただきました。土肥こども園さんには、この日だけということで遊具の体験と花時計の中央にお花を植えていただくようなイベントを実施しました。土肥地域の方々に向けては、工事の状況やタワー内部での重機等の説明や質疑応答をしました。

土肥小中一貫校に向けては、一般の方と同じように、タワーでの重機の見学、タワーの内部の見学、遊具の見学、画像による工事説明を、4パターン4組に分かれて、それぞれローテーションして回りながら見ていただきました。そこでは、クイズラリーも実施し、こちらのレイアウトの中に赤い星が付いていますが、そちらの場所で、冊子の中にある質問を、名称のことであるとか、津波のことであるとか、そういうものをクリアしながら進めました。

最後には、ドローンで子どもたちとタワーの記念写真を撮ることになっていて、中で撮れることもめったにないので、いい記念になるのではないかと考えております。このクイズラリーで使いました冊子ですが、中にはハザードマップ、タワーの情報、津波のことなど、いろいろ書いてありますので、次の防災の日のイベントでも一般の方にも分けて見ていただけるようにしたいと思っています。

次に11月5日津波防災の日のイベントです。こちらはもうすぐに控えています。こちらの日は、避難訓練と防災イベントの2本立てでやっていくようになっています。午前中が避難訓練で、屋形区民の方に参加いただいて、9時に地震発生と大津波警報が発令され、安全を確認した後、避難という形で、9時45分までに避難訓練は終わるような形です。

そして防災イベントですが、10時から始まり、オープニングは伊豆総合高校の太鼓で始まります。土肥ノベーションさんの全長18.8メートルの名産品の試食会なども予定しています。通しのイベントとしては、陸上自衛隊の方にも協力いただきまして、災害車両の展示や炊き出しを行っていただき、カレーも作っていただく予定です。あとは東日本大震災の活動の啓発展示も予定しています。また、タワーの工事の状況説明や、ふじのくに消防防災業協会さんが防災グッズの展示もしますので、防災に役立つものが見られると思います。そしてキッチンカーは常時オープンしている形です。他には、パトカーの展示による交通安全・防犯啓発、防災クイズ展示やLINEの防災アプリの説明等があります。

レイアウトですが、周りをイベントで囲み、真ん中で休憩したり、食事を取ったりでき

るような形を取っています。一般の来場者の駐車場は、いつもどおりありますが、たくさんの方がいらっしゃったときに、土肥金山にもご協力いただき、そちらの駐車場も借りられることになっています。

② 日本工営（司会）

補足いただきたいのですが、11 時半からの防災イベントで、全長 18.8 メートルって書いてありますが、これはなにかの意味があるのですか。

③ 検討委員会委員 潮木氏

こちら、タワーの高さになっておりますので、18.8 メートルの高さのタワーできるといことで、こちらに関連してのイベントで楽しいものを考えました。

④ 日本工営（司会）

今回名称の検討に参加された方から一言いただければと思います。

⑤ 検討委員会委員 青木氏

最終的に土肥のお母さんが付けた名前ということでした。全国から名称が寄せられていたにもかかわらず忸度なく最終的に残ったものが土肥の方が付けてくださった名前でした。それがうれしく思いました。名前が決まった理由は意味でした。本当に何度読んでも素晴らしい意味だなと思います。観光客の方だけじゃなくて、土肥の方にも向けられたというメッセージがあるので、みんなで盛り上げていこうということで、本当に素晴らしく、名前もすてきだなと思っています。本当に名前が付いてよかったと思しました。

⑥ 東京大学 加藤先生

すごくいい名前だと思っています。最初はオレンジテラスだったのですが、これが原案で、他にもいい候補いろいろある中で、これがトップでした。この名前にしようかということだったのですが、オレンジテラスっていう飲食店があった。それでこの意味を生かしながら、それとかぶらないように、この名称になったということです。さらに、テラスというフランス語にしたことで、土肥の方言とも重なり、さらに意味が深くなった。原案プラスさまざまなその後の議論でとてもいい名前になったというふうに思います。

ここに書いてある込めた思いというのは、展示できそうな内容だと思いますので、ぜひ、これを忘れないように、きちんとみんなに知っていただけるような状態にするといいと、あらためてこの文章を見て思いました。

あとは、先ほどの 18.8 メートルですが、18.8 メートルは施設の高さです。想定されている津波の高さは、11、12 メートル大体それぐらいで、18.8 メートルよりかは当然、低いわけです。その数字、両方覚えておくといいいかもしれません。あと気にな

ったのが、18.8 メートル土肥の名産品試食会には、僕もぜひ行きたいなと思っています。全体の説明が終わりましたので、あまり検討委員会とか関与されてなかった、ごく一般の住民の方に総括コメントをしてもらいましょうか。

⑦ 参加者①

津波避難タワー兼商業施設は、全国的にも初めての取組みというところで非常に期待しています。個人的には、土肥地区の観光業に対する起爆剤になり、人をたくさん呼べる施設になってほしいと感じています。これからイベントもいろいろ企画されることから、そういったものにも参加しながら、地域で盛り上げていければなと思います。

⑧ 東京大学 加藤先生

補足的に説明すると、この全国初の観光にも使える避難複合施設ができた背景は、2015年から観光防災まちづくりということで、みんなで考える会を積み重ねていって、オレンジゾーンと通称いわれている津波災害特別警戒区域という非常に怖い名前の区域指定に、あえて一番乗りで土肥が手を挙げました。一番乗りするメリットって全くないじゃないかという声もある中、何かあるに違いないということで進めた結果、国もいろんな後押しをしてくださり、この津波避難複合施設というものが完成に至りました。ですから、ここに集まった人たちの議論の積み重ねの結果で得られたものであると、皆さんの努力の結果で得られたものであるということです。

これができると何がいいかというと、今、土肥の町は、年間 100 人ぐらいつつ人口が減っています。2015 年に土肥でこうした議論を始めたときには 3700 人ぐらいいたと思いますが、今は 3300 人とか 3200 人とか、それぐらいです。このペースで減ってくと、30 年後には人口がゼロになって、ついては津波による人的被害もゼロになってしまうという変なことが起きます。

この津波避難複合施設ができることにより、地域の持続性も高まります。先ほど、土肥ノベーションの方が経済の起爆剤にするという話もありましたが、この施設を起爆剤として、地域経済を盛り上げて、人口減にも歯止めをかけて、きちんと 30 年以内に 70 パーセントの確率で来るであろう津波を難なく乗り越えていく、この地域の存続もしながら津波にも強くしていく、この二つの目的を持った施設であるということです。ですから、みんなで獲得した素晴らしい施設ですので、この先何十年もみんなで育てていけるといいかなと思いました。

7) 施設のオープニングイベントについて

① 日本工営（司会）

この後、行われていくイベントとして、令和 6 年にこの施設がオープンします。オープンに向けて、オープンで行うイベントに関して、皆さんからアイデアをできれば出し

ていただきたいです。こんなことができるのではないかとこのところ、ご協力をいただければと思います。

(ワーク・休憩後)

② 日本工営（司会）

こちらの結果はイベント検討部会さんのほうにお渡ししたいと思います。大きく分けると、体験系のイベント、飲食系のイベントと、あと防災・地域文化と特化したもの、書いてはいろいろと出していただいたと思います。体験系でいくと、プロジェクションマッピングやライブ、パラグライダーだとか、屋上から海に向かって人が飛ぶような、バンジージャンプとかでした。あとイベント系だと、クーポン系のクイズラリーやったらどうかという話があります。食べ物だと、ラーメン、お肉、お菓子みたいな、そういった感じです。防災系では、防災川柳や避難訓練、VRでの体験、防災関係者の参加呼び掛け、タワー最上階までのタイムを競うようなイベントなどが挙がっています。他には防災漫才や避難タワーが見える風景写真のスタンプラリーがあります。タワーをそのものというより、その周り使うというアイデアで面白いと思います。あとは、ギネス系の記録に挑戦してみたらどうかということと、夕日を考える会というものをやってもいいのではないかと、景色が良くなるのでということだと思いました。あと土肥のフラダンスグループの発表など、地域の文化系の催しがありました。地元の飲食店の出店、サザエを拾うイベント、地元の名産品コンテスト、網引きの歌など昔からの歌を歌う、などいただきました。まとめさせてもらい、イベント検討部会にお渡ししたいと思います。皆さん、ご協力ありがとうございました。

8) 指定管理者【㈱土肥ノベーション】からの報告

① 土肥ノベーション

指定管理業務を受託しております土肥ノベーションと申します。資料に基づきまして、商業施設運営について、ご説明します。まず3階です。こちらは、地元、伊豆漁協の土肥支所さんに委託する予定です。メニューとしては、キンメダイをメインとしたメニュー構成で、極金目という、キンメの中でもクラスが一つ上のものを使い、キンメ料理を中心として運営をしていきたいと考えています。営業時間ですが、11時～15時と、準備時間を挟みまして、17時～22時とします。この22時という時間設定については、現状の旅館さんでは夕食なしで朝食だけのお客さんもあり出ている、その方の夕食を受け入れるために、このような時間設定をしています。夕食に関しては、完全予約制で、旅館さんの料理まではいかないですが、それに近いものを出したいと考えています。

1階の海に向かって右側のほうにある所ですが、そちらはファストフードです。委託先が大木乳業株式会社さんを予定しています。営業時間が10時～午後7時までという

ことで、夏については延長も考えています。想定スタッフは、店長 1 名、店員を 1 ～3 名として、メニューとして、フレッシュジュース・牛乳・ソフトクリーム・バーガー類・黄身だけプリンをメインとしています。

続きまして、1 階の海に向かって左側の施設に、土肥特産市『ありがとう』、これは土肥温泉旅館協同組合に委託を考えています。今までだと、魚介類販売業の許可が水の関係等で取れなかったですが、今後、こちらに移動した際には、魚介類販売業の許可を取りますので、今後、釣り人が釣った魚等も販売することができます。幅広く魚の販売等も考えていきたいと思えます。また、酒販の免許も取る予定ですので、お酒も販売できるということで進んでいます。想定の販売品としては、地元の野菜・漬物類・地元の魚介類・干物・お酒・ドリンク・お土産品ということで考えています。載っている写真については、全てイメージですが、漁協については、これとほぼ同じメニューが出ると思えます。

9) 駐車場管理利用料金について

① 伊豆市危機管理課

伊豆市、指定管理者土肥ノベーションからのお知らせということで、施設整備後の松原公園の駐車場管理、利用料金について、説明します。施設整備後の駐車場管理・駐車料金につきましては、指定管理者の指定議決の際に、伊豆市議会の議員の皆さまからのご意見をいただいています。そちらが市民利用の利便性の確保について、運用と料金徴収に最大限の配慮を求めるという意見をいただいています。こちらも踏まえて、6 月末から収益性の部分と住民の皆さまの利便性確保に最大限配慮しながら、市と土肥ノベーションによる協議を重ね、さらに検討委員会の中でも意見交換を行い、こちらの資料にあるとおりに運用する予定でありますので、本日、ご報告します。

まず一つ目のポツですが、現状、公園の駐車場には、週末を中心に夜間の駐車とか車中泊が多く見受けられまして、施設の整備後は、さらなる増加が予想されます。地域の防犯・治安の観点から、一定の秩序を守るという目的のために、機械式ゲートを設置し、料金徴収を予定しています。こちら通年での有料化を考えています。続いて、二つ目のポツですが、住民の皆さまの利便性確保のため、最初の 2 時間は無料と考えています。2 時間以降の料金徴収については、三つ目の四角ポツのとおり、時期によって料金の設定を変えることを考えており、7 月～8 月の夏場の期間については、1 日 1 回 1200 円、夏場以外の期間については、1 時間 300 円、上限を 1200 円と考えています。

最後に、一番下に、簡単な Q&A を示しております。夏場のシーズンも最初の 2 時間は無料なのかということでは、年間を通じて 2 時間無料は同じということで記載しております。夜間を通じて、一晩泊めた場合はどうなるかということでは、1200 円・1200 円で 2400 円となりますということで記載しています。そして、検討委員会の中でも質問いただきましたが、イベント時の利用料金はどうなるのかということについては、こうした地域の振興に寄与するようなイベントのときには無料とするこ

とを考えていますということで記載しています。

10) 観光防災まちづくりについて

① 日本工営

観光防災まちづくりについて、先ほども加藤先生のお話にもありましたとおり、そもそもこの地域は、なぜ津波避難複合施設が成果に至ったのかのおおもととして、観光防災まちづくりを地域の皆さんに頑張って進めていただいたということがあります。最近の動き、取り組み状況を紹介したいと思います。

まず一つ目が、地域と連携して実施する防災教育ということで、2017年から当時は土肥中学校でしたが今は小中一貫校になりまして、小中一貫校に、観光防災まちづくりの防災教育を進めています。特徴としては、地域の方や防災の専門家をお呼びして、講義を行い、生徒の皆さんに考えてもらえるようなワーキングを入れてやっています。今年の様子を写真で入れています。専門家として原田先生に、津波浸水想定 of 解説などもしていただきました。また、勝呂委員長にも、観光防災まちづくりの取組みを講義いただきました。小中一貫校の生徒には、グループになってもらい、津波複合施設の名称を皆さんで考えてみようということで、いろんなアイデアを出していただきました。こうした取り組みを毎年この土肥地域で行っています。

次は、IT を活用した津波避難訓練ということで、地震発生から津波が到達するまでに円滑な避難をしていただくために、一部の地域で津波の状況が分かるビーコンというセンサー機械で記録するように、左上にあるタグを持っていたいて、避難訓練をしていただきました。これを持っていると、センサーに反応し、どこを通ったか分かるというものです。次のページに写真を入れています。これまでに大藪区で2回、屋形区で1回、こうしたITを活用した訓練を行っています。この写真自体は、令和5年3月に屋形区で行った訓練の様子です。皆さんにこども園の避難タワーの屋上や小中一貫校のグラウンドの脇の所まで避難していただいている様子です。これを使って何が分かるのかというと、実際に安全なルートを通して避難することができたかということや、避難でどれぐらいの時間がかかったのかということが分かります。土肥地域に津波が何分で到達するのかということですが、地震発生から6分で、その後に揺れが来るので、実際には3分程度しか避難時間はないというところが、土肥の今の津波浸水の現状です。6分間のラインで切ってみると、6分以上かかっている人はこれぐらいです、実際には6分よりも短い時間ですが、6分でどれぐらい逃げることができたかということ、右側で示しているように、実際に通ったルートが分かるので、こういった道よく使っているということが分かります。この道は意外と狭いということ、その後の皆さんのワーキング、考える会で確認していただいたりしています。これを大藪区では2回開催させていただきました。左側が避難の速度、右側は避難の時間を示していますが、避難の速度でいくと、ぐっとグラフが上に上がっています。歩く速さが、前の年よりも翌年やった結果のほうが早い時間で避難するように、少し意識が変わったということが分かります。先ほど言った6分で間に合っていないと

いう情報を出しているところもあり、そういう動きが見えたかなと思います。

全部が全部うまくいっている、必ずしもうまくいくわけではないですが、黒くなっている所が間に合っていない人たちの割合です。実は増えている所もあるが、大きく減っている所も見られるというところで、実際にどれぐらい間に合っているのかというところが場所によって変わります。

ただ、参加者が増えている、実際に全体的には解析に至っていないところもあります。全く行っていない避難所にも避難し始めたところです。今、何となく間に合うかな、間に合わないかなと分からない状態でやっているものが、しっかりと分かるようになるというところが一つ大きいと思います。

次は、高齢者の避難ということが各地区の悩みの種ということで、解決するための一つの方向性として、電動車いすです。大藪区では、セニアカーを使った避難訓練を実際に行いました。スズキ自動車に協力をいただき、実際にセニアカーを持ってきてもらい、避難道で実際に皆さんに乗ってもらいました。どの辺がセニアカーを使っている危険いかも確認できますし、実際にこういうものを使って避難するのはどうなのかを考えるきっかけになるかなということで、令和4年3月に実施しました。いろいろとITなどの新しいものを使って、土肥地域が頑張っているところを見える化しています。実際にそういうことができる環境になっていますので、そういった意識を持っていればと思います。

こうした意識を持っていた上で、地区の取組みとして行動にどのように移していくのかということにも一つ動きがあり、この土肥地域の中で最初に始めたのが、がんばる“地域宣言”です。19の団体や地区の方々から集めて、地区ごとに防災に関するスローガンを作っていただいています。これはもう既に作っていただいている状態です。

これに対して実際に松原区や八木沢地区の方がルールを作ったり、マニュアルを作ったりするという形で、地区のルールとして、形として示す方法で地区防災計画というものがあります。この地区防災計画というものも、今、各地区で作成が進んでいるというところで、今は5団体が賛同して作られているという状況です。

具体的にどんなものかという、できるだけ簡単に示すことをイメージしながら作っており、計画面とマップ、この二つだけで構成をしているものです。計画面の特徴としては、左上にがんばる宣言の内容が書かれていて、左側は普段やっておくこと、右側は災害が起こったときに地域でどういうふうに動くかということが載っています。

左側は、がんばる宣言を元に作成していますが、普段やっておくべきことはなんだろうかというものを、青いほうで書いていて、オレンジのほうで、いざというときにどうしたらいいかということを考えたり、実際にそのときにどういう動きをしたらいいかということ、地区ごとに考えていただいて、この中身を決めています。右上に小さい写真を載せていますが、皆さんで集まっていただいて、このフォームをこういうふううちの地区は変えたい、こういうこともやれるのではないかな、みたいなことを考えて作っていただきました。

ちなみに、この計画は、屋形区で検討いただいたもので、屋形区では防災体制をしっかりしたいということが皆さんの思いとしてあったので、誰が何をやるのかというところを計画に追加しています。次のページにありますように、マップ面では、先ほどのビーコンを使った避難訓練の中で、この道よく通るというところが見えてきたところで、特にこの交差点部分は危ないというところが具体的に分かったということ、あとはよく通る道の中で非常に道が狭くて危ない所の確認をしたことで、屋形区ではこの部分も気を付けようというように、このマップを皆さんのほうで改善いただきました。こうした形で地区防災計画を実際に作っていただきました。今回屋形区長さんが来ていただいているので、実際に作ったときの感想や今思われる課題があれば、感想いただければと思います。

② 屋形区長 梅木氏

今回、屋形区で地区防災計画を作成するにあたり、今年2月に地区の皆さんに防災を考える会を開催して、皆さんに意見をいただきました。そこでは、課題を挙げていただいて、それらの課題に対して、どのような取組みを行っていくかということを出していただきました。意見もたくさん出まして、屋形地区地震・津波がんばる宣言として、『6分以内の確実な避難ができるよう訓練し、個人と地区の備え・体制を強化します！』というスローガンを作成させていただきました。そのために、地域では高齢者や障害のある方を含め、それぞれに合った避難方法を考える、個人の備蓄や地区の防災倉庫を充実させる、災害時に地域で必要な対応を知り体制を考える、といった意見を出していただきました。

それらについて、いざという日に備える地域の取組みとして、ルール作りもしています。自力で避難できる方は大丈夫ですが、やはり高齢の方や障害のある方がいるので、避難に支援が必要な方は、共存・共栄して声掛けをしながら避難していくという取組みが必要かと思われます。屋形区では、今まで防災意識がなかなか低かったものですから、今後、市の人の意見や力を借りて、来週5日の日曜日には、また訓練もありますので、しっかりと取組みに生かしていければと思っています。

③ 日本工営

ありがとうございました。今、発表いただいた中で、実は全部が全部まだできていません。というのは、地区の検討スピードというのがあり、できた所にどんどん追加していくという形で、徐々にできていくものでもいいかと思い、そういう形にしています。ただ、何ができていないのかということは具体的に明記しておくということで、整理をして作られています。

1 1) コメント

① 東京大学 今井先生

最初のほうで、国枝さんが説明してくれたと思いますが、建物はだいぶできてきていま

す。何とか本年度中に完成させようとして、土肥ノベーションからおいしそうな海鮮丼の紹介とどんなお店になるかという紹介もあって、だんだん具体的なイメージが出来上がりつつあります。

ここから運用をどうしていくかという非常に大事な局面です。絶対にいい施設にしないといけないという意味で、これは皆さんに協力していただかないといけません。もちろん商業的な意味もありますが、最後には防災の計画が徐々に整備されてきて、防災的にどう運用するかという話と、観光施設としての意味合いを持って、みんなの施設にしていくという、これが融合して初めていい施設になりますので、ここからみんなでつくっていくということを強力に進めていきたい、進めていただければと思っています。工事は今のところ順調です。建物の出来もいいと思います。最後まで気を抜かずにこちらも頑張りますし、皆さんにも協力していただいて、いいものにしていきたい、していければと思っています。

② 原田副会長

静岡大学の原田です。いろんな会が何回も続いて今の状態になっています。名前がいろいろありますが、津波防災地域づくり推進協議会という会では、私が副会長で、加藤先生が会長というような感じで、大学から来た学術関係の人という位置付けです。今日は久しぶりの市民集会ということで、確か1年半ぐらいぶりに、この会が開かれるということだったと思います。1年半前のことを思い返してみると、確か隣の旧土肥小学校の体育館で皆さんに集まっていたいて、今井先生に設計していただいた施設の模型を皆さんで見ながら、いろいろお話があったところかと思っています。

そこから1年半がたって、今日の段階になると、工事も始まり、基礎ができて、階段も立ち上がってきているといった状況で、いろいろと着実に進んできているところかと思っています。今日の会は、市民集会といっていますが、次第をちゃんと見ると、伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会という会です。『みんなで』というところが非常に重要かと私は思っていて、地域住民の皆さんがもちろん入りますし、今回、施設ができるにあたって、地元の皆さんが頑張っているいろいろな検討をする中で、土肥ノベーションさんという地元の方から手を挙げていただいて、積極的に関わっていくといったことも始まってきたかと思っています。

地元の中でいろいろな活動をされている方々でイベントをさらに企画されて、土肥の中にいろいろな取組みが活発になってきている状況が、また進んできているところかと思っています。さらに『みんなで』という中には、住民の方もいれば、住民以外で関わっている方もいらっしゃると思います。いろいろな関係者がいると思います。今日もいろいろな方がいろいろなお立場で参加いただいているかと思っていますので、この『みんなで』というところを、ぜひ今後、広げていくような形で、より盛り上げていくところを考えていけるといいのかと思います。

加えて、このイベント等を考えますと、非常に私としてはわくわくするといえますか、未来に向けて、今後に向けて、土肥がより良くなっていくと感じています。将来に向

けて考える中で土肥の状況としては、この会や施設を造るという前提となっている災害が来るかもしれないというところがあるので、そういったものにしっかりと備えていくところも併せてできるといいかと思います。

その際には、防災というと暗いイメージがあったり、大変だというイメージがあるかもしれませんが、新しい施設ができたり、『みんなで』という中で、いろんな人が関わっていくことがありますので、防災の部分も楽しんでできるといいと思います。ぜひいろいろな方が関わりながら、楽しみながら、土肥のことを考えて、安全な地域になることも一緒に考えていただけたらいいと思いました。

③ 加藤会長

観光防災まちづくり、いい感じで進んできたと思います。ただ、観光でここのところ盛り上がり過ぎている、防災がやや低調だなと思っています。コロナの関係もあったし、どこに施設を建てるかで、地域で侃々諤々の議論があったので、観光に時間を取られて、どうしても防災がおろそかになっているということが正直な感想です。2019年にがんばる地域宣言を全部で19、19ですべての区、それから観光協会とか組織で、がんばる地域宣言をしました。当初予定では、がんばる地域宣言をした後、その19の区・組織が地区防災計画をそれぞれの地域で議論して作り、常に防災に意識を持つような地域社会にしていくということでしたが、現在、出来上がっているのは5個しかありません。なので、残りの14は、低調になっているかなという気がします。先ほど出た屋形区と大藪区は継続的にやっていますので、一定のノウハウがたまっていると思うので、ぜひ隣の区とか、知り合いの区に、こんなことをやったよという経験を伝えて、できる限り早く、この地区防災計画を全ての区・組織でできるように議論を進めていければと思います。

さらに安心できる地域社会にしていくためには、今は逃げるというところに焦点が当たっていますが、多分それだけではないような気がしています。今は一生懸命走って根性で逃げることになっていますが、逃げられる環境づくりというのも必要です。逃げようと思ったら建物が倒れていましたと、時間足りなくてアウトになってしまうので、ちゃんと逃げられる環境をつくっていくということもやらなければいけない。そして、逃げた後、大きな地震で揺れも強いので、国道や北のほうから来る道も、もしかすると寸断されてしまう可能性がある、そうすると逃げた先で頑張って生き延びないといけないわけです。だから逃げた先で生き延びられるような対策も地域社会でこれから考えていかなければいけないと思います。

そして三つ目は、複合施設が出来上がりました。こども園の前にもタワーがあります。山の上にも避難場所があります。そういう所に逃げました。周りは水に浸った状態になるわけです。そこからどうするのか、誰かに助けに来てもらわなければいけない、でも外からは助けに来られないとすると、この土肥地域の中で助けに行かないといけないです。例えば、一貫校に逃げた人たちは浸水しないので、ある程度、自由に動けるわけです。そういう人たちが複合施設まで何らかの方法で行って、連れていかない

といけません。ですから地域社会の土肥の中で助ける仕組みも、次のステップとしては考える必要があるということです。

ですので、観光で盛り上げて地域が強くなる、その力を利用してさらに防災の力も高めていくという展開が待っていますので、ぜひ楽しみながら防災の取り組みもしていきたいと思います。

1 2) 閉会

① 伊豆市危機管理課

ありがとうございました。それでは最後、今後のスケジュールの説明をさせていただきます。今日は 10 月 30 日ということで、この後、先ほど説明がありました 11 月 5 日のプレイベント、津波防災のイベント等があり、年明けに、検討委員会やみんなで考える会、オープンに向けた会を企画していければと思いますので、またよろしくお願いいたします。

複合施設のオープンについては、令和 6 年 4 月のオープンを目指して、現在、進めていますので、ぜひ共有いただければと思います。

以上をもちまして、“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。



伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画
～伊豆市津波防災地域づくり推進計画～
＜第 3.1 版＞

発行 令和 7 年 4 月

伊豆市

〒410-2413 静岡県伊豆市小立野 38-2

Tel 0558(72)1111 Fax 0558(72)6588

URL <http://www.city.izu.shizuoka.jp/>